

資料

- 資料1 生涯学習課 令和2年度事業報告・・・・・・・・・・ P. 1～P. 4
- 資料2 令和2年度 事業別・市町村別実施一覧・・・・・・・・ P. 5
- 資料3 関係各課 令和3年度 年間事業計画
生涯学習課・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 6～P. 9
小中学校課・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 10～P. 15
保健体育課・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 16～P. 18
子ども・子育て支援課・・・・・・・・ P. 19～P. 20
学校安全対策課・・・・・・・・・・ 別添資料
- 資料4 令和3年度 事業別・市町村別実施一覧・・・・・・・・ P. 21
- 資料5 地域学校協働活動推進事業等に関する進捗管理票・ P. 22～P. 23
- 資料6 地域学校協働本部事業に関する取組状況調査まとめ
P. 24～P. 31
- 資料7 放課後子ども教室・児童クラブの取組状況調査まとめ
P. 32～P. 36
- 資料8 学び場人材バンクの現況と課題・・・・・・・・ P. 37～P. 41

令和2年度高知県地域学校協働活動推進委員会及び研修会等実績報告（概要）

1 推進委員会の実施

■第1回

【開催日】令和2年11月18日（水）

【内容】令和元年度実績報告、令和2年度中間報告等

■第2回

【開催日】令和3年2月1日（月）

【内容】令和2年度事業報告（実績見込）、令和3年度事業計画等

2 研修会等

(1) 全体研修会及びブロック別研修会及び地域コーディネーター研修会

■高知県地域学校協働活動研修会（全体研修会）

※コロナ禍のため開催中止

■高知県地域学校協働活動ブロック別研修会

【開催日及び会場】

東部会場：令和3年2月16日（火）高知県立青少年センター
参加者78名 満足度83%中部会場：令和2年11月10日（火）津野町立中央小学校
東津野B&G海洋センター
参加者74名 満足度100%西部会場：令和3年2月12日（金）三原村中央公民館
参加者40名 満足度85%高知市会場：令和3年1月26日（火）高知市たかじょう庁舎
参加者30名 満足度94%

■高知県地域コーディネーター研修会（全3回）

【講演】演題 「これからの地域と学校 -今私たちができること-」

講師 竹原 和泉 代表理事（NPO法人まちと学校のみらい）

【グループによる情報交換】

【ワークショップ】コロナ禍も踏まえ、現在停滞している取組、これから新たに始めてみたい取組について

第1回：令和2年10月19日（月）いの町総合保健福祉センター
（参加者67名、満足度78%）第2回：令和2年10月20日（火）土佐西南大規模公園ふるさと総合センター
（参加者32名、満足度81%）第3回：令和2年11月5日（木）安田町文化センター
（参加者58名、満足度83%）

■高知県社会教育実践交流会（参加者107名、満足度94%）

【開催日】令和3年1月16日（土）

【会場】土佐市複合文化施設つな一で

【内容】◆記念講演① 「過疎発祥のまちが、若者に選ばれるまちへ」

講師 一般社団法人「豊かな暮らしラボラトリー（ユタラボ）」代表理事
檜垣 賢一 氏

◆記念講演② 「地域創生における、社会教育行政の役割」

講師 島根県益田市教育委員会 ひとづくり推進監 大畑 伸幸 氏

◆実践発表 4事例

・松葉川青年団 大崎 弘和 氏、羽方 厚司 氏

「30年ぶりの復活！はじめまして松葉川青年団です♪」

・高知県立大学Pシスターズ 県立大学教授 田中きよむ 氏

「地域と共に考える」

- ・特定非営利活動法人 NPO高知市民会議 井上 将太 氏
「こうちNPOフォーラム2020」
- ・高知新聞高岡西販売所 大崎 健 氏 (土佐市)
「地域訪問活動から始める 青少年育成やご近所福祉」

(2) 放課後子ども教室推進事業及び放課後児童クラブ推進事業に係る支援員等研修

①新・放課後子ども総合プラン推進事業に係る資質向上研修

- ・新型コロナウイルス感染症対策研修 (参加者 108 名、満足度 100.0%)

【開催日及び会場】

東部会場：令和2年10月23日(金) 安田町文化センター
西部会場：令和2年10月27日(火) 宿毛市立中央公民館
中部会場：令和2年10月30日(金) 高知青少年の家

【内 容】

- ◆体験活動：「フェイスシールド作成」
講師：特定非営利活動法人 高知県生涯学習支援センター
学び場人材バンク 片山 博司 氏
- ◆講義：「新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理について」
講師：高知県教育委員会事務局保健体育課
- ◆グループワーク (情報交換)

- ・子どもの発達と発達障害等についての理解を促進するための研修会

(参加者 120 名、満足度 100.0%)

【開催日及び会場】

西中部会場：令和3年1月12日(火) 四万十町農村環境改善センター
東中部会場：令和3年1月28日(木) 県立青少年センター

<追加分>

東中部会場：令和3年2月18日(木) 県立青少年センター

【内 容】

- ◆講義：「子どもたちとうまくかかわるポイント
～好ましい行動を増やす効果的なアプローチについて～」
講師：高知県立療育福祉センター 発達障害者支援センター 野々宮 京子 氏

- ・防災対策研修 (参加者 79 名、満足度 100.0%)

【開催日及び会場】

西中部会場：令和3年2月2日(火) 四万十町農村環境改善センター
東中部会場：令和3年2月9日(火) 県立青少年センター

【内 容】

- ◆講義：「南海トラフ地震の基礎知識」
講師：NPO 法人 日本防災士会高知 井上 隆志 氏
- ◆講義：「応急手当、防災グッズづくり」
講師：NPO 法人 日本防災士会高知 岡本 雅子 氏

②放課後児童支援員認定資格研修 (受講者 95 名、うち修了者 89 名)

【開催日】 令和2年10月25日(日)、11月15日(日)、11月29日(日)、12月6日(日)

【会 場】 高知青少年の家

【目的】「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」(平成26年厚生労働省令第63号)に基づく、児童クラブに従事する放課後児童支援員として、必要最低限の知識及び技能の習得とそれを実践する際の基本的な考え方や心得を認識することを目的とした講義等を、1日あたり4科目(1科目90分)、計4日間、1回実施。

【講師】NPO法人日本放課後児童指導員協会(委託)

③子育て支援員研修 放課後児童コース(受講者18名、うち修了者17名)

【開催日】令和2年12月19日(土)、12月20日(日)

【会場】高知青少年の家

【目的】地域において子育て支援の仕事に関心を持ち、放課後児童クラブ等に従事することを希望する者に対し、多様な子育て支援分野に関して必要となる知識や技能等を修得するため、これらの支援の担い手となる子育て支援員の資質の確保を図ることを目的とした講義等を、1日あたり3科目(1科目90分)、計2日間実施。

【講師】岡山大学 准教授 中山 芳一 氏

④「高知家の親の育ちを応援する学習プログラム」を活用した家庭教育支援を行うファシリテーターフォローアップ研修会(参加者17名)満足度88.8%

【開催日】令和2年9月2日(水)

【会場】高知県立青少年センター 青少年ホール

【内容】『エニアグラム』を学ぶ体験型講演会』

エニアグラム～自分と子どもの気質を学ぼう～

(講師：NPO法人ハートフルコミュニケーション代表理事 菅原 裕子 氏)

「高知家の親の育ちを応援する学習プログラム」を活用した家庭教育支援を行うファシリテーター養成体験研修会(参加者数22名)

【開催日】東部地区：令和2年11月26日(木) 会場：いの町青少年の家

中部地区：令和3年3月19日(金) 会場：青少年センター

西部地区：令和3年3月17日(水) 会場：四万十市民文化センター

⑤「高知家の親の育ちを応援する学習プログラム」を活用した講座

実施回数7回 参加者合計76名 派遣ファシリテーター9名

日時	申込者	対象	人数	内容
7月11日(日)	うららか保育園	保護者・職員	9名	子育てのイライラとうまく付き合う親になろう
8月25日(火)	足摺岬保育園	保護者・職員	10名	子育てのイライラとうまく付き合う親になろう
8月27日(木)	きらら清水保育園	保護者・職員	13名	子育てのイライラとうまく付き合う親になろう
9月9日(水)	いの町地域子育て支援センターぐりぐら広場	保護者・職員	11名	子育ての不易流行を考える
9月16日(水)	三原村子育て支援センターまんま	保護者	12名	子育てのイライラとうまく付き合う親になろう

10月21日(木)	本川へき地保育園	保護者・職員	8名	「対話」の子育てをしまんせんか
11月9日(月)	下ノ加江保育園	保護者・職員	13名	早寝早起き朝ごはんて元気モリモリ作戦

(3) その他

- ・高知県版「地域学校協働本部」への展開に向けた実施校における取組
3要件①充実した地域学校協働活動の実施
 - ②学校と地域との定期的な協議の場の確保
 - ③民生・児童委員の参画による見守り体制の強化
 18市町村72校(小学校47校、中学校25校)
- ・民生委員・児童委員への地域学校協働本部の周知・参画要請
→参画率98.8%(令和2年度地域学校協働本部事業取組状況調査)
- ・県小中学校長会等、社会教育関係団体との協力支援体制の強化により、地域学校協働本部の設置促進と内容の充実を推進
- ・地域学校協働本部事業及び新・放課後子ども総合プラン推進事業(放課後子ども教室、放課後児童クラブ)に関する取組状況調査の実施(9月)
- ・市町村訪問等
 - 地域学校協働本部関係ヒアリング(10/27~12/4、33市町村1学校組合)
 - 放課後子ども教室及び放課後児童クラブ関係ヒアリング(8/25~10/7 全市町村)
- ・高知県公民館連絡協議会
 - 総会及び第1回研修会(8月)(総会は書面開催、研修会は中止)
 - 高知県公民館研究大会(中止)
 - 第2回研修会(1/16)(※高知県社会教育実践交流会)
- ・高知県社会教育委員会
 - 第4回 令和2年5月29日(金)
 - 第5回 令和2年7月27日(月)
 - 第6回 令和2年10月21日(水)
 - 第7回 令和3年2月18日(木)
 テーマ:地域全体で子どもたちの成長を支える社会教育のあり方について
 ~「厳しい環境にある子どもたち」を社会教育の視点から支える方策~

市町村名	地域学校協働活動						新放課後子ども総合プラン(小学校)		家庭教育支援事業	外部人材を活用した教育支援活動事業
	本部数	実施学校数					児童クラブ	子ども教室		
		小学校	中学校	義務教育学校	高校	その他(67校)				
1 室戸市	7	6	5			1	2	5		
2 安芸市	10	8	2				4	9		
3 南国市	17	13	4				15	3		
4 土佐市	11	9	3				6	7		
5 須崎市	11	8	5				6	4	○	
6 宿毛市	12	9	6				2	6	○	
7 土佐清水市	1	6	1				1	6		
8 四万十市	15	14	11				15	8		
9 香南市	9	7	4				10	3		
10 香美市	9	7	3			1	9	3		
11 東洋町	1	2	2							
12 奈半利町	1	1	1			1	1	1		
13 田野町	1	1	1			1		1		
14 安田町	1	1	1			1		2		
15 北川村	1	1	1					1	○	
16 馬路村	1	2	2					1	○	
17 芸西村	1	1	1			2	1	1	○	
18 本山町	1	2	1				1	2	○	
19 大豊町	1	1	1					3		
20 土佐町	1	1	1					1	○	
21 大川村	1	1	1					1	○	
22 いの町	8	7	5				8	2	○	
23 仁淀川町	1	3	2					3	○	
24 中土佐町	3	3	3			1	1	2		
25 佐川町	5	4	2				2	3		
26 越知町	1	1	1				1		○	
27 橋原町	1	1	1					1		
28 日高村	1	2	1				1	2	○	
29 津野町	2	3	2					3	○	
30 四万十町	15	12	4				1	12	○	
31 大月町	1	1	1					1		
32 三原村	1	1	1					1		
33 黒潮町	1	8	2					4		
34 学校組合	(1)	(1)	(1)				1			
35 高知市	26 (42)	23	2 (17)	1 (2)			95	41		
36 県立	8				8					
事業実施合計	187	170	84	1	8	8	183	143	14	
合計	(204)	(171)	(100)	(2)	8	8	183	143	14	

※地域学校協働活動の()内の数字は、高知市版地域学校協働本部実施校16校及び一財対応の学校組合2校を含む。

令和3年度高知県地域学校協働活動推進委員会及び研修会等の年間事業計画

1. 事業の総合的なねらい

地域住民等の参画による地域の実情に応じた取組を有機的に組み合わせて、学校に対する多様な協力活動や、学習活動等を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る取組、放課後等に子どもたちの安全・安心な活動場所を確保して学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する放課後等支援、保護者への学習機会の提供や相談対応などの家庭教育支援等の教育支援活動を実施し、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進する。

2. 重点取組

- (1) 市町村担当者、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）等、学習支援員、協働活動支援員、協働活動サポーター、放課後児童支援員等の資質向上を目的とした各種の研修会を開催し、情報交換・共有の場とする。
- (2) 各教育事務所及び高知市に配置している学校地域連携推進担当指導主事とともに、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の設置促進と活動内容の充実を図る。
- (3) 子どもたちの見守り機能をさらに発揮するため、より多く、より幅広い層の地域住民や団体等に、きめ細かく密接に学校に関わっていただく形をつくるなど、学校と地域がパートナーとして子どもたちを見守り育てる高知県版地域学校協働本部の取組を推進する。
- (4) 「親の育ちを応援する学習プログラム」の普及・啓発を図るとともに、ファシリテーターを養成する研修会を実施する。
- (5) 事業実施市町村へのヒアリングやアンケート等により、事業の効果や課題について調査を行い、事業を検証するとともに、市町村が実施する運営委員会や研修会に参加し、円滑な事業運営を支援する。
- (6) 若者サポートステーションの修学・就労支援により、高等学校未卒の若者（20歳から39歳及び市在住の15歳から19歳）の社会的自立を推進する。

3. 事業計画

(1) 推進委員会

時期	内 容
11月	【開催日】令和3年11月10日（水） 【内 容】令和2年度事業実績及び令和3年度事業中間報告
1月下旬	・令和3年度事業総括 ・令和4年度事業に向けて

(2) 研修会等

①地域コーディネーター研修会、全体研修会及びブロック別研修会

時期	内 容
10月	高知県地域コーディネーター研修会（全3回） 【話題提供】内容 「コーディネーターに今できること」 講師 竹原 和泉 代表理事（NPO法人まちと学校のみらい） 【ワークショップ】地域学校協働活動の取組実践の紹介及びみ活動のえるかシートの作成等 第1回：令和3年10月18日（月）いの町総合保健福祉センター （参加者63名、満足度85%） 第2回：令和3年10月19日（火）黒潮町役場本庁 （参加者31名、満足度84%） 第3回：令和3年10月21日（木）安田町文化センター （参加者41名、満足度86%）
11月	高知県地域学校協働活動研修会（全体研修会） 【開催日】令和3年11月16日（火） 【会 場】いの町総合保健福祉センター 大会議室 【内 容】[基調講演] 演題 「地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な推進について」 講師 熊谷 愼之輔 教授（岡山大学大学院教育学研究科） [実践発表及び質疑] 小川 真悟 氏（高知市立春野中学校長・春野中学校地域学校協働本部） [グループによる情報交換]

11月～ 2月	高知県地域学校協働活動ブロック別研修会 【開催日及び会場】 中部会場：令和3年11月30日（火）いの町立伊野小学校 西部会場：令和4年2月上旬 黒潮町役場本庁（予定） 高知市会場：令和4年1月下旬 高知市たかじょう庁舎（予定） 東部会場：令和4年1～2月 北川村村民会館（予定）
1月	高知県社会教育実践交流会 【開催日及び会場】令和4年1月23日（日）土佐市複合文化施設つな一で ・記念講演 ・インタビューダイアログ ・事例発表

②新・放課後子ども総合プラン推進事業に係る資質向上研修

・防災対策研修（参加者 68名）

【評価】

満足度：大変良かった 67.7%、良かった 32.3%、良くなかった 0%

今後に役立つ内容か：とてもそう思う 73.0%、そう思う 27.0%、そう思わない 0%

【開催日及び会場】

中部会場：令和3年6月17日（木） 高知青少年の家

東部会場：令和3年6月22日（火） 安田町文化センター

西部会場：令和3年7月6日（火） 黒潮町役場

【内容】

◆講義：「南海トラフ地震に備えて、今できること、すべきこと」

講師：高知県教育委員会事務局学校安全対策課 課長補佐 清久 博文 氏

◆演習：避難時や避難後に想定されるクイズ、防災マニュアル等のチャック、情報交換等

・発達障害への理解に関する研修（11月・12月）

※各3会場（西部、中部、東部）で開催予定

◆講義：「多様な個性をもつ子どもたちとの関わり～特別な支援を必要とする児童の理解と対応～」

講師：高知県教育委員会事務局特別支援教育課 チーフ 板橋 潤子 氏
指導主事 岳本 由美 氏
指導主事 山本 裕久 氏

・テーマ未定（1月）

※3会場（西部・中部・東部）で開催予定

③放課後児童支援員認定資格研修（9月～11月）

【開催予定日】

令和3年9月19日（日）、10月10日（日）、11月7日（日）、11月28日（日）

【会場】土佐市複合文化施設つな一で（9月19日のみ、高知青少年の家と2会場で実施）

【受講者数】67名

【目的】「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第63号）に基づく、児童クラブに従事する放課後児童支援員として、必要最低限の知識及び技能の習得とそれを実践する際の基本的な考え方や心得を認識することを目的とした講義等を、1日あたり4科目（1科目90分）、計4日間、1回実施。

【講師】NPO法人日本放課後児童指導員協会（委託）

④子育て支援員研修 放課後児童コース（受講者 50名、うち修了者 46名）

【開催日】令和3年9月4日（土）、9月5日（日）

【会場】オンライン開催

【目的】地域において子育て支援の仕事に関心を持ち、放課後児童クラブ等に従事することを希望する者に対し、多様な子育て支援分野に関して必要となる知識や技能等を修得するため、これらの支援の担い手となる子育て支援員の資質の確保を図ることを目的とした講義等を、1日あたり3科目（1科目90分）、計2日間実施。

【講師】岡山大学 准教授 中山 芳一 氏

⑤「高知家の親の育ちを応援する学習プログラム」を活用した家庭教育支援を行うファシリテーター研修会

【開催日】令和3年10月15日（金）

【会場】高知県立高知青少年センター 青少年ホール

【内容】『子どもの心を開くコミュニケーションの仕方を学ぶ“体験型講演会”』

講師 NPO法人ハートフルコミュニケーション代表理事 菅原 裕子 氏

「高知家の親の育ちを応援する学習プログラム」を活用した家庭教育支援を行うファシリテーター体験研修会

【開催日、会場等調整中】

⑥「高知家の親の育ちを応援する学習プログラム」を活用した講座（10月31日現在）
実施回数4回 参加者57名 派遣ファシリテーター4名

日時	申込者	対象	人数	内容
6月18日（金）	川北保育所	保護者 職員	15名	子育てのイライラとうまく付き合う親になるう。
7月24日（土）	めぐみ乳児保育園	保護者、職員	27名	イヤイヤ期、スマホの使い方
8月19日（木）	足摺岬保育園	保護者・職員	6名	子どものトラブルについて一緒に考えよう
9月28日（火）	いの町地域子育て支援センターぐりぐら広場	支援員、職員	9名	子どもたちにしてあげたいこと

⑦「学習相談・学習支援」検討会

【開催予定日】令和3年11月19日（金）

【会場】塩見記念青少年プラザ

【参加者】県教育委員会事務局高等学校課、人権教育・児童生徒課

県子ども・福祉政策部地域福祉政策課、子ども・子育て支援課、福祉指導課
各若者サポートステーション

【内容】○「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」の事業内容説明及び実施状況

○高等学校卒業程度認定試験について ・高知県の現状 ・若者サポートステーション利用者実施状況

○各市町村の生活保護受給世帯数について

○意見交換 ・学習相談・学習支援に関する具体的方策 ・高等学校卒業程度認定試験 ・支援対象者の誘導 ・高校中退から就労に至るまでの間に必要な支援 ・支援における関係機関の連携 ・事業成果の評価検証 など

(3) その他

- ・高知県版地域学校協働本部への展開に向けた実施校における取組
3要件①充実した地域学校協働活動の実施
 - ②学校と地域との定期的な協議の場の確保
 - ③民生・児童委員の参画による見守り体制の強化
- ・県小中学校長会や県民生委員・児童委員協議会連合会総会等、社会教育関係団体との協力支援体制の強化により、地域学校協働本部の設置促進と内容の充実を推進
- ・地域学校協働本部事業及び新・放課後子ども総合プラン推進事業（放課後子ども教室、放課後児童クラブ）に関する取組状況調査の実施（9月）

	市町村名	小学校(67校)	中学校(38校)	義務教育学校(2校)
東部 (32校)	東洋町(4校)※	甲浦小(R2.4.1) 野根小(R2.4.1)	甲浦中(R2.4.1) 野根中(R2.4.1)	
	奈半利町(2校)※	奈半利小(R3.4.1)	奈半利中(R3.4.1)	
	北川村(2校)※	北川小(R2.4.1)	北川中(R2.4.1)	
	安田町(2校)※	安田小(R3.4.1)	安田中(R3.4.1)	
	安芸市(1校)	赤野小(H28.4.1)		
	香南市(11校)※	赤岡小(H30.4.1) 野市小(H31.4.1) 夜須小(R3.4.1) 香我美小(R3.4.1) 吉川小(R3.4.1) 野市東小(R3.4.1) 佐古小(R3.4.1)	赤岡中(H31.4.1) 夜須中(R3.4.1) 香我美中(R3.4.1) 野市中(R3.4.1)	
	香美市(10校)※	香長小(H30.4.1) 舟入小(H30.4.1) 楠目小(H30.4.1) 片地小(H28.4.1) 大宮小(H30.4.1) 大橋小(H29.4.1) 山田小(H31.4.1)	香北中(H30.4.1) 大橋中(H29.4.1) 鏡野中(H31.4.1)	
	南国市(8校)	奈路小(H19.4.1) 白木谷小(H25.4.1) 長岡小(H31.4.1) 後免野田小(R2.4.1) 岡豊小(R2.4.1) 久礼田小(R3.4.1)	鷹ヶ池中(H30.4.1) 香南中(R3.4.1)	
	大豊町(1校)	おおとよ小(R3.4.1)		
	本山町(1校)	吉野小(R3.4.1)		
	土佐町(2校)※	土佐町小(H25.4.1)	土佐町中(H25.4.1)	
	大川村(2校)※	大川小(H24.4.1)	大川中(H24.4.1)	
	いの町(6校)	伊野南小(H25.4.1) 神谷小(H27.4.1) 伊野小(R25.21) 川内小(R27.22)	伊野南中(H27.4.1) 神谷中(H27.4.1)	
	仁淀川町(5校)※	池川小(R3.4.1) 別府小(R3.4.1) 長者小(R3.4.1)	池川中(R3.4.1) 仁淀中(R3.4.1)	
	須崎市(2校)	安和小(H29.4.1)	朝ヶ丘中(R2.10.26)	
	日高村(3校)※	日下小(H25.6.19) 能津小(H30.4.1)	日高中(H25.7.12)	
	佐川町(6校)※	佐川小(R3.4.1) 斗賀野小(R3.4.1) 黒岩小(R3.4.1) 尾川小(H28.4.1)	佐川中(R3.4.1) 尾川中(H28.4.1)	
	越知町(2校)※	越知小(H27.4.1)	越知中(H27.4.1)	
	津野町(5校)※	葉山小(H28.9.16) 中央小(H31.4.1) 精華小(R3.2.18)	東津野中(H31.4.1) 葉山中(R3.2.18)	
	梶原町(2校)※	梶原小(H28.4.1)	梶原中(H28.4.1)	
中土佐町(5校)※	久礼小(H27.4.1) 大野見小(H27.4.1) 上ノ加江小(H27.4.1)	久礼中(H19.4.1) 大野見中(H22.4.1)		
四万十町(2校)	米奥小(H21.5.12) 影野小(H28.4.1)			
中部 (52校)				

R3年度 コミュニティ・スクール (107校)

R3. 9 現在

西部 (19校)	黒潮町 (10校) ※	拳ノ川小 (H19.4.1) 三浦小 (H28.2.1) 田ノ口小 (H28.2.1) 南郷小 (H31.4.1) 入野小 (H31.4.1) 佐賀小 (R2.10.29) 伊与喜小 (R2.11.5) 上川口小 (R2.12.21)	佐賀中 (R2.10.29) 大方中 (R2.12.1)	
	四万十市 (1校)		西土佐中 (H27.4.1)	
	三原村 (2校) ※	三原小 (H31.4.1)	三原中 (H31.4.1)	
	宿毛市 (6校)	宿毛小 (H23.4.1) 小筑紫小 (R3.4.1) 橋上小 (R3.4.1) 山奈小 (R3.4.1)	小筑紫中 (R3.4.1) 橋上中 (R3.4.1)	
高知市 (4校)	高知市 (4校)		潮江中 (H26.4.1) 愛宕中 (H26.4.1)	土佐山学舎 (H28.4.1) 行川学園 (H28.4.1)

※は、域内全小・中学校をコミュニティ・スクールとしている市町村
 学校名は、令和3年度にコミュニティ・スクール導入

令和3年度 コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)導入予定

令和3年9月現在

	市町村名	令和3年度 学校数	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 以降	学校運営協議会 の 類似の 仕組みの 設置 予定数	R5 までの 設置 予定数	備考
			学校運営協議会 (導入済)	学校運営協議会の設置 予定・検討					
1	高知市	58	4	27	54	54	57	58	
2	室戸市	9	0	9	9	9	0	9	
3	安芸市	10	1	9	9	9	0	10	
4	南国市	17	8	6	9	9	9	17	
5	土佐市	12	0	12	12	12	0	12	
6	須崎市	13	2	11	11	11	0	13	
7	宿毛市	14	6	8	8	8	0	14	
8	土佐清水市	7	0	7	7	7	7	7	
9	四万十市	22	1	0	17	17	0	18	3校は中村西中に統合のため、中村西中は統合後R6年度以降の設置予定
10	香南市	11	11	0	0	0	0	11	
11	香美市	10	10	0	0	0	0	10	
12	東洋町	4	4	0	0	0	0	4	
13	奈半利町	2	2	0	0	0	0	2	
14	田野町	2	0	2	2	2	0	2	
15	安田町	2	2	0	0	0	0	2	
16	北川村	2	2	0	0	0	0	2	
17	馬路村	4	0	4	4	4	0	4	
18	芸西村	2	0	0	2	2	2	2	
19	本山町	3	1	2	2	2	0	3	
20	大豊町	2	1	1	1	1	0	2	R4年度から義務教育学校
21	土佐町	2	2	0	0	0	0	2	
22	大川村	2	2	0	0	0	0	2	
23	いの町	12	6	6	6	6	5	12	
24	仁淀川町	5	5	0	0	0	0	5	
25	中土佐町	5	5	0	0	0	0	5	
26	佐川町	6	6	0	0	0	0	6	
27	越知町	2	2	0	0	0	0	2	
28	橋原町	2	2	0	0	0	0	2	
29	日高村	3	3	0	0	0	0	3	
30	津野町	5	5	0	0	0	0	5	
31	四万十町	16	2	3	3	13	14	5	統合の関係でR6年度以降に設置予定
32	大月町	2	0	2	2	2	0	2	
33	三原村	2	2	0	0	0	0	2	
34	黒潮町	10	10	0	0	0	0	10	
35	日高村佐川町学校組合	2	0	0	0	0	0	0	
	合計	282	107	109	158	170	96	265	

R3導入率 37.9%

すでに設置済の市町村

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進事業

資料3

小中学校課

事業概要

平成29年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、これまで任意であった学校運営協議会の設置が努力義務となったことを受け、各市町村（学校組合）教育委員会に対し、所管の小中学校への学校運営協議会の設置に関する効果的な支援を行うことで、学校と地域の連携・協働による教育活動の充実を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進する。

期待される効果

- ◎保護者や地域住民等が学校運営に関わることで、地域全体（子どもたちを見守り育てる体制）が生まれ、教員が子どもと向き合う時間の確保につながるなど、学校と地域との協働体制が確立される。
- ◎地域住民を中心に人材の発掘・確保につながり、地場学校協働本部等との一体的な推進により学校の教育活動及び体制の充実につながる。

現状・課題

○本県でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）導入率は23.6%（22市町村教育委員会、70校）であり、地域学校協働本部整備を導入している学校の割合（94.1%）に対して低い。

【コミュニティ・スクール導入校数】（令和2年7月現在）

・小学校：43校、中学校：25校、義務教育学校：2校

○コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）導入状況

・「2021年中に運営協議会の設置予定・検討」と回答した学校は52.7%

・「2022年中に運営協議会の設置予定・検討」と回答した学校は77.4%

（「2020年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査について」文部科学省調査より（令和2年7月現在）

事業目標

○2023（令和5）年度までに全ての市町村（学校組合）教育委員会において、管内の小中学校にコミュニティ・スクールが導入される。

○地域学校協働本部等との協働による学校運営の工夫・改善の実践を県内に広く普及する。

【検証方法】「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査について」（文部科学省調査）

実施内容

(1) コミュニティ・スクール推進事業費補助金

目的：域内全小中学校に学校運営協議会を設置する

補助率：国1/3 県1/3 市町村1/3

*補助対象

- ① コミュニティ・スクール推進協議会の設置等経費
- ② コミュニティ・スクールの運営や学校種間調整、分野横断的な活動の総合調整など総括的な立場で調整等行う人材（CSタイクター）経費
- ③ 先進校視察や研修会等の実施にかかる経費

(2) 他課、高知市との連携による推進体制の構築

生涯学習課・高等学
校課・幼保支
援課・高知市
等

◆ コミュニティ・スクールの導入推進に向け
て管理職等への研修会の実施（1回）

◆ コミュニティ・スクール未導入の市町村への情報発信・周知
・先進的に運営している市町村の好事例を冊子にして配付

◆ 各研修会や協議会等への相互参加（随時）、合同担当者会の実施（年間4回）

◆ 指導主事等 訪問

R1 人材育成・設置計画

R2 人材育成・制整備

R3 全市町村で導入あるいは導入の検討

R5 全ての小中学校に導入

学校運営協議会

コミュニティ・スクール
（学校運営協議会制度を導入した学校）

（例）保護者代表・地域住民、
地域学校協働本部関係者など

学校運営協議会

学校運営や総括的な調整に関する協議

校長のリーダーシップを応援
・地域のニーズに応える学校づくり

放課後等
学習支援

地域学校協働本部等

コーダー
ネットワーク

一体的な
推進

地域学校協働活動

地域ぐるみで子供の
育ちを支援するしくみ

地域学校協働活動推進員

全ての学校で地域とともに
ある学校づくりを展開

令和3年度 コミュニティ・スクール推進事業「地域とともにある学校づくり」研修会 アンケートまとめ

R3.8.3

研修内容	○先進地取組発表 (香美市・黒潮町・津野町)			
	○講話 京都光華大学准教授 西 孝一郎 氏 「こどものために みんなでつなぐ 地域とともにある学校～コミュニティ・スクール～」			
参加者 人数	事前申込参加人数	当日参加人数	合計	
		94名	7名	101名
アンケート (回答人数 75名)				
①先進地域実践 発表では、参考 になる点や、所 属校での取組に 生かそうと思 う点がありました か。	あった	概ねあった	あまりなかった	なかった
	42	32	1	0
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の強みや弱みを住民から聞くことで自分事となり、真剣な学びの形が生まれる。 ・地教委の明確なビジョンやテーマを持つことが参考になった。 ・学校運営協議会を設置して、何に取り組んでいくか、熟慮と後論を重ねて作りあげる。 ・地域総がかりで、積極的に子どもに関わり、育てていくことが必要。 ・活動を軌道に乗せるまでの組織作りには、それ相応の時間と労力が必要。 ・子どもの主体的な思いで活動がつくられていくようにできるといい。 ・地域のさまざまな側面から取組を考えていけることがわかった。 ・保護者世代に「地域」の関係性が薄い現状があり、地域を巻き込むCSづくりをしていきたい。 ・子どもたちの幸せのために人をつなぐ取組であった。 			
②西先生の講話 では、参考にな る点や、所属校 での取組に生か そう思う点があ りましたか。	あった	概ねあった	あまりなかった	なかった
	51	24	0	0
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校はみんなの力で創る、育てる意識を再認識。 ・小中一貫校と地域との協働体制の構築が学校運営協議会を通じて可能になると実感した。 (中学校区で「目指す子ども像」に共有が必要) ・小学校のPTA役員や地域人材を引き継ぎすると、中学校で一から始める必要もなく、小中が協力して楽しくできる。 ・既存の組織をつなぐという考え方でつくることが参考になった。 ・CSは「子どものため」という考え方を教職員や保護者、地域の方々と共有する必要性を感じた。(未来の人材を育成するため) ・それぞれのできることを考えることで、相互理解を深めることにつながる。 ・人のためになろうという感情は人との関わりを通して芽生える感情であると感じた。 ・子どものニーズと地域の支援が一致している実践だと感じた。 ・委員は受け身的で消化型の運営になってしまいがちなので、子どもたちを中心に据えた会議にしたい。 ・敷居が高いと思っていたが、そんなに難しく考えることではないと気持ちが楽になった。 ・形式化・マンネリ化しない工夫が必要であると感じた。 			

③コミュニティ・スクールの導入もしくは充実に向けて、まず、自所属で何に取り組もうと考えていますか。

- ・必要な情報を共有し、各校に沿った適切な支援
- ・コーディネーターとの連携を密にし、人材資源などを改めて確認していく（人材バンクの作成）
- ・小中連携を大事にしたCSの推進（幼小中一貫）
- ・共通認識のための学習会（研修会）の実施（視野を広げる研修）
- ・既存の組織の整理（洗い出し・つながり）
- ・学校の取組をリンクさせた具体的な活動の実施
- ・事務職員としての関わりを意識
- ・熟議に中学3年生を参加させる

	ア県全体の取組状況の 説明	イCSの導入に向け た取組説明	ウCS先進的実践 事例
	13	31	37
④今後、コミュニティ・スクール研修会でどのような内容があればいいと思いますか。	エその他	<ul style="list-style-type: none"> ・CSを立ち上げる際に、経験したこと。（困難がありながら、地域に理解してもらい進めたこと・具体的な経緯・導入までの整備リスト・住民に向けての広報・条例規則の作成・校内組織の在り方）。 ・地域連携担当教員の業務例・ルーティンなど ・管理職・教諭・事務職員等がどう関わったか ・市町村教育委員会担当者の働きかけや充実に向けた支援 ・何を熟議し、どう取組、成果は何か。学校・家庭・地域の役割分担による実践 ・オランダや他国の事例 ・コロナ禍での学校支援の工夫 ・県外の先進的実践例（身近で取り組みやすい事例・うまく機能している事例） ・人材確保の方法（新しい人材にどう参加してもらうか） ・運営協議会の中で、地域の方の声や思いが学校運営協議会の中でどう出され、どう生かされたか。（イメージできる動画があればみたい） ・CS設置による、子どもの成長が見える内容（設置しない学校のデメリットなど） ・大規模校での導入事例 ・中学校の取組を聞きたい ・学校の負担を上回るメリットについて聞きたい 	

⑤その他

- ・行政や同じ学区の校長が、同じ話を聞き、共有できたことで意義ある時間となった。

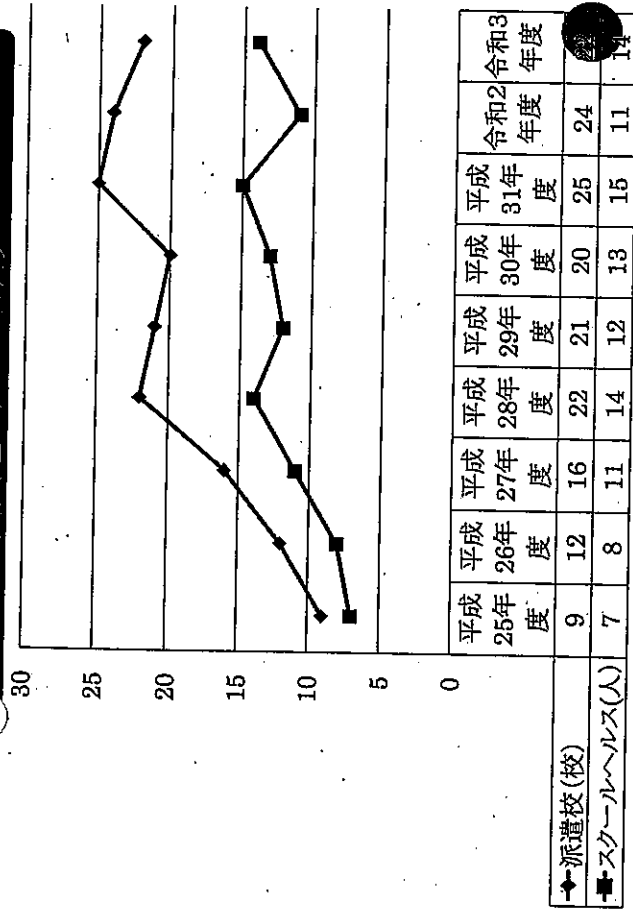
高知県スクールヘルスリーダー派遣事業

一目的一

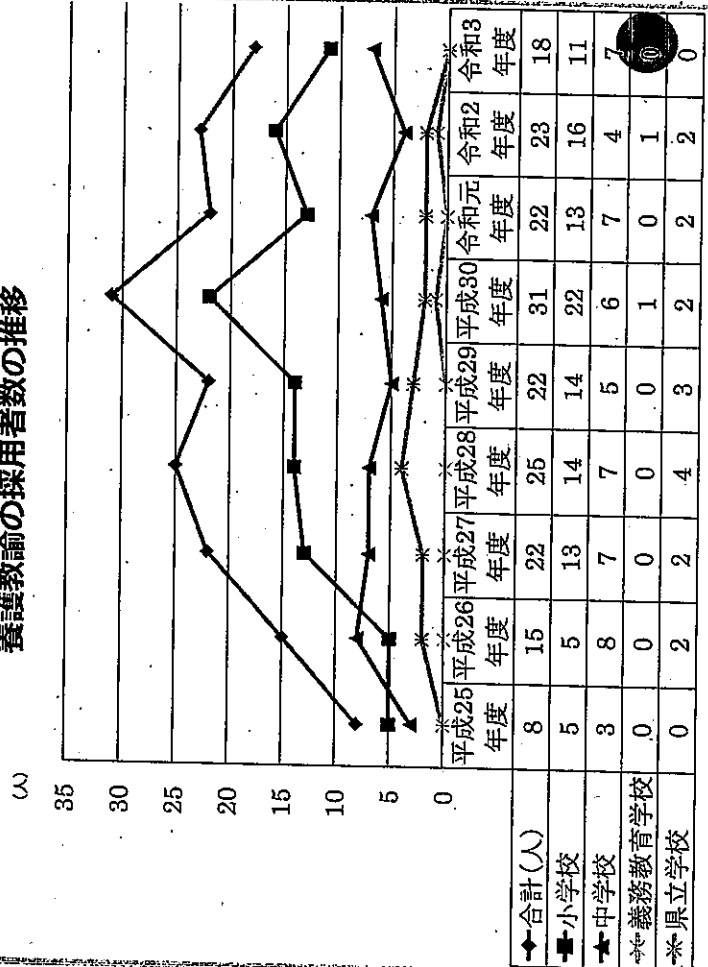
経験豊かな退職養護教諭を「スクールヘルスリーダー」に委嘱して、経験の浅い養護教諭が配置されている学校(新規採用養護教諭配置校、複数配置校は除く)又は養護教諭未配置校へ派遣し、校内での研修や個別の対応が求められる子どもへの対応方法等の指導を実施し、子ども達が抱える現代的課題に適切に対処できる環境を整える。



派遣校とスクールヘルスリーダー

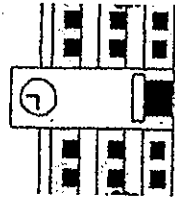


養護教諭の採用者数の推移



令和2年度 高知県スクールヘルスリーダー派遣事業

派遣期間：令和2年5月1日～令和3年2月28日



スクールヘルスリーダー11名を派遣

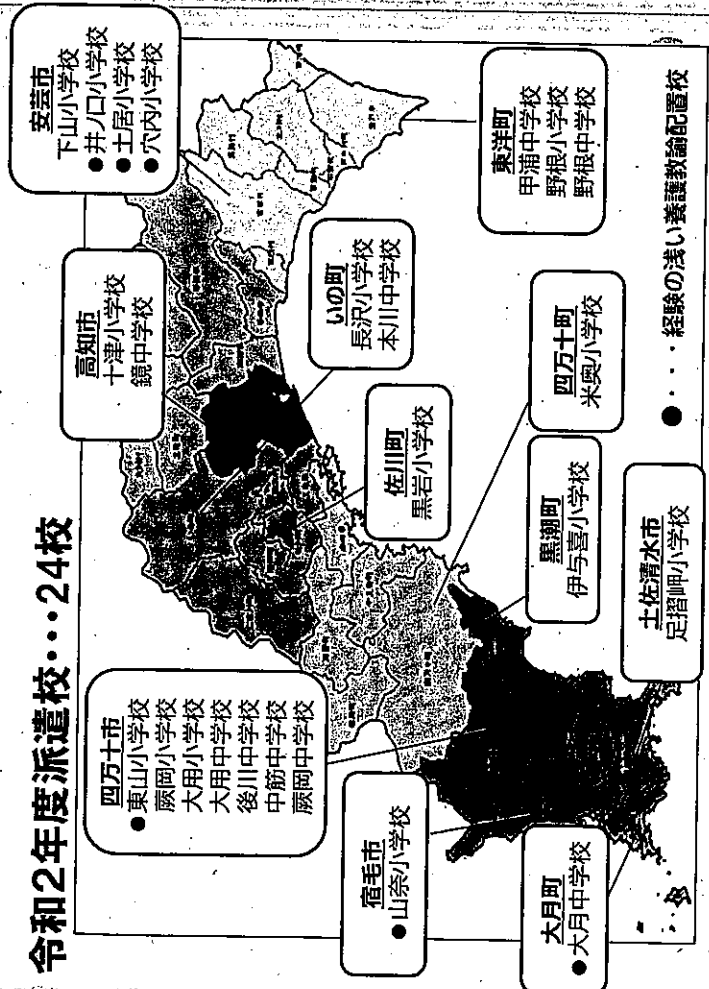
未配置校...18校
(派遣回数：延べ269回)

経験の浅い養護教諭配置校...6校
(派遣回数：延べ56回)



※講師配置校は未配置校と位置付ける。

令和2年度派遣校・・・24校



派遣前と派遣後

(経験の浅い養護教諭配置校)

児童生徒だけでなく、教員との関係性を深めて連携することを意識するようになった。

スクールヘルスリーダーの指導から、児童の興味関心を引く掲示物が作成できた。



経験が豊富で、自分が見えないことに対して丁寧に指導助言いただけなので、保健室経営の見直しにつながった。

児童や保護者との関わり方の具体について、少しずつ自信がつけました。

執務にあたり困難に感じていたことが、指導してもらったことにより、改善していった。

令和3年度 高知県スクールヘルスリーダー派遣事業

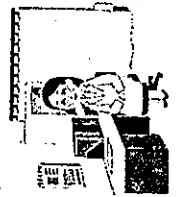
派遣期間：令和3年5月1日～令和4年2月28日

高知市	高知市	高知市	高知市
高知市	高知市	高知市	高知市
高知市	高知市	高知市	高知市
高知市	高知市	高知市	高知市

スクールヘルスリーダー14名を派遣

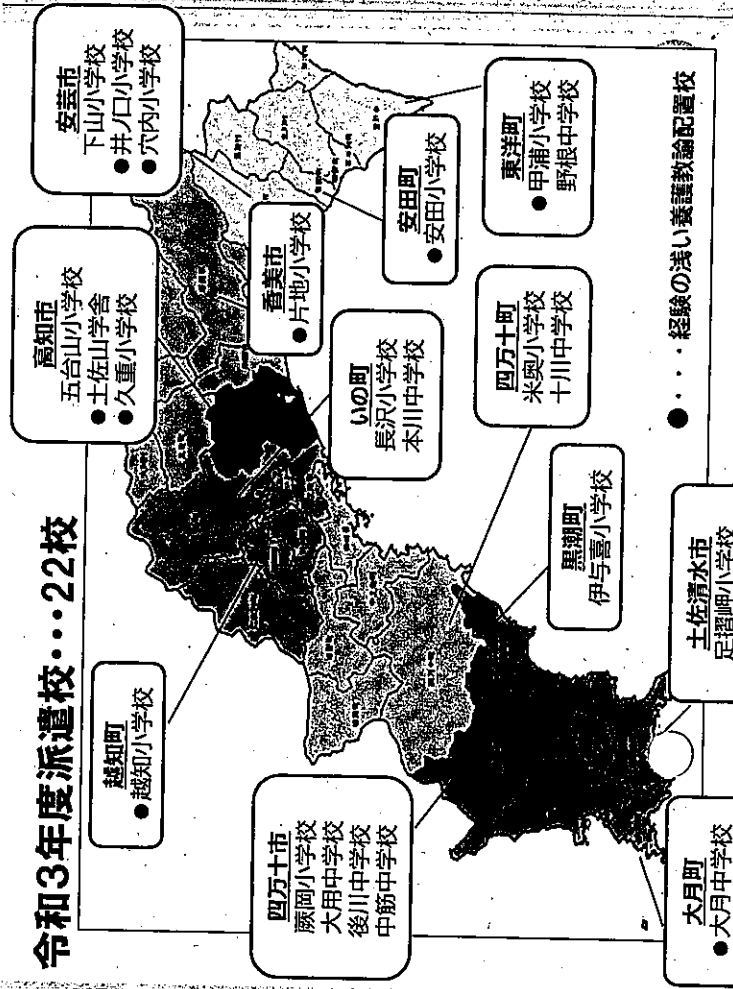
未配置校・・・13校
(派遣回数：10回～20回/校)

経験の浅い養護教諭配置校・・・9校
(派遣回数：10回/校)



※講師配置校は未配置校と位置付ける。

令和3年度派遣校・・・22校



○育推進支援事業(食事提供活動支援事業)実施状況

<事業目的>

望ましい生活習慣の基礎となる朝食摂取を推進し、児童生徒の実践する力を育成するために、学校と地域等が連携した家庭へのアプローチや地域を巻き込んだ取組を行い、ボランティアによる食事提供活動の充実を図る。

令和2年度(7団体・9校)

市町村名	安芸市		香美市		中土佐町		宿毛市		高知市	
	安芸中	安芸第一小	大橋小・中	上ノ加江小	久礼中	小筑紫中	旭小	潮江南小	潮江南地域連合会	潮江南地域連合会
実施団体	安芸市食生活改善推進協議会	安芸市食生活改善推進協議会	物部地域学校協働本部	上ノ加江小学校支援地域本部	久礼中学校運営協議会	宿毛市立小筑紫PTA	あさひ朝ごはん食堂	潮江南地域連合会	潮江南地域連合会	潮江南地域連合会
実施回数	4回	6回	2回	3回	3回	5回	6回	6回	6回	
実施内容	100円徴収	100円徴収	徴収なし	3回	3回	無料	100円徴収	無料	無料	
実施期間	1回実施	3回実施	2回・延べ58名	3回	3回	5回実施	6回	9回実施	延べ229名	
実施目的	・望ましい生活習慣の基礎となる朝食摂取を推進し、実践する力を育成する。 ・伝統食、防災食、メニューの考案を生徒からもらうなど	・仲間と作る喜び、食べながら、伝統食、防災食、楽しい環境にある子どもへの支援。	・バランスのとれた朝食について、子どもや保護者へ啓蒙する。 ・全家庭へ参加呼びかけ、参加してほしい家庭へのアプローチ(担任食券など)。 ・参加者の感想に、3食そろった栄養ある朝ご飯は大切だとする、バランスのよい栄養おひかついた等の意見があった。 ・小学校では、高学年が低学年に調理の仕方をお教えあげたり、異学年で協力して行っていた。 ・バランスよく朝ご飯を食べると1日のスタートがしっくりとされるという事を児童、生徒、教職員が実感できている。	・朝食を一緒に用意し、朝食の大切さを伝える。 ・朝食の大切さを伝える。	・昨年度の取組で、「ご飯と味噌汁」を朝食に食べる生徒が2倍となった。	・PTAを中心に取組を進め、簡単に時間をかずにできる「朝ご飯」を保護者とともに考え、生徒の家庭における朝食の改善を目指す。	・朝食を取っていない児童が約1割(40名)いる。その児童達への栄養給付と友人や教員、地域の方との朝食を共に楽しむ楽しさを味わえる機会とする。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの夏休みと冬休みの実施の他、平日(月・木)と春休みも事業展開する。	・朝食をとった後は元気ができており、朝食の大切さを実感する機会となった。 ・季節料理や地域伝統料理(雑煮や七草がゆなど)を提供することにより、食文化の継承にもつながった。	
実施方法	継続して参加している生徒を中心に生徒同士で協力した作業が行え、思いがけず子どもたちが動いていた。	・子どもは作業する姿から明るさや意欲等がみられ、食への興味と生活する力を身につけることが出来てきている。 ・子ども達からの感想に、朝ご飯の大切さを知った、家でも朝ご飯が食べられるようになったことなど、意見があった。	・小学校では、高学年が低学年に調理の仕方をお教えあげたり、異学年で協力して行っていた。 ・バランスよく朝ご飯を食べると1日のスタートがしっくりとされるという事を児童、生徒、教職員が実感できている。	・小学校では、高学年が低学年に調理の仕方をお教えあげたり、異学年で協力して行っていた。 ・バランスよく朝ご飯を食べると1日のスタートがしっくりとされるという事を児童、生徒、教職員が実感できている。	・昨年度の取組で、「ご飯と味噌汁」を朝食に食べる生徒が2倍となった。	・PTAを中心に取組を進め、簡単に時間をかずにできる「朝ご飯」を保護者とともに考え、生徒の家庭における朝食の改善を目指す。	・朝食を取っていない児童が約1割(40名)いる。その児童達への栄養給付と友人や教員、地域の方との朝食を共に楽しむ楽しさを味わえる機会とする。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの夏休みと冬休みの実施の他、平日(月・木)と春休みも事業展開する。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの夏休みと冬休みの実施の他、平日(月・木)と春休みも事業展開する。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの夏休みと冬休みの実施の他、平日(月・木)と春休みも事業展開する。
成果	・継続して参加している生徒を中心に生徒同士で協力した作業が行え、思いがけず子どもたちが動いていた。 ・子ども達からの感想に、朝ご飯の大切さを知った、家でも朝ご飯が食べられるようになったことなど、意見があった。	・子どもは作業する姿から明るさや意欲等がみられ、食への興味と生活する力を身につけることが出来てきている。 ・子ども達からの感想に、朝ご飯の大切さを知った、家でも朝ご飯が食べられるようになったことなど、意見があった。	・小学校では、高学年が低学年に調理の仕方をお教えあげたり、異学年で協力して行っていた。 ・バランスよく朝ご飯を食べると1日のスタートがしっくりとされるという事を児童、生徒、教職員が実感できている。	・小学校では、高学年が低学年に調理の仕方をお教えあげたり、異学年で協力して行っていた。 ・バランスよく朝ご飯を食べると1日のスタートがしっくりとされるという事を児童、生徒、教職員が実感できている。	・昨年度の取組で、「ご飯と味噌汁」を朝食に食べる生徒が2倍となった。	・PTAを中心に取組を進め、簡単に時間をかずにできる「朝ご飯」を保護者とともに考え、生徒の家庭における朝食の改善を目指す。	・朝食を取っていない児童が約1割(40名)いる。その児童達への栄養給付と友人や教員、地域の方との朝食を共に楽しむ楽しさを味わえる機会とする。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの夏休みと冬休みの実施の他、平日(月・木)と春休みも事業展開する。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの夏休みと冬休みの実施の他、平日(月・木)と春休みも事業展開する。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの夏休みと冬休みの実施の他、平日(月・木)と春休みも事業展開する。

伝統食(ちりめん井、ナスタタキ) 防災食(カレーライス、豆とひじきご飯)

令和3年度(2団体・3校)

市町村名	香美市	高知市
実施団体	大橋小・中	潮江南小
実施回数	3回	5回
実施内容	徴収なし	無料
実施期間	5/27~R4年3月	5/27~3/10
実施目的	・バランスのとれた朝食について、子どもや保護者へ啓蒙する。 ・全家庭へ参加呼びかけ、参加してほしい家庭へのアプローチ(担任食券など)。	・厳しい環境にある子どもを対象とし実施する。これまでの長期休業中実施の他、平日(週1~2日)も事業展開する。

※新規

総計 21回・延べ 458名

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学校に集まっていたの催しものや事業活動を中止しているため、本事業を申請しなかった学校あり。



令和2年度 子育て講座実施状況

●愛着形成:未就園児家庭を対象に、よりよい親子関係の構築を目指して、対象施設等へ母子保健分野に精通した専門職(助産師等)を派遣し、胎児期からの子育て相談や講話などを行う。

No.	実施施設	市町村	実施日	時間	参加人数 子ども 大人	実施場所※
1	黒潮町地域子育て支援センター	黒潮町	8月20日(木)	10:00~11:30	13 12	①
2	本山町子育て支援センター	本山町	9月2日(水)	10:00~11:30	5 5	①
3	安芸市福祉事務所 実施場所:安芸市健康ふれあいセンター「元気館」	安芸市	9月17日(木)	10:00~12:00	7 6	①
4	香美市子育てセンター「なかよし」	香美市	9月23日(水)	10:00~12:00	18 18	①
5	子育てセンター「びらふ」	香美市	9月30日(水)	10:00~12:00	3 3	①
6	土佐町地域子育て支援センター	土佐町	10月14日(水)	10:00~11:30	13 14	①
7	宮戸市立安芸高松保育所地域子育て支援センター「にわかっこ」 実施場所:宮戸市健康福祉センター「びらふ」	宮戸市	10月20日(火)	10:00~11:45	5 6	①
8	香南市総合子育て支援センター「にこなん」	香南市	10月20日(火)	10:00~11:30	9 10	①
9	四万十町窪川地域子育て支援センター	四万十町	10月21日(水)	10:10~11:10	9 9	①
10	仁淀川町地域子育て支援センター	仁淀川町	10月22日(水)	10:30~11:30	0 0	①
11	佐川町子育て支援センター「なかよしひろば」 実施場所:佐川町健康福祉センター「にわかっこ」	佐川町	10月27日(火)	10:15~12:00	11 13	①
12	むろと保育園子育て支援センター	宮戸市	10月28日(水)	10:00~12:00	7 7	①
13	子育てサークル「くろりく」 実施場所:地域子育て支援拠点 遊分舎	中芸広域	11月5日(水)	9:30~11:30	10 9	③
14	おひさま保育園	須崎市	11月12日(木)	9:30~12:00	7 7	①
15	地域子育て支援センター「にわかっこ」 実施場所:土佐市子育て支援センター「なかよし」	南国市	11月20日(金)	9:30~12:00	7 7	①
16	宇佐保育園子育て支援センター「とつとこ広場」 実施場所:宇佐保育園ホール	土佐市	1月13日(水)	10:00~11:45	2 2	①
17	蓮池保育園	土佐市	1月14日(木)	10:00~12:00	5 10	①
18	大豊町 実施場所:大豊町総合ふれあいセンター	大豊町	2月5日(金)	10:00~12:00	3 4	②
19	地域子育て支援センター「カンガルーのおなか」 実施場所:柳原町立図書館「葉の上の図書館」	柳原町	2月15日(月)	10:00~12:00	4 4	①
					138 146	19か所

※対象施設等

①高知市以外の高知県内における地域子育て支援センターが主催する子育て家庭が集う場等

②地域子育て支援センター未設置の高知県内市町村が主催する子育て家庭が集う場等

③高知県内で活動する子育てサークルなど子育て家庭が集う場等

●家庭教育支援:未就園児家庭を対象に、各施設において当該地域における子育て家庭を支援することが期待される内容の希望を踏まえたテーマを設定し、講座を行う。

No.	実施施設	市町村	実施日	時間	参加人数 子ども 大人	テーマ	実施場所※
1	地域子育て支援センター「にわかっこ」	南国市	10月20日(火)	10:00~12:00	11 10	幼児体育	①
2	仁淀川町地域子育て支援センター	仁淀川町	11月4日(水)	10:00~11:30	2 2	幼児体育	①
3	子育てセンター「びらふ」	香美市	11月6日(金)	10:00~12:00	6 7	幼児体育	①
4	須崎市子育て支援センター「はっぴいほけっと」	須崎市	11月18日(水)	10:00~11:30	10 8	幼児体育	①
5	安芸市福祉事務所 実施場所:安芸市健康ふれあいセンター「元気館」 子育てサークル「くろりく」 実施場所:田野町保健センター	安芸市	2月14日(水)	9:30~12:00	中止	幼児体育	
6	香南市総合子育て支援センター「にこなん」	中芸広域	12月24日(木)	9:30~11:30	8 7	リズムック	③
7	土佐町地域子育て支援センター	香南市	1月19日(火)	10:20~11:40	中止	リズムック	
8	大正・十和地域子育て支援センター 実施場所:認定こども園「のの」	土佐町	11月10日(火)	10:00~11:10	14 13	親子のコミュニケーション 「コミュニケーション」	①
9	黒潮町地域子育て支援センター	四万十町	9月8日(火)	9:30~11:50	10 11	絵本の読み聞かせ	①
10	本山町子育て支援センター	黒潮町	11月19日(水)	10:00~11:30	6 6	絵本の読み聞かせ と講話	①
11	吾国保育園子育て支援センター「おひさま」 実施場所:吾国保育園 実施場所:吾国保育園	南国市	1月15日(金)	9:30~12:00	5 5	絵本の読み聞かせ (園子対象)	①
12	四万十町窪川地域子育て支援センター	室戸市	1月19日(火)	9:45~11:45	6 6	読み聞かせ	①
13	大月町保健センター 実施場所:土佐市子育て支援センター「なかよし」 実施場所:土佐市子育て支援センター「なかよし」	四万十町	11月12日(木)	10:10~11:00	11 11	子どもの育ちとおも ちゃの関わり等	①
14	蓮池保育園 実施場所:土佐市子育て支援センター「なかよし」	大月町	11月25日(水)	9:50~11:30	7 7	子どもの育ちとおも ちゃの関わり	①
15	宇佐保育園子育て支援センター 実施場所:土佐市子育て支援センター「なかよし」	土佐市	2月4日(水)	10:30~12:00	中止	子どもの育ちとおも ちゃの関わり	
16	香美市子育てセンター「なかよし」	香美市	2月14日(水)	9:30~11:40	中止	子どもの育ちとおも ちゃの関わり	
17	社会福祉法人和愛会 十市保育園 実施場所:地域子育て支援センター「とつとこ広場」	南国市	11月9日(木)	9:00~11:40	5 5	食育	①
18	宇佐保育園子育て支援センター 実施場所:宇佐保育園ホール	土佐市	11月11日(水)	10:00~12:00	7 6	子どもの育ちとおも ちゃの関わり等 (ホウレンソウ100年)	①
19	みやまこども子育て支援センター「カンガルーのおなか」 実施場所:柳原町立図書館「葉の上の図書館」	いの町	-	-	-	(未定)	
					114 109	15か所	

令和2年度「子育て出前講座」実施状況

実施企業	内容	講師	実施日時	開催場所	対象者
(株)四国銀行	育児と仕事の両立支援セミナー	株式会社TN経営研究所 専務取締役 西村 静代 氏	令和2年10月10日(土) 10:00~11:00	オンライン開催	9名 (男性0名、女性9名)
(株)高知銀行	幼児期の教育や 育児への関わり方について	高知県教育委員会事務局 幼保支援課 専門企画員(幼児教育・親育 ち支援担当) 岡林 律子 氏	令和2年11月28日(土) 9:30~11:30	高知銀行 本店	8名 (男性8名、女性0名)
(株)四国銀行	食育に関するセミナー	公益社団法人 高知県栄養士 会 小倉 望 氏	令和3年1月31日(日) 10:05~11:05	オンライン開催	11名 (男性3名、女性8名)
	子どものしつけに関するセミナー	高知県教育委員会事務局 幼保支援課 親育ち支援担当チーフ 瀧 渥 あき子 氏	令和3年1月31日(日) 11:20~12:20	オンライン開催	

アンケート(抜粋)

○育児と仕事の両立支援セミナー(10/10実施)

- ・ライフラインチャートを作成することで、子育てに追われて自分がどうなりたいかを考える時間がなかったことに気がきました。その上で今後の自分の人生を考える良い機会となりました。
- ・育児中の方と話しができて、復帰に対する不安を共有できてとてもよかったです。
- ・ワークライフバランスの話など、育児と仕事を両立していくうえでの考え方がとても参考になりました。特に、「事実とは一つ、解釈は無数」という言葉が印象的で、思い通りにならないことがあったとしても悲観的にならず、前向きな解釈を探してみるようにしようと思いました。
- ・家族以外と関わる機会が出産前と比べて減っていたので、とてもリフレッシュできました。同じくらしい子どもを育てるママ達と話しができて、皆さん同じような悩みを持っていて、それを共有・共感できてよかったです。
- ・Zoomを使用し、家で子供を見ながら受講することができ大変助かりました。育児中の方々と今の悩みや意見交換することができ、有意義な時間でした。
- ・実際に子育ての体験を交えながらお話いただいたことで、仕事と家庭の両立をイメージすることができました。仕事と家庭の両立をプレッシャーに感じていましたが、あまり気負わずに自分らしくいれば良いと気持ちを切り替えることができました。
- ・出産してから、育児のこと、家庭のこと、職場復帰のことばかり考え、自分が今後どうしたいかや、自分を大切にすることを忘れていたことに気が付かされました。前向きになれる素晴らしいセミナーでした。
- ・楽しく受講でき、学びや発見もたくさんありました。急がず焦らず、子どもの時間軸を大切に、温かく見守る子育てを、これから実践していきたいと思いま
- ・特に思い込みのヘルメットをかぶりすぎるとしんどくなるという話はとても共感できました。自分自身で決めつけていることはあると思うので、1つでもはずせるような人間関係づくりを努めていきたいです。そして私も家族の中で太陽のような存在になりたいと思います。
- ・育児をする中で悩むこともありますが、「事実とは一つ、解釈は無数」という言葉を聞いて自分次第でどうでもなると思うことができました。今後、仕事に復帰してから一般論ばかりを気にせずに家族や仕事を大切にして、自分なりに向き合っていく予定です。
- ・卒乳やオムツの話聞いて、子どもを信じることの大切さを改めて感じました。初めての育児に今後も悩みはつきないと思いますが、自分がどうありたいかと子どもと向き合うことを大切にします。
- ・仕事と育児の両立。自分にてできるのかとても不安でしたが、そんな気持ちが軽くなりました。大変参考になりました。
- ・仕事・育児・家事で目の前のことした見えなくなりそうですが、「原点に帰る」を思い出して頑張っていきたいと思っています。

○ 幼児期の教育や育児への関わり方について(11/28実施)

- ・子どもが生まれる前の受講でしたが、子育ての難しさや心構えを学ぶことができて良かったです。
- ・大事なこと、普段忘れてしまいがちな大切な事を再認識できたので良かったです。
- ・子育てで真ん中であり、大変参考になりました。
- ・大変参考になりました。自分自身が気付かない部分も改めて感じるがありました。
- ・普段聞けない話を聞いて大変勉強になりました。もっと子育てに関与していきたいと思えます。
- ・以前と比べて成長したことをほめるというところが共感できました。
- ・親の理想を押し付けず、子どもの自主性を大切にすることがすべて良い機会になりました。
- ・勉強になりました。子供の思いや考えを尊重していこうと思いました。

○ 食育に関するセミナー(1/31実施)

- ・今自分が悩んでいることをたくさん解決できたので受講してとても良かったと感じています。実際にはすぐに思い通りにいかないことも多いと思いますが、少しずつ子どもの主体性を伸ばす子育てをしていこうと思います。
- ・育児中はひとりよがりになりがちですが、このようなセミナーがあると新しい情報が得られ、新鮮な気持ちでまた育児に励もうと思うことができます。
- ・お話を聞いてとても気持ちが楽になりました。食事に関してもしつけに関しても頑張りすぎず、安全な食事を一緒に食べ楽しく過ごすことが、親にとっても子どもにとっても一番だと改めて思うことができました。
- ・初めての育児で不安なこと、思ったようにならないことも多くあり、大変勉強になりました。
- ・職場復帰をすると毎日余裕がなくなりそうですが、気負わず無理せず食事作り、居心地のいい家庭を保っていきたくたいです。
- ・実体験等も交えて話していただき、内容もまとまっていて聞きやすかったです。とても参考になりました。
- ・今ある悩み、これから出てくる悩みに対する対処方法を知ることができ、とても勉強になりました。受講させていただき本当に良かったです。
- ・話し方がとても分かりやすく、理解できた。個人で聞くよりも妻と二人で聞くことで、お互いの意識向上にもつながりました。

○ 子どものしつけに関するセミナー(1/31実施)

- ・主張が強くなってきており、どのようにしつけをしていくべきか考えることが多かったので非常に参考になった。
- ・しかる時は具体的にとるべき行動を教えること、失敗も学びの過程であることを忘れず、時には見守る心の余裕を持つことなど、今後気をつけたいと思える気づきがたくさんありました。
- ・伝え方ひとつで子どもの主体性を育てる事もできるし、やる気をそくこともあるので、言葉の選び方は大切だと感じた。伸び伸びとやりたい事をやらせて広い心で見守っていこうと思った。
- ・伝え方によって子どもの力を育てることができることを勉強できました。おすすめの絵本や手遊びをもっと知りたい!と思いました。
- ・親としての立場や予定ではなく、あくまでも子ども主体に働きかけることが大切だということに改めて感じました。いろいろな本を読んでいますが、私たちにどうという方法がいいのか、これから(生まれてから)じっくりゆっくり考えながら進んでいきたいと思えます。
- ・「～してはダメ」よく言ってしまうなど反省です。自分に余裕がない時も感情的になって怒ったりせず、いつも笑顔で接していきたいと思えました。
- ・とても分かりやすい内容でした。主体性を育む関わりができるよう、自身も少し余裕を持って、今日お話しを聞いた関わりができたらいいなと思えました。
- ・子どもへの声のかけ方や、生活習慣の大切さが分かり、これから実践出来るような内容がたくさんあり、参考になりました。
- ・今後の成長の過程の中で、心配する所が多々あるが、話をきいて少し安心できた。

資料 4

R3.10.31 現在

市町村名	地域学校協働活動						新・放課後子ども総合プラン(小・中・高)		家庭教育支援事業	外部人材を活用した教育支援活動事業
	本部数	小学校	中学校	義務教育学校	高校	その他(小・中・高)	児童クラブ	子ども教室		
1 室戸市	6	5	4			1	2	4		
2 安芸市	10	8	2				4	9		
3 南国市	17	13	4				17	3		
4 土佐市	11	9	3				6	7	○	
5 須崎市	11	8	5				6	5	○	
6 信毛市	11	8	6				3	5	○	
7 土佐清水市	1	6	1				1	6	○	
8 四万十市	14	13	9				15	7	○	
9 香南市	9	7	4				12	3		
10 香美市	9	7	3			1	10	3	○	○
11 東洋町	1	2	2					1		
12 奈半利町	1	1	1			1	1	1		
13 田野町	1	1	1			1		1		
14 安田町	1	1	1			1		2	○	
15 北川村	1	1	1					1	○	
16 馬路村	1	2	2					1	○	
17 芸西村	1	1	1			2	1	1	○	
18 本山町	1	2	1				1	2		
19 大豊町	1	1	1					3		
20 土佐町	1	1	1					1	○	
21 大川村	1	1	1					1	○	
22 いの町	8	7	5				8	2	○	
23 仁淀川町	1	3	2					3	○	
24 中土佐町	3	3	2			1	1	2		
25 佐川町	5	4	2				2	3		
26 越知町	1	1	1				1		○	
27 榑原町	1	1	1					1		
28 日高村	1	2	1				1	2	○	
29 津野町	2	3	2			2		3	○	
30 四万十町	15	12	4				1	12	○	
31 大月町	1	1	1					1		
32 三原村	1	1	1					1		
33 黒潮町	1	8	2					4		
34 学校組合	(1)	(1)	(1)				1			
35 高知市	30 (46)	27	2 (17)	1 (2)			94	41		
36 県立	8				8					
事業実施予定合計	188	171	80	1	8	10	188	142	18	1
合計	(205)	(172)	(96)	(2)	8	10	188	142	18	1

※地域学校協働活動の()内の数字は、高知市版地域学校協働本部実施校16校及び一財対応の学校組合2校を含む。

基本方針Ⅳ 対策2-(1)

事業 名称	地域学校協働活動推進事業	事業 No.	85
		担当課	生涯学習課

概要	学校と地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる体制づくりを推進するため、地域学校協働本部の設置促進及び活動内容の充実等に取り組むとともに、民生・児童委員の参画などにより、厳しい環境にある子どもたちの見守り体制を強化した「高知県版地域学校協働本部」への展開を推進する。
----	---

到達 目標 めざす姿 (R5末)	<p>○学校や地域の実情に応じ、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちを見守り育てる仕組みが構築されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部の設置率（小・中学校） R4までに100%（R2：94.1% 小学校 171校、中学校 100校、義務教育学校 2校） ・高知県版地域学校協働本部の仕組みを構築した小・中学校の割合：100%（R2：68.3%）
---------------------------	--

取組の 課題 (R2末)	<ul style="list-style-type: none"> ■市町村や学校によって活動内容に差があることから、学校と地域の理解を深めるとともに、活動の充実の鍵となる地域コーディネーターの確保・育成などが求められる。 ■各市町村の「高知県版地域学校協働本部」の取組が円滑に進むよう県の支援が必要である。
--------------------	---

単年度の KPI (R3年度)	①地域学校協働本部の設置率（小・中学校）：96%	KPIの状況（9月末時点）
	②高知県版地域学校協働本部の仕組みを構築した小・中学校の割合：85%	

D 令和3年度 これまでの取組状況（4～9月）※実績9月末	C 留意点（■）とA 第3四半期以降の取組（→）
<ul style="list-style-type: none"> ●地域学校協働本部の設置促進及び活動内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校地域連携推進担当指導主事を中心とした支援 ：4名配置（3教育事務所と高知市に各1名） ・「事業状況調査票」を活用した進捗管理 地域学校協働本部の設置率（小・中学校） （R3見込：95.7% 小 172校、中 96校、義務 2校） 連携主事による学校等への助言訪問等回数 ：243回（9月末）※県版実施校含む 	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍における地域住民の活動への参画について、課題や留意点を引き続き整理していく。 →市町村や学校によって活動内容に差があるため、学校等への助言を継続 実践ハンドブックや取組状況調査の結果の活用 コロナ禍での活動の工夫や働き方改革につながる活動内容の情報収集・周知 →地域コーディネーターの確保・育成を継続 高知県地域学校協働活動研修会の開催 地域コーディネーター研修会の開催
<ul style="list-style-type: none"> ●高知県版地域学校協働本部への展開 <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員との連携促進 高知県民生委員・児童委員協議会連合会総会での事業説明及び参画要請（4月） ・市町村毎に設定した設置計画に基づき、地域や学校において資源や特色を生かした協働活動を推進 R3設置計画：小 167/184、中 72/96、義務 1/2 校長会等において県の取組方針に関する説明（4月） ・指導主事を中心とした学校訪問等を通じた個別支援 連携主事による学校等への助言訪問等回数：48回（9月末） ・市町村訪問等の実施 取組状況調査の依頼（7月）、市町村訪問（9月～） 	<ul style="list-style-type: none"> ■高知県版地域学校協働本部への展開の意義を、地域や学校に浸透させる。 →民生委員・児童委員の活動への参画を推進 地域・学校の状況に応じた個別支援 →各市町村の取組が円滑に進むよう支援 市町村訪問の実施 参考となる具体的な取組事例の情報収集

事業 名称	新・放課後子ども総合プラン推進事業	事業 No.	86
		担当課	生涯学習課

概要	放課後等の子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学び場の充実を図るため、放課後児童クラブや放課後子ども教室の設置を促進するとともに、学習習慣の定着や学ぶ意欲の向上につながる取組をはじめ、地域住民の参画を得た放課後等の活動を支援する。 また、家庭生活の困窮等で厳しい環境にある子どもも利用しやすい環境整備を行う。
----	--

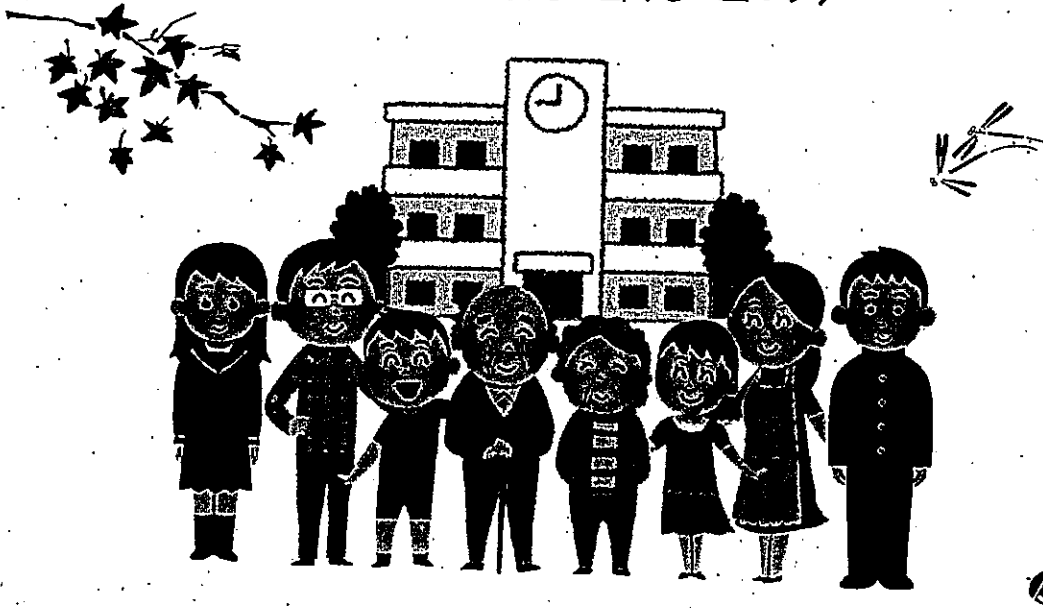
到達 目標 めざす姿 (R5 未)	○放課後に子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所が確保されている。 ・放課後児童クラブ又は放課後子ども教室の設置率(小学校):100%(R2:96.3%) ○「放課後学びの場」において子どもたちが学ぶ力を身につけることができている。 ・放課後児童クラブ及び放課後子ども教室における学習支援の実施率(小学校):100%(R2:98.8%)
----------------------------	---

取組の 課題 (R2 未)	■待機児童及び国の施設基準等を満たしていない児童クラブの解消に向け、新たな児童クラブの整備と従事する職員の確保が必要である。 ■各児童クラブや子ども教室の活動内容に差があり、充実した活動事例の共有に加え、特別な支援が必要な児童の受け入れに伴う専門知識・技能の向上などが求められる。
---------------------	---

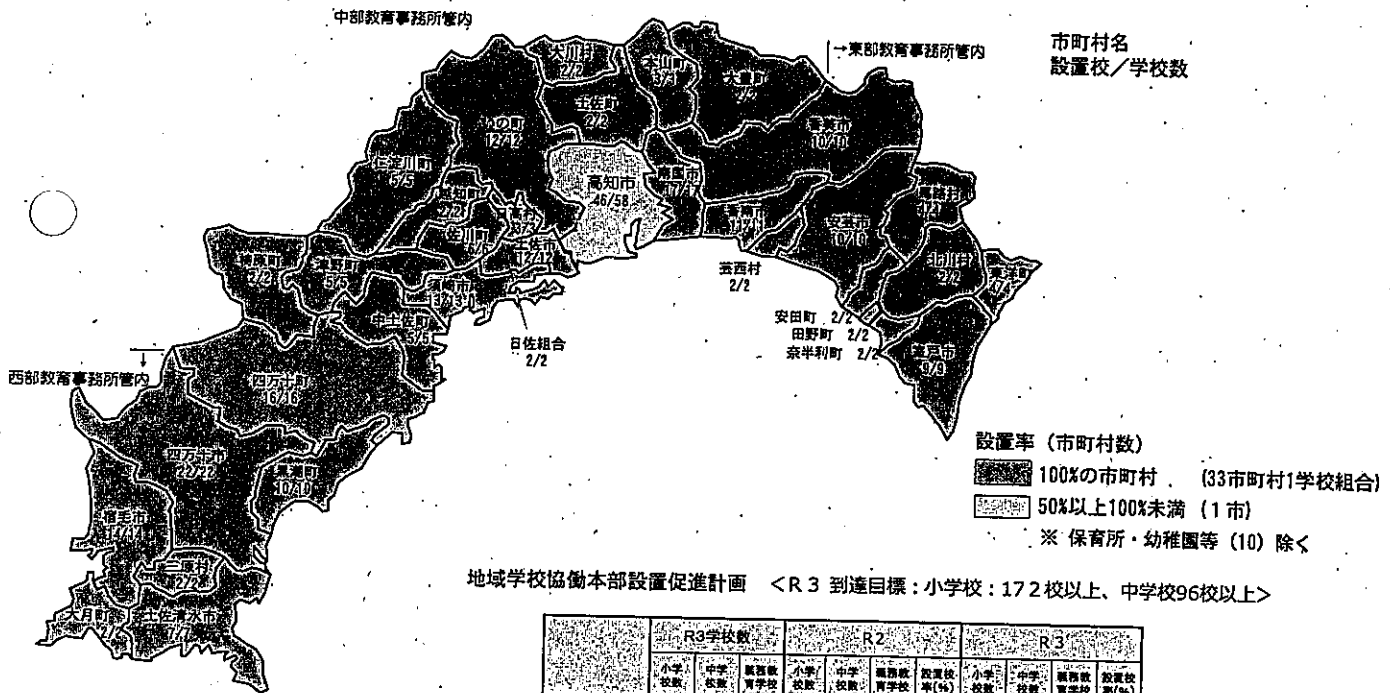
単年度の KPI (R3年度)	①放課後児童クラブ又は放課後子ども教室の設置率(小学校):97.3%以上 ②放課後児童クラブ及び放課後子ども教室における学習支援の実施率(小学校):98%以上	KPIの状況(9月末時点)
		3月集計予定

D 令和3年度 これまでの取組状況(4~9月) ※実績9月末	C 留意点(■)とA 第3四半期以降の取組(→)
<ul style="list-style-type: none"> ●放課後児童クラブ・放課後子ども教室の設置及び活動内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村への運営補助:設置数 R3 見込(うち高知市) 児童クラブ:189(94)、子ども教室:142(41) ・放課後補充学習(学校管理下)との一体的な実施 ・取組状況調査の依頼(7月)、市町村ヒア(9月~) ・児童クラブ施設整備への助成 R3 計画:3市5か所 	<ul style="list-style-type: none"> ■市町村が必要としている支援を定期的に把握し整理していく。 →各市町村の状況把握及び支援を継続 市町村ヒアリングの実施(~10月) 取組状況調査の結果を推進委員会で報告及び市町村へフィードバック・次年度に向けた助言等(10月)
<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成、人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村に研修の年間計画案を提示(4月) ・放課後児童支援員等の資質向上研修の開催「防災」6~7月:参加者数68名 ・子育て支援員研修(放課後児童コース)の開催(9月) ・放課後児童支援員認定資格研修の開催(9月~) 	<ul style="list-style-type: none"> ■研修によってはICTの活用を検討する。 →活動に携わる人材の育成・確保を継続 放課後児童支援員認定資格研修の開催(~11月) 放課後児童支援員等の資質向上研修の開催 児童クラブの人材確保に効果的な方法を検討・実施
<ul style="list-style-type: none"> ●厳しい環境にある子どもも利用しやすい環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブ単独補助事業(交付決定ベース) 利用料減免:9市町村61か所 開設時間延長:3市19か所 	<ul style="list-style-type: none"> ■利用しやすい環境整備につながる取組を継続する必要がある。 →対象者への声かけや補助事業の活用を周知徹底
<ul style="list-style-type: none"> ●学び場人材バンクによる支援 <ul style="list-style-type: none"> ・人材のマッチング件数:122件(9月末) ・出前講座実施回数:98回(9月末) 	<ul style="list-style-type: none"> ■市町村(現場)のニーズ把握やコロナ禍での支援の工夫が必要である。 →学び場人材バンクの運営 ボランティア等の地域人材の発掘・登録 人材紹介や出前講座の実施、人材育成等への支援

令和3年度 地域学校協働本部事業に関する 取組状況調査(まとめ)



R3 地域学校協働本部設置状況

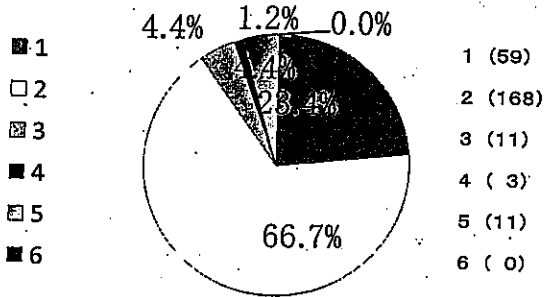


1 本部事業を実施してみて、どの程度効果があったと感じていますか。

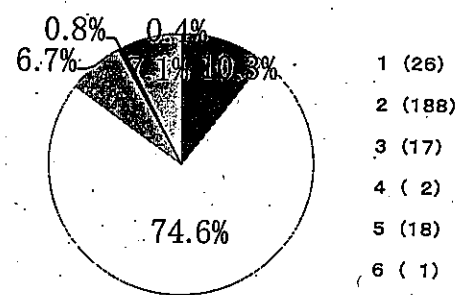
- 選択肢 1 効果が得られた 2 ある程度効果が得られた 3 あまり効果が得られなかった
 4 効果が得られなかった 5 分からない (6 無回答)

(1) 子どもたちが地域住民と交流し、多様な体験をすることによる効果について(学校取組状況調査より)

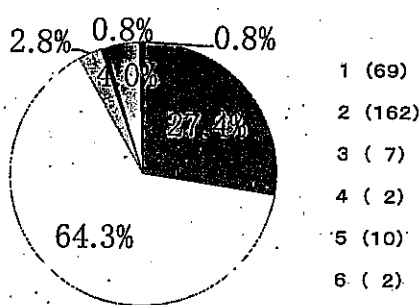
① 自尊感情の向上につながった



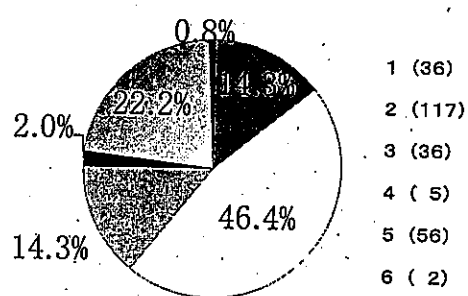
② 規範意識の向上につながった



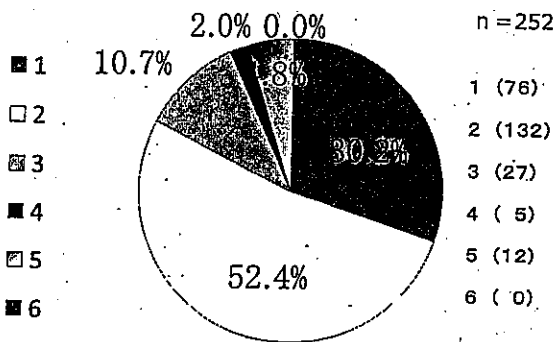
③ コミュニケーション能力の向上につながった



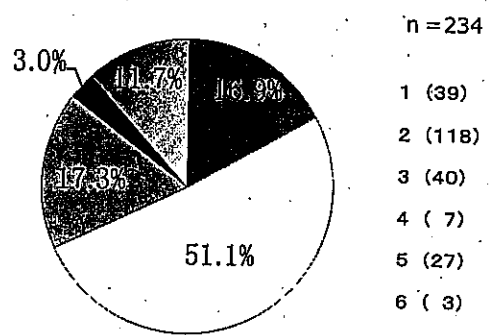
④ 学力向上につながった



(2) 地域住民が学校を支援することにより、教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができた(学校取組状況調査より)

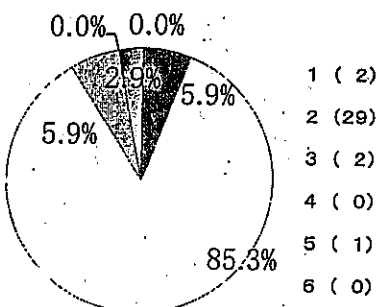


(3) 学校外で、子どもたちと地域住民が交流する姿が見られた(コーディネーター取組状況調査より)

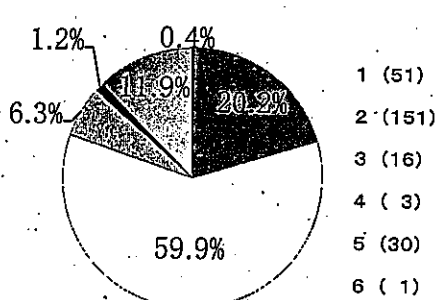


(4) 地域住民が学校を支援することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった

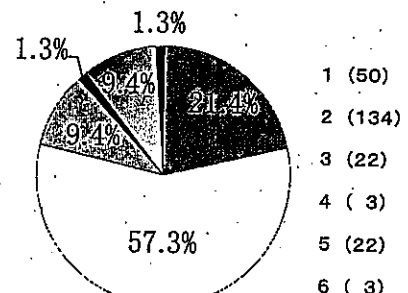
<市町村等> n=34



<学校> n=252



<コーディネーター> n=234



2 効果を感じた取組について、具体例を教えてください。

(学校取組状況調査より抜粋)

◆ 自尊感情・コミュニケーション能力の向上等

- ・手話学習や聴覚障害者との交流に継続して取り組むことで、聴覚障害者と積極的に関わろうとする意欲や実践力が高まった。
- ・同じ地域に住みながら中学生とのつながりが少なく、挨拶もしたこともなかった住民が会話を通して、ご家族との関係がつながるなど親睦が深まった。また、中学生にとっても地域を知ることにつながった。作業の参加者は、中学生が一生懸命取り組み、礼儀正しくてとても好感が持てると感じていた。また、昨年に続いて参加してくれた生徒は、慣れた手つきでどんどん作業してくれ、地域住民と交流し、多様な体験をすることで生徒達の自尊感情の向上につながり、地域の教育力の向上につながる行事となった。
- ・子どもたちの生活状況から、月1回「朝食づくり教室」を実施することとなった。子ども達に生き抜く力をつけたい！と、地域の方に教わりながら焼いた卵焼きと自分で握ったおにぎり、地域の方が作ってくださった味噌汁をいただく。米や野菜は全て地域の方からの差し入れ。食器洗いも自分で。全校児童76名中、約30名が参加。子どもたちは、みんなで食事をすることが楽しく、始業時刻近くまで地域の方と会話が弾んでいた。コロナで中止となっているが、地域の方からは、何らかの形で再開したいとの声をいただいている。
- ・高学年の家庭科授業支援で、児童一人一人と丁寧に関わっていただくことで手際よく裁縫作業を進めることができ、地域の方に褒めていただきながら活動することが高学年の児童にとって自尊感情の向上につながっていると感じる。

◆ 教員の負担軽減等

- ・地域コーディネーター、市民館長、公民館長の3者が連絡を取り合い、様々な角度から学校を支援するネットワークができていることが、学校としてありがたく心強い。
- ・地域の方々の協力により、多様で効果的な地域学習を行うことができている。また、地域コーディネーターの尽力により、様々な協力依頼をする際の教員の負担軽減が図られている。
- ・書写指導、水泳指導では、講師から専門性の高い指導を受けることができ、教員の負担軽減にもつながった。
- ・夏休み中のラジオ体操にも参加していただき、教職員ができない休み中の見守りをさせていただき助かっている。
- ・プール指導に対する協力を得ることで、水泳時の安全確保だけでなく、密を避ける指導や支援の徹底が図られている。
- ・丸付けボランティアは、教員の負担を軽減し、教員が子どもと向き合う時間の増加につながった。

◆ 子どもたちの学習意欲・学力の向上等

- ・普段の授業の中に入ることで、教諭が授業をスムーズに進めることができる。また、授業に集中することができない児童に声をかけることで、学習に向けることができる。地域の方が講師となっていただき、地域のことを広く深く学習することができる。
- ・学習支援活動において、授業補助や放課後加力指導をしていただき、児童の学力向上に貢献してもらっている。
- ・例年、水生生物調査やクラブ活動に参加して下さっている元教員の方が、児童の「したい」「知りたい」を大切にしたい関わりをもって下さっていることから、理科や総合的な学習の時間を「好き」と感じている児童が多い。本事業をありがたく感じている。
- ・「放課後学習教室」における学習支援員や学習応援隊とかかわることによって、学力向上の面はもちろんのこと、地域の応援者に温かく支援してもらおうことが生徒の励みになっている。

◆ その他

- ・安全パトロールによる登下校の見守り、学校行事等への支援、地域学習でのゲストティーチャー、夏休み子ども教室での講師など、子どもたちのために活動いただいていることに本当に感謝している。本校のような小規模校では、地域の方々の協力なくして、学校教育活動は成り立たない。
- ・組織化が図られ、PTA・地域・後援会の役員が話し合う機会が多くなった。
- ・防災校外学習(フィールドワーク兼危険箇所確認)では、学校からの呼びかけに応じて、地域の大勢の方が見守りに参加してくれて、沿道での声かけや一緒に歩く等の活動ができた。この活動を通して、地域との繋がりがや地域の方が児童を大切にしてくれていることが伝わり、とてもありがたかった。
- ・本年度から小中合同のPTA役員会に2名のコーディネーターにも参加してもらい、小中それぞれのPTA役員会にもコーディネーターに参加してもらうことで、PTAと地域学校協働本部及び校友会と一緒に学校の取組について考える場を定期的を設定できている(コーディネーターは校友会の会長、副会長でもある)。このことにより、保護者や学校だけでは対応が難しかったことへの地域からのサポートを受けやすくなってきた。
- ・本の読み聞かせ、丸つけ、自習の見守り、校庭の環境整備等、様々な場面で、コーディネーターを介して地域ボランティアさんの力を借りているが、それに対して「ありがとうの会」を開いたりお礼の手紙を書いたりする活動は、児童の学びに繋がっている。また、地域の方々にとっても喜ばれている。
- ・地域や外部から多彩な講師を招くことで地域や学校に多様性が生まれ、学校と地域の一体化が一層図れるという効果を実感している。特に財政面での支援がしっかりとしており、その効果が非常に大きいと感じている。
- ・今後とも財政面を確保をし、本事業を一層推進していただきたい。

(コーディネーター取組状況調査より抜粋)

◆ 効果等

- ・実施している対話会議で、「地域のために何ができるか？」について子ども達から意見が出始め、地域の一人としての自覚が感じられるようになってきた。
- ・図書支援員が週2回来校し、児童生徒の読書意欲を育む図書室の環境整備（月々の読書テーマに添った図書の選定・展示、季節の移り変わりを感じる室内装飾等）や、朝の読み聞かせと蔵書の管理事務（購入本の受け入れ、巡回図書の受け入れ・返却事務等）をしてくれるので、本好きの子どもが増えるとともに教職員の負担減になっている。
- ・小学6年生が取り組む郷土芸能の継承学習は、地域の経験者からの言葉かけや動作の指導があり、子どもたちにとっては家庭以外での大人とのつながり、地域との関係性を体験できる場である。地域の大人にとっても、やりがいを実感できる場となっている。
- ・小学校が学校だよりを掲載するなど、ホームページを活用して子どもたちの日常を積極的にお知らせしてくれたことで小学校の子どもたちについて考える時間が増え、子どもたちを身近に感じることができた。学校からの発信が主となっているが、地域の自治会やまちづくり協議会など、地域から学校へのアプローチがあってもよいと思う。
- ・学校の児童生徒が地域に出向き、自治会の方や地域の方と交流する様子が見られ始めた。地域を学習に生かし、住民も学校を身近に感じられ始めた。
- ・県外の大学に進学した本校の卒業生が、授業がリモートになり実家に長期滞省していた。その学生の英語力を見込み帰国子女の日本語指導をお願いした。
- ・企画や講師コーディネートにあたり、事務職員との連携を図ることで、業務の遂行がスムーズになった。
- ・森林学習においては、町の森林政策課とも連携。また技術の授業とも絡めながら、学校周辺（コスモス畑）に設置するベンチづくりを「こうち森林救援隊」の皆さんに協力を得ながら製作する。新しい団体とのつながりができたことで、総合的な深い学びが生まれている。
- ・図書環境整備で児童が本を借りやすいように棚を整理したり、本の修繕をしたり新書が入るスペースも確保でき、児童が読みたい本がすぐにわかるようになってよくなった。
- ・極小規模学校であるため、教職員と保護者だけでは学校行事の運営もままならない状態である。そのため地元の消防団と相談し、運動会などの学校行事に消防団員の支援を得て開催している。
- ・地域の方々を講師とした郷土料理学習や学校菜園の農業指導（イモ、特産物の落花生の栽培、収穫）など地域に根差した活動を通して郷土愛を育む大事な機会となっている。本部事業の財政的な支援によって多彩な人材を各方面からお招きすることができ、子どもだけでなく保護者や地域の方々にも文化的な刺激となっている。（例えば、アレルギー研修、手作り楽器の演奏会や絵手紙教室など）今後とも多彩で豊かな学校運営を行うためにも本事業を継続していただきたい。

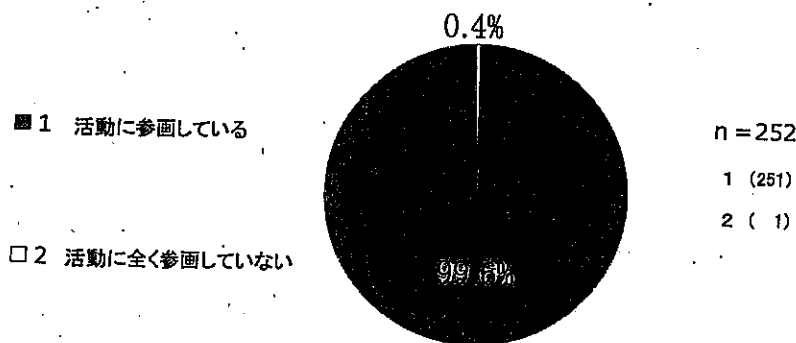
(市町村取組状況調査より抜粋)

◆ 効果等

- ・事業に対する住民の意欲が向上している。少子高齢化で過疎の町であっても事業体制が整っていれば、地域の教育力は十分に向上していける。
- ・コロナ禍により、行事等で交流する機会が減る分、学校が真に支援をしてもらいたいものが精選され、教科や特活に支援者が入ることで、学校や教職員・児童生徒の日常を地域の方が目にする機会がより増えたのではないと思われる。ここから、事業目的の一つとしてあげられる教職員の負担軽減へとつながればよいと思う。
- ・担当教員が活動推進員と校内の様子等を連絡しあう仕組みを作った学校では、活動推進員が学校の様子をより詳しく把握でき、学校との結びつきが深まったと感じている。また、給食の準備で人不足だったり、突発的な問題が生じた時に、地域の方が集まり、対応してくれた学校もある。日常的に学校と活動推進員の繋がりがあからこそ生まれた成果だと感じる。
- ・地域住民が積極的に学校行事に携わり、子ども達は昔遊びやその地域独自の食文化を学ぶ機会などが増え、より充実した学校生活が送れている。
- ・コロナ禍で、愛校作業や参観日が中止になり、学校を訪問する機会が減少している。そんな中でも、環境美化支援や家庭科の授業、クラブ活動の支援に入ったりすることで、地域住民が得意なことで学校に協力できる機会が増えてきた。また芋畑の手入れなど、学校だけでなく、保育所からの要請に応じることで、地域と保育所のつながりも広がった。また、活動に参加することで、参加者の生きがいづくりにもなっている。
- ・地域を知るという意味でも、先生では分かり得ない地域のことなども、学校を支援するボランティアを通して知ることができ、より広く多角的な教育が実践できている。また、ボランティア自身も自分の得意分野を学校教育活動に生かすことで、生きがいを感じることができている。協力してくれるボランティアの高齢化や参加者の偏りがあつたりとなかなか広がりが難しい状況ではあるが、本村での本事業におけるコーディネーターの位置づけは、ボランティアへの声かけや学校との調整など、多岐にわたって活躍していただいている現状から、大変重要な存在である。後継者の育成継承が進まなければ、本事業の衰退につながる事が予想されることから、大きな課題であると認識している。
- ・コロナ禍で工夫して実施した学校と、実施を諦めた学校に分かれたように思える。今後は工夫して実施できる方向へいけるとよいと思うが、判断は難しい。
- ・今年度のように補助金が大幅に減額をされてしまうと、削減する項目は報償費になってしまうため、事業の実施が難しくなる。

3 民生委員・児童委員の活動への参画状況

(1) 民生委員・児童委員は活動(登下校・学校外での見守り、学習支援、学校行事、地域コーディネーター等)へ参画していますが、
(学校取組状況調査より)



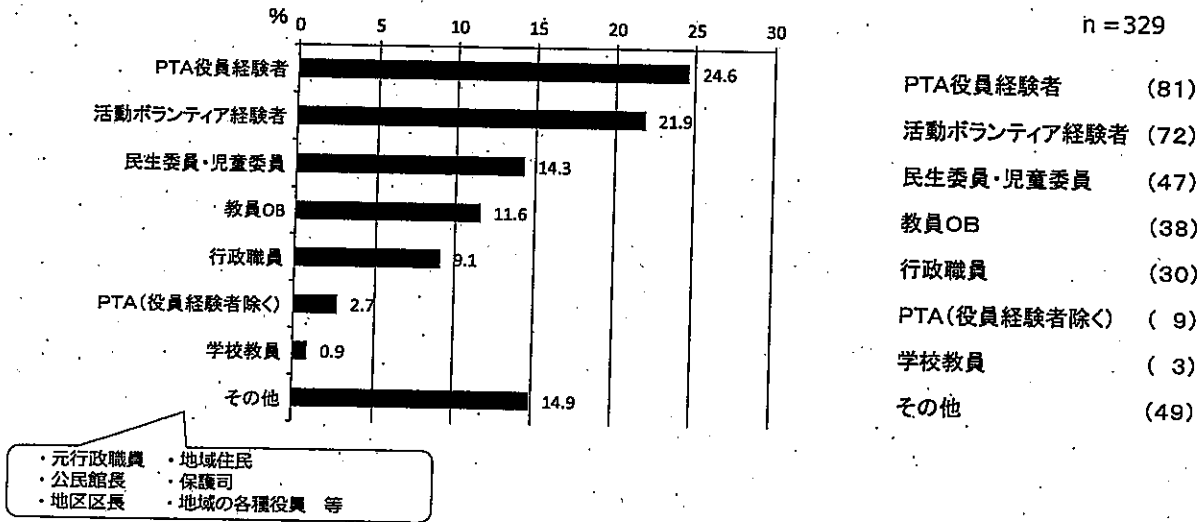
(2) 県では、厳しい環境にある子どもたちの地域による見守り体制を強化した「高知県版地域学校協働本部」への展開を推進していますが、民生委員・児童委員の参画による見守りで、効果を感じた具体例がありましたら、ご記入ください。
(学校取組状況調査より)

- ・毎月20日の「見守り活動(挨拶運動)」や学校行事に参加をしていただき、生徒は地域からも大切にされていることを感じている。
- ・地域学校協働本部の委員にもなっていただき、学校行事や活動に積極的に参加してもらうため、学校だよりや地域協働本部だよりを送付して案内している。また授業参観や行事に参加してもらうことで、児童の顔を知ってもらえる機会が増え、地域学習(生活・総合学習等)へも気持ちよく協力いただいている。
- ・放課後や休日における郊外での生徒の様子を、気に留めてくださる地域の方々の協力により、生徒指導面で早期対応が出来る。
- ・厳しい環境下にある子どもたちの事情を理解していただいているので、気になることがあれば確実に学校に連絡や報告していただける。機会を見つけ、民生委員・児童委員さんを紹介することで、多くの児童が顔と名前を知っており、日常的に言葉を交わす関係ができてきている児童も多い。
- ・本校は小規模複式校であり、地域と共に学校生活や学校行事等を実施している。民生委員・児童委員の参画により、学校行事等への参画や、地域からの情報の共有等に大変効果がある。

- ・支援を要する家庭の隣に住んでいる民生委員さんから、保護者が大きな声で子どもを叱っているようだという情報をいただいた。また、毎月の民生委員会に校長が参加させていただいており、気になる情報があれば提供していただいている。
- ・定期の学校運営協議会や民生児童委員さんとの会の時に、生徒や保護者、家庭の様子の情報共有や支援の方向性の確認等ができた。日頃より、生徒や保護者の様子を気にかけてくれ情報を提供してくれる。
- ・両親が忙しく夜も遅くなり睡眠時間や朝食が心配されている児童について、近くの民生委員が見守り声かけをしってくれるようになった。また、近くに住む曾祖母と民生委員が知り合いということで声をかけていただくと共に、民生委員も若いお母さん・お父さんを支えようと気掛けてくれるようになった。
- ・毎朝の登校時の見守りをしてくださっている民生委員さんから、気になる児童の朝の登校時の様子や保護者と児童との関係性などを伺い、児童理解や支援に活かすことができた。
- ・気になる子どもについての相談をいただくこともあり、学校での様子を伝え、お互いに子どもの見守りをしていこうと確認したことがあった。
- ・毎週校内で行われる生徒支援委員会(校長・教頭・主幹教諭・生徒指導主事・養護教諭・各学年生徒指導担当・SSWが参加)に昨年度より、地域の主任児童委員さん2名に月2回以上参加していただき、本校の生徒の実態を共有し、見守り体制を築くことができています。
- ・民生委員・児童委員さんから情報を頂いたり、意見交換等を行っていることが、直接的ではなくとも間接的には地域の見守り活動の強化に繋がっていると感じる。
- ・「見守り隊」が地域・児童に認知されるように腕章を配付した。今後さらに人数が増えていけば、児童の安心・安全につながっていくと思う。
- ・民生委員が学校訪問をし、学校の様子や担当家庭の生徒の様子を見ることで、お互いの信頼関係の向上につながっている。また、保護者との面談では見えてこない情報の共有も可能であり、よりきめ細かな対応につながると感じている。現在、放課後子ども教室のスタッフに民生委員さんがおり、その視点で児童の見守りをしてきている。
- ・民生児童委員が子どもの家庭での現況を近隣住民から聞き取ってくれたので、最新の家庭環境を把握することができ、子どもへの指導・助言に活かすことができています。
- ・県内外から移住してきた家族が、地域に溶け込むことができるように、家庭を訪問したり日常的に声をかけたりと、保護者が相談しやすい関係を築いている。そこで知り得た情報は、学校に提供してくれ、学校と民生委員が常に連携し協力し合える関係であることから、登校渋りの児童等の減少にもつながっている。また、登校時、月2回の街頭指導の他にも、毎朝、児童と一緒に学校まで歩いて見守ってくれる児童委員もいる。登下校中の児童の交通・生活安全面を支えてくれる心強い存在である。
- ・学校には、家庭的に心配な児童がおり、これまでも地域での見守りをお願いしてきた。そして、昨年は、特に長期休業中に見守りが必要であると感じられた児童が数名いたので、夏期休業前に民児協定例会に出席し、それらの家庭についての状況を説明し、地域での見守りと、何かあった時の情報提供をお願いした。そして、民生委員・児童委員からは、夏期休業中、また夏期休業終了後も、当該児童についての情報が学校に寄せられた。

4 地域学校協働本部の状況

あなたの属性を教えてください。(コーディネーター取組状況調査より)【複数回答のため、重複あり】



5 課題・ご意見等

(学校取組状況調査より抜粋)

◆ 課題

- 本校は、中山間地域の大変小さな学校区であり、民生委員・児童委員や学習支援員など、人材不足の状態が課題と考えます。
- 地域での活動の中心となる方が限られており、高齢化が進んでいることなどを考えると今後の展望が持ちにくい。
- 数校が統合した学校であり、広い校区に少数の児童が点在する環境。また、通学にはスクールバスを利用する関係で地域で児童の姿が日常的に見られることが少ない状況であり、民生児童委員の方々の参画が難しい。

(学校取組状況調査より抜粋)

◆ ご意見等

- 「特別警戒」以上のレベルの際に、地域や民生委員・児童委員の方々との交流が中止となり、年度当初計画した活動がほとんど実施できていない状況である。
- 事業で実施できる内容について、幅広く積極的に活用したいとは考えているが、地域の人材が限られているため学校のニーズに応じた人材の確保が難しかったり、予算面などの課題も多いと感じる。
- 学校関係者だけでは担い手を見つけて依頼することは難しく、人材バンクのように登録された方にお声掛けできるような仕組みがあればありがたい。
- ボランティアさんの高齢化によるボランティアの減少や新規協力者の発掘、また厳しい環境にある子どもたちに対しては、民生委員・児童委員さんだけではなく育成や児童相談所、福祉や医療機関等との連携も必要となってくると考える。
- 地域の見守り活動においては、地域の方を含め気軽に声をかけにくい(不審者疑い)場面もあるなどの声もあった。地域に腕章を配付することや腕章をつけるなどの工夫を行う必要がある。
- コロナ禍でも本校の事業を継続し、体験学習、環境整備、読書活動は実施することができた。職業として地域コーディネーターを担い、企画、準備、人的手配、運営ができる人を配置できたらよいが、それに見合った給与を支給できる仕組みがほしい。
- コロナ禍という事もあって、地域の方々と実際に会うことや交流することを含む行事については、やはり慎重に行う必要があると考える。学校側のICT等(リモート環境)は整いつつあるが、地域(各家庭など)についてはまだ使用感も含めて段階をおってという状況であるので、互いの環境を整えば、新しい形も模索していけると感じている。
- 各市町村での本件に充てる予算面での対応が違っているので、学習ボランティア、環境ボランティア、図書ボランティアなどの取り組みに対する対応が遅れている。
- 厳しい環境にある子どもたちの家庭への直接的な働きかけが難しいこと。本部事業については実働の活動費が保障されていないこと。
- 図書支援員や読み聞かせなど、いろいろな取り組みをしているが、外部の人任せにできないことが多く、協力はしていただいても、事前事後の指導を考えると教員の負担軽減、働き方改革には繋がりにくい面が見られる。コロナ禍の関係で外部との連携には感染症対策をとりながらのため、新たな取り組みや連携を深める取り組みにはなりにくい。
- 財政面での支援がしっかりとしており、その効果が非常に大きいと感じている。今後とも財政面を確保し、本事業を一層推進していただきたい。
- 本事業では、児童の安全な学校生活の見守り活動をはじめ、学力向上対策(学習支援)や学校施設の環境整備(清掃や池の管理)等、円滑で効果的な学校運営において地域の方々の多大な支援をいただいている。こうした状況が継続できるよう、予算の確保及び増額を強く願っている。

(コーディネーター取組状況調査より抜粋)

◆ 課題・ご意見等

- ・コーディネーターが学校教員であることで、地域の人材を有効的に活用できているのか、または、効率的か疑問を持っている。新たな活動を考える時も、学校が情報を集め、お願いするという従来の方法で進めている。本事業を進めるなら、コーディネーターは学校教員ではなく行政主導でやっていただきたい。今のままでは、従来学校が行ってきた方法と何も変わらない。
- ・急激な児童生徒数の減少により、今までと同じような活動が難しくなる。
- ・学力の定着、学力保証による授業時数確保が最優先であることから、体験活動に費やす時間の確保が難しいことにつながり大事にしたい部分に時間をかけられない。
- ・現在まで地域学校協働活動を推進して、地域との交流活動を行ってきている状況下で、学校も満杯状態になってきている現状があるのではないだろうか。
- ・学校の窓口となる校務分掌上の先生の配置も重要になる。
- ・小学校区のコーディネーターとの意見交換を行う機会がほしい。
- ・本部事業を（本部事業の取り組みに限らず）周知することも必要なのでは？と感じている。周知することでより多くの情報を得られ、より多くの事業計画ができるのではと考えるが、多くの意見を全て取り入れることにはもっと課題が必要となり、事業本来の目的と違ってくるようになってしまう（見失う）結果にもなりかねないとも考える。

(市町村取組状況調査より抜粋)

◆ 課題・ご意見等

- ・少子高齢化で過疎の町であっても事業体制が整っていれば、地域の教育力は十分に向上していける。事業の内容、取組を知らない住民に対して今後は、広報活動、説明等で熟知してもらうことが必須である。
- ・協働活動推進員の方のアンケートからは、学校に入る機会が減ったことで、思うように活動できない状況を過ごすなか、その現状がもどかしいと感じ、活動したい欲求が高まっていることがうかがえ、頼もしい限りである。一方、必要性を認識しているが活動に制限があることで消極的になっているのか、他の業務で余裕がないからか、地域とともに現状でできることを工夫する気持ちがあり感じられない学校もあり、地域とのつながりが薄れ、コロナが収束した際に、かつての取組に戻ることも自体も難しくなる学校もあるのではないかと危惧している。
- ・市町村によって異なることかもしれないが、本市ではコミュニティスクールは学校教育課担当で、地域コーディネーターは学習課が担当し、学校側も報告を2箇所に提出しなければならず、事務の煩雑化につながっているように思われる。
- ・本事業におけるコーディネーターの位置づけは、ボランティアさんへの声かけや学校との調整など、多岐にわたって活躍していただいている現状から、大変重要な存在である。後継者の育成継承が進まなければ、本事業の衰退につながる事が予想されることから、大きな課題であると認識している。

6 コロナ禍における取組の工夫や成果を上げた具体例

(学校取組状況調査より抜粋)

- ・いつも生徒たちが関わっている地域の祭りがコロナ禍により中止になったが、それに代わる活動として「街の活性化ボランティア」によるイベントが企画され、本校生徒が参加できる体制が図られた。それに呼応してイベントの初期段階の準備を、地域学習と絡めた総合的な学習の一環に位置づけ全校生徒で取り組んだ。その後継続した仕上げは、長期休業中に地域ボランティアと希望生徒のみで取り組み、新聞等にも取り上げられ、本校HPでも紹介した。各生徒が地域活性化の一助となれたことを実感し、自己有用感向上につながったのではないかと考えられる。
- ・地域のひとり暮らしの高齢者在宅訪問ができない時には、児童が色紙に思いを込め、切り絵も添えて郵送したことさえなくても地域と児童が心をつなぐ活動になった。
- ・屋外での作業であることや児童数が少なく、密になりにくいことから、夏休みに地域活動の一環で川の清掃活動を一時間程度行った。地域の方からゴミの量が減少していることや川の保全についてお話していただくことで、児童の環境問題への理解が深まった。
- ・朝学習の丸付けボランティアの時には、ボックスの中にプリント入れるようにして、ボランティアさんの前に列をつくらないようにするなど、密にならない工夫をした。
- ・部活動での外部コーチによる指導は、感染対策を徹底し、短時間でより内容の濃い指導や支援ができた。
- ・コロナにより行事や活動が中止となったり制限されたりしている。そこで、地域や保護者の方たちは、子どもたちの様子が知りたいであろうと、運営協議会のメンバーが中心になってインスタグラムを始めた。
- ・読み聞かせ活動の際に、書画カメラで挿絵を見せながら読み聞かせを実施したところ、児童にも読み聞かせボランティアさんにも好評であった。
- ・地域学校協働本部の皆様と交流を深める機会が限られるため、顔写真を撮影し、校内に掲示することで、見守りや学習支援をしてくださっている方々を、児童に紹介した。
- ・1学期に何とか取り組めた活動には、町の社会福祉協議会との連携による「地域の高齢者とのふれあい訪問」と「障がいをもつ方々とのポッチャ体験」がある。ふれあい訪問では、社会福祉協議会の方が、「子どもたちが訪問することで高齢者の方々の表情がとても明るくなる」と、おっしゃってくださいました。お互いにプラスの効果がある。
- ・感染対策に万全を期すことはもちろんのこと、各種行事等も参会者を保護者、祖父母や島内のワクチン接種者に限定するなどして対応してきた。情報交換を欠かさず行い学校・保護者・地域の協力体制を作っている。
- ・直接的な取組や効果の検証は困難であるが、コロナ禍において不安やストレスのある児童にとって、地域の人材による励ましや見守りはその解消に少なからずよい影響を与えてくれていると感じている。
- ・朝の登校の見守り支援や児童の検温の支援をいただき円滑な一日のスタートが実現した。
- ・地域でフェイスシールドを作成して、感染防止策をとっている。行政の協力もあり、対面での会議に参加しにくい人々に、ズーム会議でも参加できるようにICTを活用して会議を行うことができた。

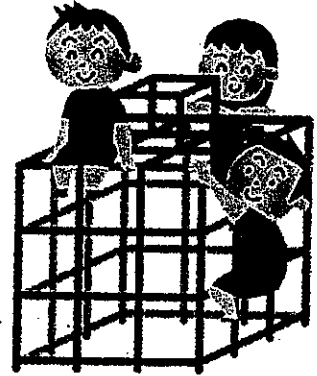
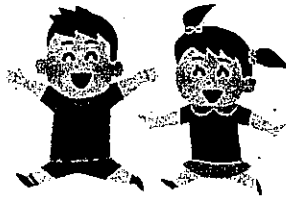
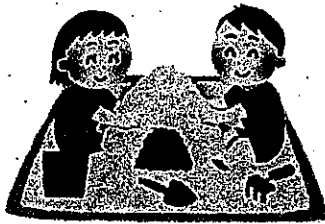
7 コロナ禍における地域と学校とのつながりを継続するための工夫

(コーディネーター取組状況調査より抜粋)

- ・他府県でも行っているオンラインや動画配信での取り組みを検討していきたい。地域の方々のお話や昔遊びなどを事前に撮影し、子ども教室で子ども達に視聴してもらおう。またその様子も地域の方に配信で観ていただくことでコロナ禍でも繋がる交流を取り組んでいきたい。
- ・コロナ禍においても、感染対策を十分行うことで、活動はある程度可能である。地域と学校とのつながりを継続するには、情報の共有、お互いの情報発信等が必要になる。そのためのコーディネーターとしての地域学校協働活動推進委員が大事になると考える。
- ・コロナ禍の中でも、できることを計画し、学校と地域とのつながりが薄くならないよう、切れないように支援していきたい。
- ・環境を整えば学校のホームページを介して情報発信およびボランティアの募集を効率的にしたいという希望はあります。(セキュリティ問題や機材の確保が必要)
- ・リモートなどで地域の人とのつながりを続けていってほしい。コロナを理由に何もしないのが一番いけないことだと思う。
- ・長期間に及ぶと思われるコロナ禍での学校の新たなニーズの洗い出しと、ボランティアのマッチング。
- ・コロナウイルス予防にも活かせる学校でのマナー、家庭でのマナー、未来のためのビジネスマナーなど、ソーシャルマナーを勉強する機会をつくる。
- ・コロナ禍の屋内の活動は中止や延期だが、屋外の活動(民生委員のあいさつ運動、栽培委員会活動、環境美化)は実施している。屋外の活動はコロナの感染者が増える度に見直しをし、安全性を第一に活動している。
- ・本来は児童と地域の方が直接触れ合うことが目的であり最良であるが、マスクで顔が見えない状態ではお互い”見知る”ことが難しい。その点、リモートだとマスクを外せるので少なくとも「地域にこんな先輩がいるよ。」という紹介はできる。
- ・できない行事があっても、学校と連絡を取り合い、細かな情報を共有することが、地域と学校とのつながりを継続していくことにつながる。
- ・玄関前での朝の挨拶など、コロナ禍になったからこそ取り組み、継続している事業もある。「コロナだからやめる」ではなく、「こういうやり方ならできるのではないだろうか」という方法を先生方が一緒に考えてくださるのでありがたい。
- ・コロナによって、さまざまな不安やストレスを受けていると思われる子どもたちにとって、少しでも励みになるような活動を心掛けている。
- ・学校側の厚意により、新入児のサポーターとして毎日一年生のクラスに入っている。子どもたちとのつながりがある限り、コロナ後のことを見据えて活動が継続できている。
- ・メンバーでZOOM本音de討論会やフェイスブックで専用アカウントを作成し、それぞれの活動内容を投稿し合うようなことをやってみてはどうか。

令和3年度 放課後子ども教室・放課後児童クラブ

取組状況調査(まとめ)



①放課後子ども教室の実施状況について(小学校)

令和3年10月現在

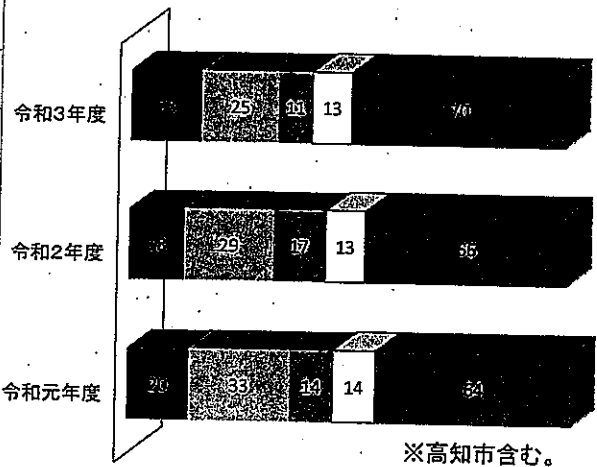
■開催日数の推移

日数	令和元年度				令和2年度				令和3年度(予定)			
	高知市外		高知市		高知市外		高知市		高知市外		高知市	
均開催日数	149		143		87		158		179		107	
50日未満	20	14%	13	7	18	13%	14	4	23	16%	12	11
50日以上	33	23%	10	23	29	20%	6	23	25	18%	6	19
100日以上	14	10%	13	1	17	12%	12	5	11	8%	10	1
150日以上	14	10%	11	3	13	9%	12	1	13	9%	10	3
200日以上	64	45%	57	7	66	46%	58	8	70	49%	63	7
合計	145		104		41		143		102		41	

・平均開催日数は年々増加している。特に200日以上開催しているところが全体の約半数を占めており、放課後の居場所としての役割に加え、長期休業中の居場所としても活用されている。

(平均開催日数参考)

H27 138日、H28 143日、H29 150日、H30 154日



■土曜日等の開催について

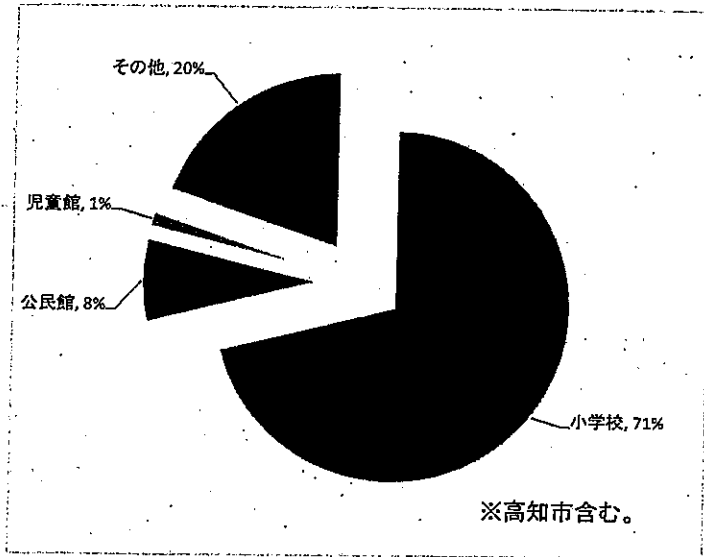
日数	令和元年度		令和2年度		令和3年度(予定)	
	高知市外	高知市	高知市外	高知市	高知市外	高知市
50日未満	99	63	36	109	73	36
50日以上	26	25	1	34	29	5

■ 50日未満 □ 50日以上100日未満
 ■ 100日以上150日未満 □ 150日以上200日未満
 ■ 200日以上

②放課後子ども教室の活動場所について (小学校)

令和3年10月現在

■主な活動場所



※施設の利用例

小学校	校舎内の空き教室、図書室、体育館、多目的教室、教室の一時的使用等
その他	集落活動センター、休閒校舎、旧保育園、市立体育館、市立図書館、福祉館 コミュニティセンター、生活改善センター あったかふれあいセンター

※学校施設の利用例

- ・長期休業中の校庭、体育館、プールの利用
- ・イベント開催時の多目的教室、体育館の利用
- ・月数回、もしくは不定期の校庭、体育館の利用
- ・雨天時の体育館等の利用

③放課後児童クラブの実施状況について

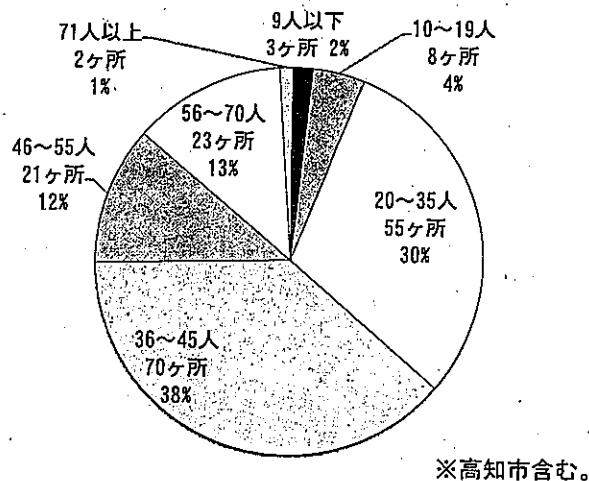
令和3年5月現在

■実施箇所数および児童数等 ※民間の実施箇所を除く。

実施市町村	実施箇所数	登録児童数	待機児童数	放課後児童支援員等数	※参考(R2年度実績) 放課後児童支援員 認定資格研修修了者
19市町村	94	3,222	36	561	63
参考:高知市	88	3,878	23	292	26

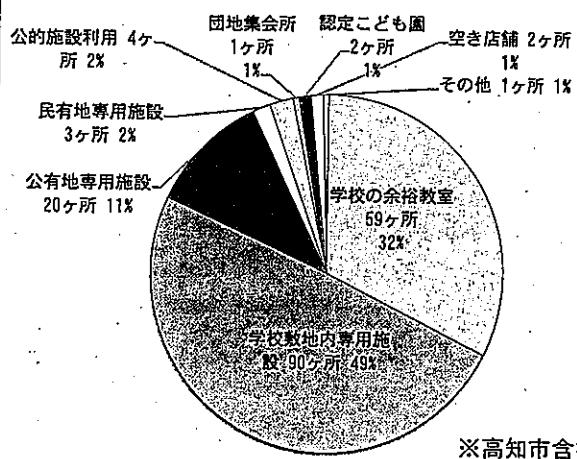
■規模別実施状況

登録児童数の人数規模別で見ると、45人までの児童クラブが全体の約7割を占める。



■実施場所の状況

実施場所は、学校敷地内専用施設と学校の余裕教室が全体の8割以上を占める。

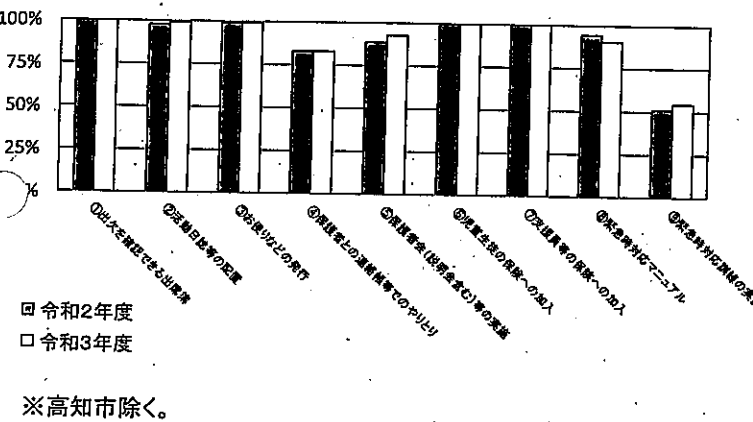
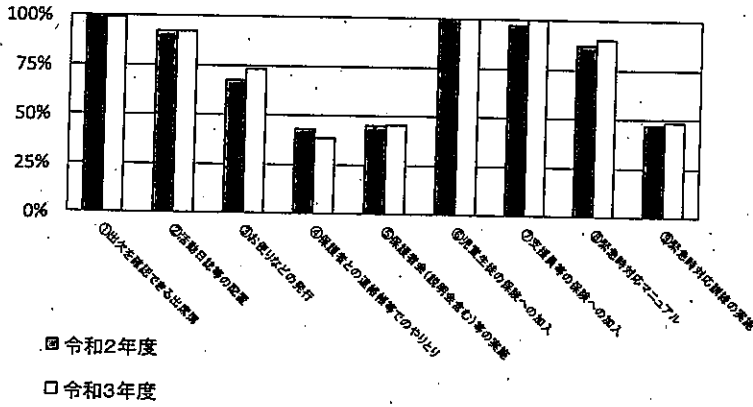


④県内の取組状況について（小学校）

令和3年10月現在

◆安全・安心な居場所（上：子ども教室、下：児童クラブ）

【観点1】(1)安全・安心な居場所



- ・全体的に昨年度と同様の回答結果となった。
- ・児童及び指導員等が保険に加入し、事故等へ備えることができている。
(加入保険例)
スポーツ安全保険、児童クラブ共済制度等

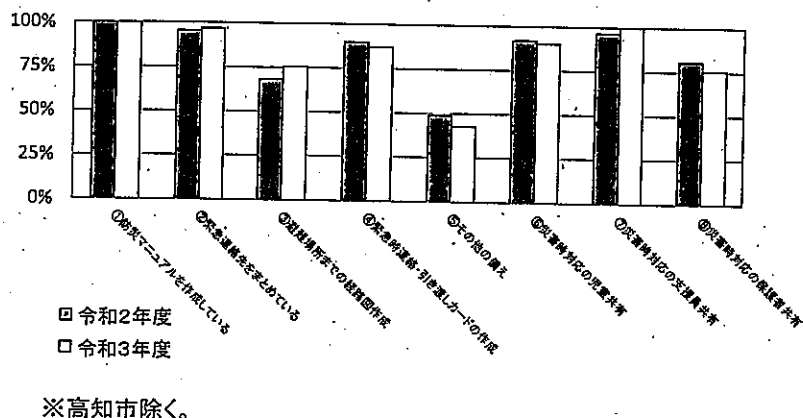
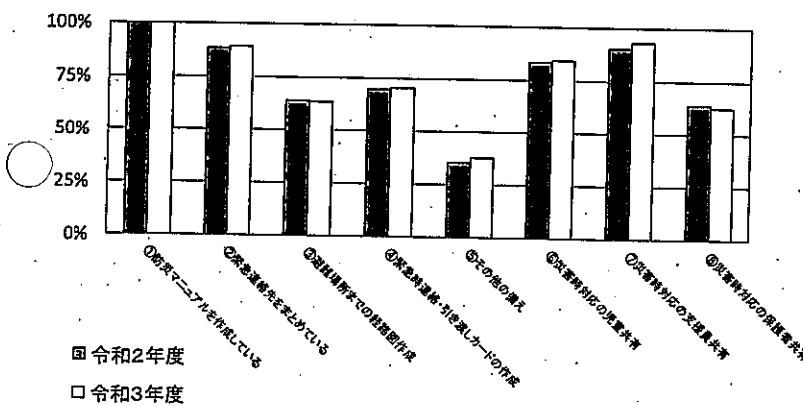
【参考】

(単位：%)

質問項目	子ども教室		児童クラブ	
	高知市除く	高知市含	高知市除く	高知市含
①出欠を確認できる出席簿	99	99	100	100
②活動日誌等の配置	92	94	99	99
③お便りなどの発行	73	81	99	99
④保護者との連絡帳等でのやりとり	39	27	83	91
⑤保護者会等の実施	46	32	93	96
⑥児童生徒の保険への加入	100	100	100	100
⑦指導員等の保険への加入	100	100	100	100
⑧緊急時対応マニュアル	90	64	90	95
⑨緊急時対応訓練の実施	49	35	54	76

◆防災マニュアル作成（上：子ども教室、下：児童クラブ）

【観点1】(2)防災マニュアル作成について



- ・すべての自治体で防災マニュアルの作成ができているが、時代の変化に応じたマニュアルの推敲が必要である。
- ・マニュアルの推敲にあたっては、研修の実施及び人材バンクの市町村支援等が必要である。

【参考】

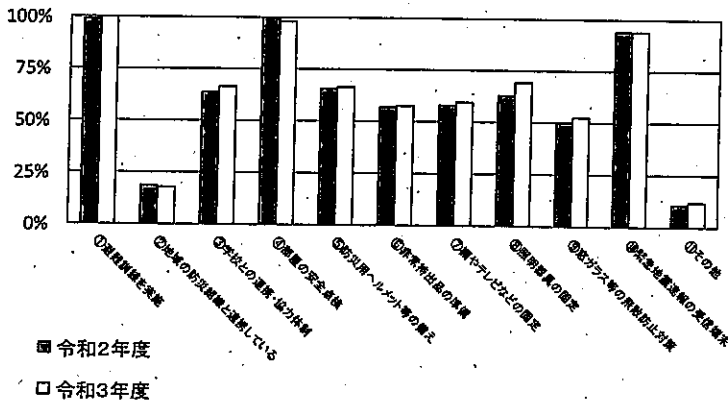
(単位：%)

質問項目	子ども教室		児童クラブ	
	高知市除く	高知市含	高知市除く	高知市含
①防災マニュアルの作成	100	100	100	100
②緊急連絡先をまとめている	89	92	97	98
③経路図の作成	64	45	76	39
④緊急時連絡引渡カードの作成	70	50	87	93
⑤その他の備え	38	27	43	22
⑥災害時対応の児童共有	84	60	90	95
⑦災害時対応の支援員等共有	93	95	100	100
⑧災害時対応の保護者共有	62	44	76	87

※高知市除く。

◆避難訓練、安全点検等の取組（上：子ども教室、下：児童クラブ）

【観点1】(3)避難訓練、安全点検等の取組について



・避難訓練の実施については、子ども教室及び児童クラブともにすべての箇所で実施できた。（実施回数平均）

子ども教室 1. 6回 児童クラブ 3. 3回
 ・避難訓練の実施方法について、学校との共同実施が向上できるように市町村へ働きかけをしていく。

・室内の安全対策の実施

※⑤～⑩のいずれか実施

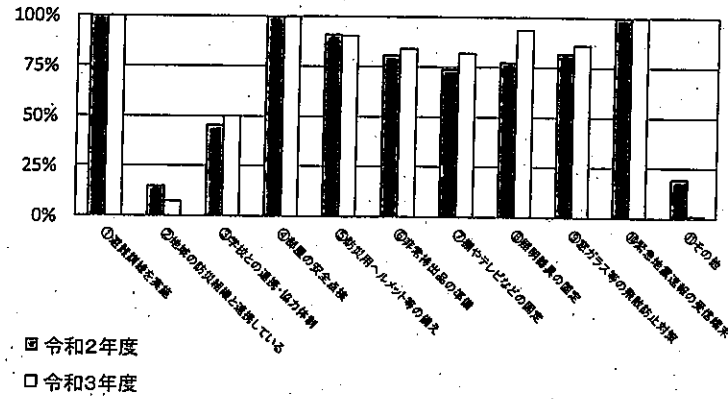
子ども教室 R2：99% → R3：99%

児童クラブ R2：100% → R3：100%

【参考】

（単位：%）

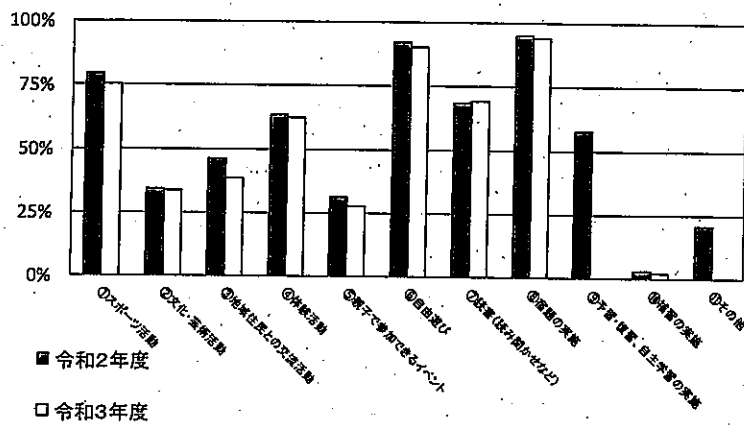
質問項目	子ども教室		児童クラブ	
	高知市除く	高知市含	高知市除く	高知市含
①避難訓練を実施	100	100	100	100
②地域の防災組織と連携	18	13	7	7
③学校との連携・協力体制	66	76	50	74
④部屋の安全点検	98	99	100	100
⑤防災用ヘルメット等の備え	66	47	90	95
⑥非常持出品の準備	57	41	84	92
⑦棚やテレビなどの固定	59	71	82	91
⑧照明器具は固定している	69	78	94	97
⑨窓ガラス等の飛散防止対策	52	66	86	93
⑩緊急地震速報の受信端末	94	96	100	100
⑪その他	12	8	1	7



※高知市除く。

◆支援活動の種類（上：子ども教室、下：児童クラブ）

【観点2】 支援活動の種類



・各実施場所において、必要な新型コロナウイルス感染症対策を行い学習、体験活動の実施しているが、3密を避けられない体験活動については実施が減少している。ただし、児童クラブにおいては、何かしらの体験活動を再開させようという動きがみられる。

・体験活動の実施（②～④のいずれか実施）

子ども教室 R2：75.5% → R3：71.3%

児童クラブ R2：71.6% → R3：77.7%

【参考】

（単位：%）

質問項目	子ども教室		児童クラブ	
	高知市除く	高知市含	高知市除く	高知市含
①スポーツ活動	75	82	45	71
②文化・芸術活動	34	53	21	11
③地域住民との交流活動	39	56	11	5
④体験活動	62	73	53	76
⑤親子参加イベント	28	49	21	11
⑥自由遊び	90	93	100	100
⑦読書	69	78	91	96
⑧宿題	94	96	100	100
⑨予習・復習、自主学習	0	0	73	86
⑩補習	2	1	2	1
⑪その他	0	0	18	9

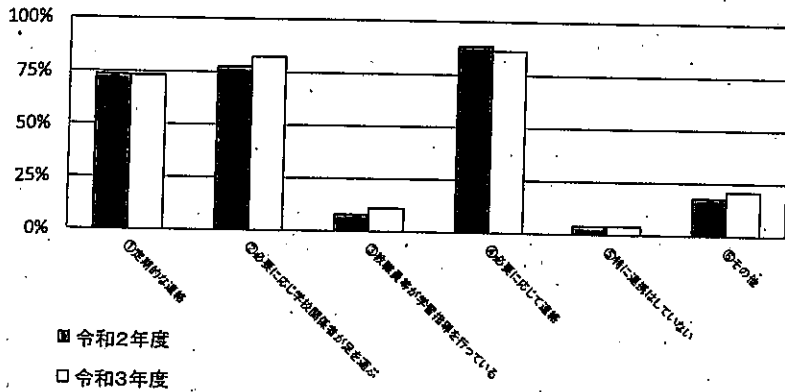
令和2年度

令和3年度

※高知市除く。

◆学校との連携(上:子ども教室、下:児童クラブ)

【観点3】 学校との連携



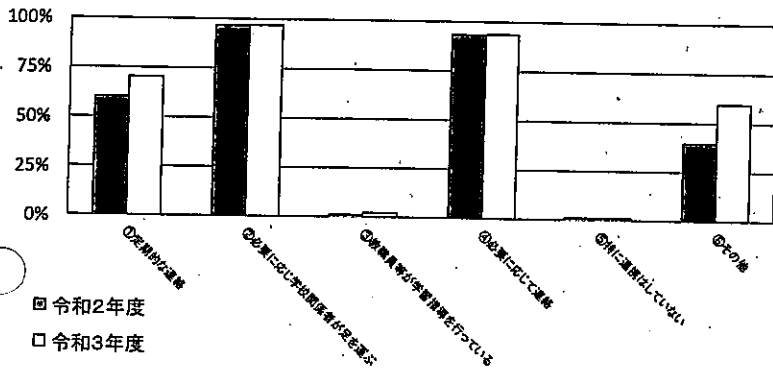
・昨年に続き、子ども教室、児童クラブの両方において「必要に応じて学校と子どもの様子について連絡をとりあっている」が高い回答結果となり、更に昨年度よりも向上できた。

・「特に連携していない」が少数であり、放課後と学校の連携状況は進みつつある。

【参考】

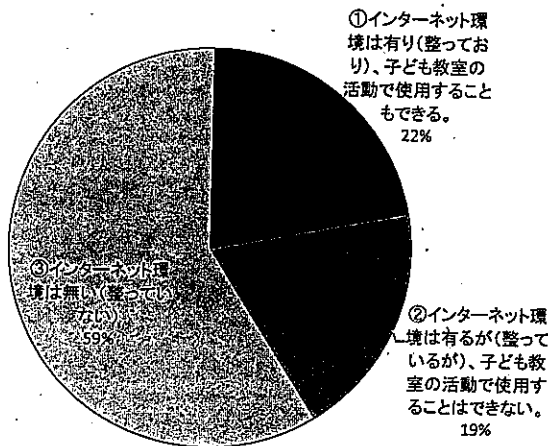
(単位: %)

質問項目	子ども教室		児童クラブ	
	高知市除	高知市含	高知市除	高知市含
①定期的な連絡	73	81	70	85
②必要に応じ学校関係者が足を運ぶ	82	87	97	98
③教職員等が学習指導を行っている	11	8	2	1
④必要に応じて連絡	86	90	94	97
⑤特に連携はしていない	4	3	1	1
⑥その他	21	15	60	79



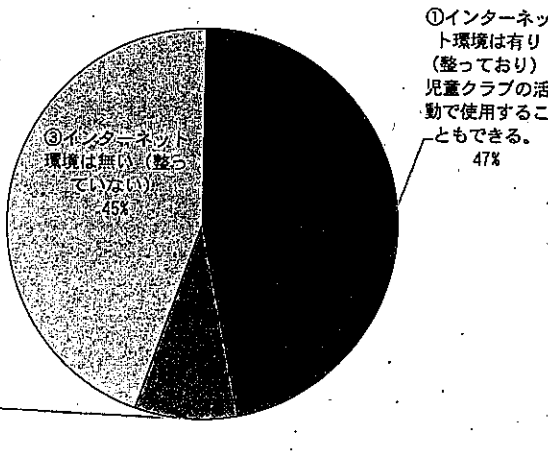
※高知市除く。

◆インターネットの整備(上:子ども教室、下:児童クラブ)



・子ども教室、児童クラブともにインターネット環境がない活動場所が約半数である。
 ・インターネット環境があっても、放課後の活動に使用できない場合がある。
 ・放課後児童クラブでは、インターネットを活用しているクラブとそうでないクラブが二極化している。
 ・インターネットやデジタル機器に苦手意識をもっている従事者が多い。

【参考】 ※インターネットを活動で使用している場合、その内容(複数回答可) (単位: %)



質問項目	子ども教室	児童クラブ
	高知市除	高知市除
①保護者への連絡に活用している	5	68
②子ども教室・児童クラブの活動等について、HP等で発信している	14	5
③市町村担当者とのメールによるやりとりを行っている	18	66
④Youtube等を活用した学習や体験活動等の取組を行っている	73	61
⑤研修や他の児童クラブ・子ども教室等との交流及び情報交換に活用している	9	46
⑥その他	14	14

※高知市除く。

NPO法人 高知県生涯学習支援センター

【支援者の発掘、登録】

令和3年10月末現在 人材バンク登録者 個人…359名 登録企業・団体…49 協力企業・団体…65
 (目標) 300名(個人) 達成率:120%

(課題) ・登録者の高齢化

・学習支援分野登録者の減少

・地域人材の発掘・確保(特に出前講座講師の郡部地域での人材確保)

・出前講座の更なる充実、地域学校協働活動推進のため、企業・団体への協力要請

(対策) ・学習支援…高校生、大学生、教員OB、学習塾講師等への登録推進

・出前講座講師…社会教育・生涯学習・関係団体への協力要請

・関係機関やボランティア団体等が行うイベント(ものづくり総合技術展、環境活動見本市、環境博各地の文化祭等)に参加し、出前講座講師等の発掘登録推進

・ホームページやSNS、チラシ等を活用した広報

※広報紙「すくらむ」の5号(11月発行予定)

学び場人材バンク登録者及び出前講座講師、研修会講師、県ボランティアセンター、市町村担当者児童クラブ、子ども教室等に配布

【マッチング】

令和3年10月末現在 139件 164人

内訳:子ども教室(学習支援0件) 児童クラブ(サポーター0件) 出前講座講師(139件 159人)
 研修会講師(5人) その他(0件)

(目標) 年間300件 達成率:46%

(課題) ・放課後子ども教室(学習室)への学習支援、児童クラブへのサポーターのマッチング

・感染症対策をおこなった上で開催する出前講座の新しい形の確立 ・地域における講師の早期育成

(対策) ・地域人材の発掘、高校生、大学生、教員OB、学習塾講師等への登録推進

・ホームページやSNS、広報紙等を活用した広報活動

【出前講座】

令和3年10月末現在 申込数…139件 マッチング…延べ159人 実施…99件 コロナによる中止…20件

不調…14件(日程等で) キャンセル…1件(講師都合)

(参加者数) 延べ小学生2,525名(人数は回収したアンケート及びサポート訪問等で得られたもの)

(傾向) 件数…夏休み中が8割以上 土曜日や振り替え休業日、平日の開催も増加傾向

申込み…児童クラブ、子ども教室以外の学校行事(PTA、学年行事)、公民館行事、子ども会と敬老会等、地域の交流イベント、高齢者教室等の申し込みも年々増加傾向

(課題) ・講師の高齢化、後継者の育成

・謝金、交通費等の地域格差

(対策) ・後継者対策…講師養成教室等の実施(3月開催予定)

・団体、企業の協力推進

【支援対象事業の情報収集及び訪問】

・放課後子ども教室(学習室)、児童クラブ、市町村関係機関への訪問件数…188回(令和3年10月末現在)

(課題) 出前講座等の未実施市町村担当課、児童クラブ、子ども教室への訪問

【人材育成支援】

6月に行った「体験活動出前研修会」の様子をネット配信とDVDで配布し、当日参加で出来なかった

・子育て支援員研修(放課後児童コース)運営サポート

9月4日(土)会場…高知県庁西庁舎

9月5日(日)会場…高知県庁西庁舎 ※オンライン開催

【その他】

- ・防災マニュアル作成支援、避難訓練等支援

令和3年10月末現在…6件

内訳：出前講座…5件・防災マニュアル作成支援…1件

出前講座を通じて防災学習及び避難訓練、防災（危機管理）マニュアル作成支援等

令和3年10月31日現在

登録状況	個人	企業・団体	協力 企業・団体
	359	49	65

登録者の属性は、大学生17、
現職教員8、退職教員21、塾講師14、
その他299、登録企業・団体49、協力企業・団体
65

【市町村別登録者数】

令和3年10月31日現在

NO.	市町村	登録数		協力 企業・団体	NO.	市町村	登録数		協力 企業・団体
		個人	企業・団体				個人	企業・団体	
1	室戸市	10	0	1	19	大豊町	2	0	0
2	安芸市	3	0	0	20	土佐町	2	0	1
3	南国市	32	1	4	21	犬川村	0	0	0
4	土佐市	14	1	0	22	いの町	17	2	0
5	須崎市	13	3	0	23	仁淀川町	3	0	0
6	宿毛市	9	0	0	24	中土佐町	1	0	0
7	土佐清水市	8	0	0	25	佐川町	5	0	0
8	四万十市	10	1	0	26	越知町	1	0	1
9	香南市	16	0	2	27	梶原町	3	0	0
10	香美市	27	1	2	28	日高村	5	1	2
11	東洋町	0	0	0	29	津野町	0	0	0
12	奈半利町	0	0	0	30	四万十町	11	2	0
13	田野町	1	0	1	31	大月町	3	2	0
14	安田町	3	0	0	32	三原村	0	0	1
15	北川村	0	0	0	33	黒潮町	5	1	1
16	馬路村	0	0	0	34	高知市	148	34	48
17	芸西村	3	0	1		県外	1	0	0
18	本山町	3	0	0		合計	359	49	65

【登録及び協力団体】

登録企業

令和3年10月31日現在 (順不同)

登録企業名		協力内容	No.	登録企業名	協力内容
1	相愛	出前講座	14	栄産業株式会社	職場体験・出前講座
2	ほけんの110番	出前講座	15	レンタル衣装わかば	出前講座
3	桂浜水族館	職場体験・出前講座	16	高橋裕忠行政書士事務所	出前講座
4	丸の内法律事務所	出前講座	17	内外典具帖紙株式会社	出前講座
5	株式会社JANAジーごうち	職場見学・職場体験	18	学校法人 平成学園	出前講座
6	株式会社ソニック	出前講座	19	株式会社 フタガミ	出前講座
7	清和アグリス株式会社	出前講座	20	有限会社 香北電機	出前講座
8	コーチ社労士事務所	職場体験・出前講座	21	株式会社 伽羅楽	出前講座
9	株式会社RT	職場見学・職場体験	22	中宏文 建築設計事務所	出前講座
10	株式会社クイーク	職場体験・出前講座	23	ミタニ建設工業株式会社	出前講座
11	株式会社 建商	出前講座	26	ダイニングプランナー株式会社	出前講座
12	株式会社オトル	出前講座	25	明神水産株式会社	職場体験・出前講座
13	株式会社 アイコート	職場体験・出前講座			

登録団体

No.	登録団体名	協力内容	No.	登録団体名	協力内容
1	NPO法人ごうちサポートネットワークウイン	人材紹介・派遣	13	腹話術高知	出前講座
2	環境活動支援センターえごらぼ	出前講座・人材派遣	14	NPO法人四国自然史科学センター	出前講座
3	高知県シェアリングネイチャー協会	出前講座	15	かわうその里おはなしの会	出前講座
4	高知県生涯学習インストラクター協会	研修会講師・啓もう活動	16	四万十学舎	出前講座
5	高知県赤十字血液センター	出前講座	17	本のちよつどのあ・い・だ	出前講座
6	高知県地球温暖化防止推進委員の会	出前講座	18	出前訪問サークルひめじょん	校外体験学習
7	高知県美容生活衛生同業組合	情報提供・人材紹介	19	四万十ふれあい動物村 プレメン	出前講座
8	高知県理容生活衛生同業組合	情報提供・人材紹介	20	NPO法人黒潮実感センター	出前講座
9	高知コンサート・グループ香南支部	出前講座	21	海辺の自然史研究会	出前講座
10	四万十新聞バッグ高知県支部	出前講座	22	日本3B体操協会高知県支部	出前講座
11	新需要開拓マーケティング協議会	出前講座	23	WSS-JAPAN四国支社	出前講座
12	はぐみプロジェクト	研修会講師・研修会講師	24	(一財) 高知県環境検査センター	出前講座

協力企業

No.	協力企業名	協力内容	No.	協力企業名	協力内容
1	不二電気工芸(株)	出前講座	10	株式会社ダスキンサニーマート	出前講座
2	宮地電機(株)	出前講座	11	高知県農業協同組合香野支所	出前講座
3	株式会社四国銀行	出前講座	12	株式会社エースワン	出前講座
4	株式会社高知銀行	出前講座	13	有限会社ロイヤル	出前講座
5	四国ライフケア	出前講座	14	川北印刷株式会社	出前講座
6	株式会社浜幸	出前講座・職場見学	15	高知放送	出前講座
7	新進電気販売株式会社	出前講座	16	高知新聞社	出前講座
8	城西館	出前講座	17	日産サティオ高知SIS事業部	出前講座
9	有限会社栄樹造園	出前講座	18	ダイセイ(株)	出前講座

協力団体

No.	協力団体名	協力内容	No.	協力団体名	協力内容
1	高知県金融広報委員会 (日銀高知支店内)	出前講座	25	山・川・海の会	出前講座
2	『地球村』高知	出前講座	26	高知ケナフ普及会	出前講座
3	高知県森林研修センター情報交流館	出前講座・講師派遣	27	鏡川下流の貝を育てる会	出前講座
4	高知県ボランティアNPOセンター	人材紹介	28	高知フィールドミュージアム協会	出前講座
5	公益財団法人高知市文化振興事業団	人材紹介	29	四国カーボンオフセット推進協議会	出前講座
6	放送大学	人材紹介	30	劇団笛の会	出前講座
7	公益財団法人土佐山内家宝物資料館	出前講座	31	日本けん玉協会	出前講座
8	NPO法人ももたろう企画	出前講座	32	日本赤十字高知県支部	研修会講師
9	高知県スポーツチャンバラ協会	出前講座	33	高知コア研究所	施設見学等
10	ぶらうらんど	研修会講師	34	農と生き物研究所	出前講座
11	高知県立のいち動物公園	出前講座	35	認NPO法人定カンガルーの会	研修会講師
12	高知県立月見山こどもの森	出前講座	36	NPO法人469maネット	出前講座
13	工房ポレボレ	出前講座	37	土佐の国 笑い癒し研究所	出前講座・研修会講師
14	(株) 四万十ドラマ	出前講座	38	ライオンズクラブ	人材紹介
15	(株) 奇想天外(海洋堂ホビー館四万十)	出前講座	39	高知県婦人会	人材紹介
16	高知県聴覚障害者協会	出前講座	40	高知大学	人材紹介・出前講座
17	ボイスカウト高知県連盟	出前講座	41	高知工科大学	人材紹介・出前講座
18	S K. 未来創造研究所	研修会講師	42	一般社団法人Peaeo of New Farth	人材紹介
19	高知県レクリエーション協会	出前講座	43	ココ・サン	本の寄贈
20	千斗校グローバル教育研究所	出前講座・研修会講師	44	土佐和紙ちぎり絵交流会	出前講座・研修会講師
21	樹づくり工房夢遊	出前講座	45	高知県スポーツ魂ごっこ連盟	出前講座
22	高知県立牧野植物園	出前講座	46	高知県埋蔵文化財センター	出前講座
23	高知自然学校連絡会	出前講座	47	高知地方気象台	出前講座
24	土佐竹とんぼの会	出前講座			

【市町村別出前講座申込・開催状況】

令和3年10月31日現在

	実施数	開催済						未開催 11月～ 開催予定	中止・キャンセル・不調			申込数
		子ども 教室	合同	児童 クラブ	合同	教室・ク ラブで合同	その他		自然災害 感染症予 防措置	主催者・ 講師の都 合	日程合わ ずマッチ ング不調	
高知市	7			7				1	6		4	18
室戸市												
安芸市	9	2		7							2	11
南国市	14	4		9			1	3	3	1	2	23
土佐市	7			7					3			10
須崎市	11	3		5			3		2		2	15
宿毛市												
土佐清水市												
四万十市	3			3							1	4
香南市	16	1		15							1	17
香美市	14	1		13					1		1	16
東洋町												
奈半利町												
田野町												
安田町												
北川村												
馬路村	1	1							1		1	3
芸西村	2	2						1				3
本山町												
大豊町												
土佐町												
大川村	1	1							1			2
いの町	2	2										2
仁淀川町	2	2										2
中土佐町	3	3										3
佐川町												
越知町												
橋原町												
日高村	3			3					3			6
津野町												
四万十町	4	3		1								4
大月町												
三原村												
黒潮町												
合計	99	25		70			4	5	20	1		
マッチング件数	125										14	139

【出前講座箇所別マッチング状況】

子ども教室：25 子ども教室の合同：0 児童クラブ：70 児童クラブの合同：0 子ども教室と児童クラブの合同：0
 その他：4（※その他はPTA学年行事、社会福祉協議会、公民館行事等。） 開催予定（11月～）：5
 新型コロナウイルス感染症予防措置による中止：20 講師の都合によるキャンセル：1 日程合わずマッチング不調：14

【マッチング先別人数】

令和3年10月31日現在 延べ人数

学習支援・サポーター等			講師及び補助		その他	合計
子ども教室 学習室（小）	学習室 （中学校）	児童クラブ	出前講座	研修会等		
0	0	0	159	5	0	164

第1回 高知県地域学校協働活動推進委員会

資料



提供：高知県スクールガード・リーダー連絡協議会 元会長 山下正和 氏

学校安全対策課

目次

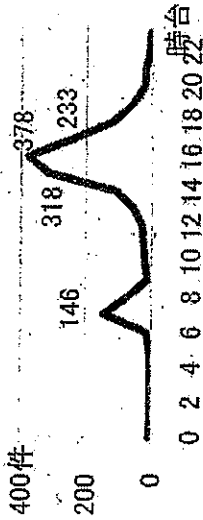
1. 登下校防犯プランの概要
 2. コミュニティ・スクール、地域学校協働本部と連携した学校安全の取組
 3. 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業
 4. 高知県地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金
 5. 令和3年度 スクールガード・リーダー名簿
- (別冊1) 令和3年度 スクールガード・リーダー活動内容
- (別冊2) やってみよう！登下校見守りハンドブック

登下校防犯プランの概要

登下校時における子供の安全の課題

- (1) 子供の被害は登下校、特に下校時(15～18時)に集中
犯罪件数が減少する中、ほぼ横ばいで推移
- (2) ①既存の防犯ボランティアの高齢化、②共働き家庭の増加
→ 「地域の目」が減少、「見守りの空白地帯」が生じている
➡ 登下校時における総合的な防犯対策の強化が急務

子供(13歳未満)が被害者となる身体犯の発生状況
(土日除く。道路上での事案に限る)(H27～29年累計)



2. 通学路の合同点検の徹底及び環境の整備・改善

- (1) 通学路の防犯の観点による緊急合同点検の実施、危険箇所に関する情報共有
- (2) 危険箇所の重点的な警戒・見守り
- (3) 防犯カメラの設置に関する支援、防犯まちづくりの推進

1. 地域における連携の強化

- (1) 登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」の構築
- (2) 政府の「登下校防犯ポータルサイト」による取組の支援



4. 多様な担い手による見守りの活性化

- (1) 多様な世代や事業者が日常活動の機会に気軽に実施できる「ながら見守り」等の推進
- (2) スクールガードの養成、防犯ボランティア団体の活動等の支援
- (3) 「子供110番の家・車」への支援等

3. 不審者情報等の共有及び迅速な対応

- (1) 警察・教育委員会・学校間の情報共有
- (2) 地域住民等による効果的な見守りや迅速な対応に資する情報の提供・発信
- (3) 放課後児童クラブ・放課後子供教室等の安全対策の推進

5. 子供の危険回避に関する対策の促進

- (1) 防犯教育の充実
- (2) 集団登下校、ICタグ、スクールバス等を活用した登下校の安全確保の推進

コミュニティスクール、地域学校協働本部と連携した学校安全の取組

安全教育において、地域と学校の連携・協働体制の構築は重要

「地域学校協働活動」：幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動
 学校と地域が一体となって防災・防犯・交通安全に取り組みることができる
 教育課程内の取組においても、地域のか力を生かした授業づくりが可能になる



学校（コミュニティ・スクール※）

※ 学校運営協議会を設けている学校を指す。

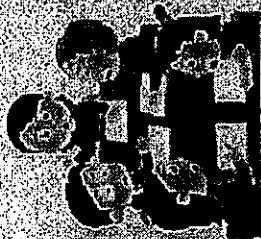
学校運営協議会

学校運営への必要な支援に関する協議を行う合議体。地域の要請に応じて防犯・防犯・交通安全も協議され得る。

＜主な役割＞

- ・学校が抱える課題等の具体的な状況や学校の実情について、外部専門家や関係機関と話し合うことができること
- ・防災・防犯の活用に関して、教育委員会等を通じての取組について、協働委員会と連携を図ることができること

保護者、地域学校協働活動推進員、地域住民など



連携・協働



地域学校協働本部

地域学校協働活動を推進するための幅広い地域住民や団体等の参画により形成された様々なネットワーク

地域学校協働活動推進員

（地域と学校をつなぐネットワーク）
 ※ 地域住民、PTA関係者などその地と学校のつながり（関係）を担っている人



消防団、消防士、消防団員、地域住民、企業、NPO等の様々な人、団体など

地域と学校が連携した安全教育の実現（地域学校協働活動）

- 実践的な防災体験学習
 消防署や消防団等の専門家の協力の下、防災体験活動（起震車体験、ペットボトルの過剰の作成、ロープワーク体験、A・E・D体験等）を実施
- 防犯・交通安全の取組
 地域住民による登下校の見守り 等



- 地域と学校の協働による防災訓練、防災キャンプの実施
 地域の防災訓練と学校の防災訓練を合同で実施。引き渡し訓練、防災がまごづくり、吹き出しシミュレーション等を地域住民と子供たちがチームとなって実施。
- 実際に災害が発生した際に、学校が避難所となる場合において、夜間の教職員による一時的な運営から住民、防災部局のスムーズな移行が可能になる

地域ぐるみでの学校安全体制整備推進事業

令和3年度予算額

338百万円

(前年度予算額)

338百万円

学校、通学路の安全確保に向け、昨今の児童生徒の尊い命を奪う交通事故・事件の発生も踏まえ、スクールガード・リーダー増員による見守りの充実や、スクールガード等のボランティアの養成・資質向上を促進することにより、警察や保護者、PTA等との連携の下で見守り体制の一層の強化を図る。

■実施主体：都道府県及び市町村

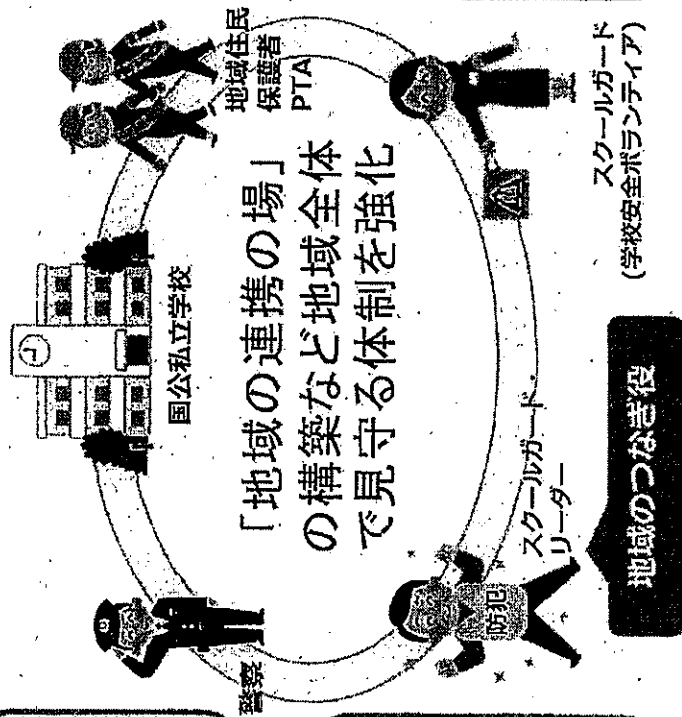
■補助率：国庫補助率1/3、都道府県・市町村各1/3 ※市町村直接実施の場合2/3負担

スクールガード・リーダーの育成支援

- スクールガード・リーダーの資質を備えた人物（警察官OB・教職員OB・防犯協会役員等）に対する養成講習会の実施

スクールガード・リーダーに対する活動支援

- スクールガード・リーダーによる指導、見守り活動に対する謝金、各学校を定期的に巡回するための旅費等の補助
- 学校等の巡回活動等を円滑にするためにスクールガード・リーダーの連絡会等の開催を支援、装備品の充実



スクールガード（ボランティア）の養成・資質向上

- 通学路で子供たちを見守るスクールガードの防犯に対する知識、非常時の対応策等自身に付けさせるための養成講習会を実施
- 活動の参考となる資料を配布することによる見守りの質の向上

スクールガード増員による見守りの強化及び活動に対する支援

- 「登下校防犯プラン」等に基づき、登下校時のパトロールや地域の連携の構築など防犯活動への支援
- 子供の見守り活動に係る帽子や腕章などの消耗品費、ボランティア保険料の補助

スクールガード・リーダー育成講習会、スクールガード養成講習会の開催に係る経費を補助し、見守りの人材確保と質の向上

スクールガード・リーダーがスクールガードに対して、見守り活動・警備上のポイントや不審者対応等について指導・助言

地域ぐるみで子供の安全を守る体制構築

高知県地域ぐるみでの学校安全体制整備推進事業費補助金

補助率：国・県・市町村各1/3 ※中核市を除く市町村が対象 市町村による直接実施の場合は、国1/3・市町村2/3

◎ 次の①～③の事業を単独実施でも複数実施でも可

事業名	事業内容	補助対象経費	経費に係る留意事項	R6年度の状況
スクールガード・リーダーによる巡回指導と評価等	<p>警察官OBや教職員OB、地域安全活動の中心として活動している者をスクールガード・リーダーとして委嘱する。</p> <p>スクールガード・リーダーは、各学校を定期的に巡回し、警備のポイント、改善すべき点などに対する指導と評価や、スクールガード(学校安全ボランティア)に対する指導等を行う。</p> <p>スクールガード・リーダーの配置人数、対象とする範囲については、各地域の実情に応じて決めることができることとするが、小学校5校に対して1名程度の割合を原則とする。</p> <p>なお、巡回指導等の対象校については、幼稚園、保育所、中学校、特別支援学校等も対象とすることができる。</p>	<p>報償費</p>	<p>【スクールガード・リーダーの巡回指導経費】</p> <p>・報償費のみ。1日2時間以上の活動、5千円を上限とする。</p> <p>・スクールガード・リーダーの活動日数については、年間120日以内とする。</p>	<p>21市町村で実施 スクールガード・リーダー39名に委嘱</p>
スクールガード養成講習会	<p>・学校や通学路で子どもたちを見守るスクールガードを養成するための講習会を開催する。</p> <p>・なお、開催に当たっては、多くの方々が参加することができるよう、開催場所、開催回数等に配慮するものとする。</p>	<p>報償費(講師謝金)、旅費、使用料及び賃借料(会場、借上料)、雇用費(印刷製本費、消耗品費)、役務費(通信運搬費)</p>	<p>【スクールガード養成講習会の開催経費】</p> <p>・スクールガード養成講習会の開催経費については、10万円を上限とする。</p> <p>・ただし、スクールガードに対する報償費、旅費は対象外とする。</p>	<p>安芸市で実施予定</p>
学校安全活動	<p>・学校安全のために、学校安全ボランティア等を活用しつつ、例えば、登下校時におけるパトロール、防犯・防災訓練の実施、地域安全マップの作成等、学校・家庭・地域が一体となり子どもの安全に関する取組を実施する。</p>	<p>報償費(講師謝金)、旅費、使用料及び賃借料(会場、借上料)、雇用費(印刷製本費、消耗品費)、役務費(通信運搬費)</p>	<p>【学校安全活動経費】</p> <p>・学校安全活動経費については、活動に直接必要な経費とし、1市町村につき30万円を上限とする。</p> <p>・スクールガード・リーダーの装備品(防刃ベスト等)やスクールガード・リーダーの連絡会等の開催に係る経費は、対象とする。</p> <p>・ただし、スクールガードに対する報償費及び旅費は、原則として対象外とする。</p> <p>・なお、消耗品費等については、学校やPTAが使用するものと明確に区別すること。</p> <p>・備品購入費は、対象外とする。</p>	<p>芸西村・香南市 南園市・須崎市で実施</p>

◎ スクールガード(学校安全ボランティア)組織が未設置の学校は、特に、上記②③の事業を活用した取組の検討をお願いします。

《お問い合わせ先》高知県教育委員会事務局 学校安全対策課 学校安全担当 TEL 088-821-4533

令和3年度 高知県地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業 スクールガード・リーダー名簿

No.	担当地域 (市町村等)	氏名	登録 年度	巡回指導回数		拠点校(部署)	巡回担当予定校(園)	教育委員会 担当部署	
				小学校	中学校				
2	室戸市	中野 金夫	H18	4	2	室戸市 教育研究所	佐喜原小、室戸小、 佐喜原中、室戸中	室戸市教育委員会 学校教育部	
3		栗尾 博範	H19	5	3				元小、吉良川小、羽根小、吉良川 中、羽根中
4	安芸市	清岡 豊	H30	4	2	安芸市 少年育成 センター	川北小、土居小 清水ヶ丘中、安芸中	安芸市 少年育成センター	
5		小松 孝臣	H25	3	3				下山小、伊藤木小 井ノ口小
6		吉田 博幸	H31	3	3				赤野小、穴内小 安芸第一小
7	東洋町	生田 幹明	H23	2	1	野根小学校	野根小 野根中	東洋町教育委員会	
8		光本 遠雄	R2	2	1				甲浦小 甲浦中
9	北川村	能勢 幸利	H22	1	1	宗半利町 教育委員会	宗半利小	宗半利町教育委員会	
10	北川村	牛窓 雅人	新	2	1	北川村 教育委員会	北川小 北川中	北川村教育委員会	
11	安田町	南 久雄	R2	2	1	安田町 教育委員会	安田小 安田中	安田町教育委員会	
12	芸西村	山下 茂正	新	4	1	芸西村 教育委員会	芸西小、芸西中、 芸西幼稚園、芸西保育所、	芸西村教育委員会	
13	香南市	野村 清	H21	5	3	香南市 教育委員会	佐古小、香我美小、夜須小、 夜須中、香我美中	香南市教育委員会 学校教育部	
14		内藤 雅廣	新	6	4				赤岡小、野市小、野市東小、 香川小、赤岡中、野市中
15	南国市	比江森 信子	R2	5	5	南国市 教育委員会	岡豊小、久礼田小、園南小、 日本谷小、茶路小	南国市教育委員会 学校教育部	
16		谷口 省文	H24	4	4				後免野田小、長岡小、日華小、 大塚小
17		田中 晋	H27	4	4				大塚小、三和小、穂生小、 十市小
18	大豊町	小笠原 崇	H28	2	1	大豊町 教育委員会	おおとよ小 大豊町中	大豊町教育委員会 入づくり班	
19		中川 守	H30	6	4	土佐南中、新居小、高石小、高岡南 一小、高岡中、宇佐小	土佐市 少年育成センター		
20	須崎市	矢野 泰幸	H30	6	5	多ノ郷小学校	高岡第二小、窪池小、坂介小、北原 小、戸坂小、戸坂中	須崎市教育委員会 学校教育部	
21		津野 正男	H18	7	4				高小、多ノ郷小、喜築小、浦ノ内小 湯中、浦ノ内中、崎ヶ丘中
22	須崎市	谷脇 秀幸	新	6	4	須崎小学校	上分小、新庄小、安和小、須崎小 上分中、須崎中	須崎市教育委員会 学校教育部	
23	日高村	山下 忠一	H21	5	3	日高村教育委員会 教育支援室	加茂小、日下小、能津小 日高中、加茂中	日高村教育委員会 教育支援室	
24	梶原町	今井 久光	R2	2	1	梶原学園	梶原小 梶原中	梶原町教育委員会 生涯学習課	
25	四万十町	樋口 寛	R2	4	4	四万十町 少年補導 センター	東文小、影野小、仁井田小、奥津小 川口小、滝川小、七室小、米良小	四万十町教育委員会 生涯学習課	
26		有馬 義行	H19	4	4				田野々小、昭和小、十川小、 北ノ川小
27		酒井 敬	R2	6	3				具同小学校
28	四万十市	林 正秋	H30	6	4	中村南小学校	中村南小、竹盛小、下田小、 八家小、下田中、八家中	四万十市教育委員会 学校教育部	
29		土居 佳伸	H20	2	1	西土佐小学校	西土佐小、西土佐中		
30		森下 真道	H23	4	3	栗山小学校	栗山小、大用小、鉄岡小、大用中		
31		武田 弘一	H27	4	2	中村小学校	中村小、剱岡小 中村中、後川中		
32	土佐清水市	秋本 茂	R1	3	2	土佐清水市 少年補導 センター	清水小、足指崎小 清水中	土佐清水市 少年補導センター	
33		安岡 孝利	R1	4	4				三崎小、稲岡小、下川口小、 下ノ加江小
34	宿毛市	嵐 健	H26	4	4	宿毛市 青少年育成 センター	宿毛小、横上小、平田小、 山家小	宿毛市教育委員会 学校教育部	
35		小松 太	H23	4	4				宿毛小、大島小、成徳小、 小筑紫小
36	黒潮町	大石 正幸	H19	4	3	黒潮町 こどもサポートセンター	葛ノ川小、伊与喜小、佐賀小 佐賀中	黒潮町教育委員会 生涯学習課	
37		國友 穰	H28	6	5				上川口小、高嶺小、入野小、 三浦小、田ノ口小、大万中
38	三原村	榎 喜章	H30	2	1	三原村 教育委員会	三原小 三原中	三原村教育委員会 学校教育部	
39	大月町	吉岡 利昌	R1	2	1	大月小学校	大月小 大月中	大月町教育委員会	
	21市町村	計	39人		158	110			



令和3年度 スクールガード・リーダー活動内容



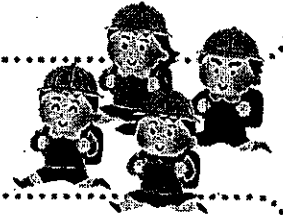
提供：高知県スクールガード・リーダー連絡協議会 元会長 山下正和 氏

高知県教育委員会

令和3年度 高知県地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

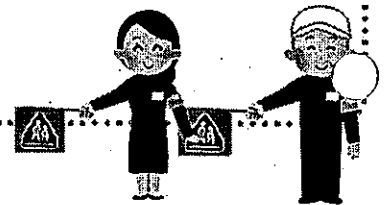
事業の目的

子どもたちが安全で安心して教育を受けられるよう、学校や通学路における子どもの安全を確保するため、学校、家庭及び地域の関係機関・団体が連携を図り、地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備する。



事業の内容

- (1) スクールガード・リーダーによる学校の巡回指導と評価等の実施
- (2) スクールガード養成講習会の開催
- (3) 学校安全活動の実施



◆スクールガード・リーダーによる学校の巡回指導と評価等の実施

スクールガード・リーダー

- (1) 3つの視点をもった活動（防犯の視点、組織連携の視点、教育の視点）
- (2) 巡回指導を通しての現状把握、課題発見、情報発信
- (3) スクールガード（学校安全ボランティア）による見守り活動のポイント指導
- (4) スクールガード・リーダー同士の情報交換

市町村教育委員会

- (1) スクールガード・リーダーとの情報共有
- (2) 事業の主旨・内容について学校への周知徹底
- (3) スクールガード（学校安全ボランティア）の立ち上げ及び活動の充実
- (4) 地域の防犯体制づくり（「登下校防犯プラン」に基づく）地域の連携の場の活用

学 校

- (1) 「高知県安全教育プログラム」に基づく、防犯教育の推進（防犯教室・防犯訓練の実施、危機管理の徹底・不審者侵入への対応等）
- (2) スクールガード・リーダーやスクールガード（学校安全ボランティア）との情報共有
- (3) スクールガード組織（学校安全ボランティア）と協働した取組の実施
- (4) スクールガード・リーダー、教育委員会、警察、PTA（保護者）、地域等との情報共有

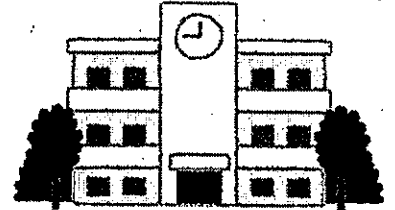
◆ スクールガード・リーダーの活動内容

1 学校への巡回指導

担当区域内の小学校等を巡回し、学校内や通学路の安全確保、学校に対する指導助言を行う。

(1) 学校内の安全確保

- ① 不審者侵入を防ぐための校門の開閉状況の確認
- ② 校門以外で学校への侵入が可能な場所の点検
- ③ 学校への危険箇所の報告 など



(2) 通学路の安全確保 (犯罪の起きやすい場所)

- ① 危険箇所の点検・報告、児童生徒等の登下校の状況把握・指導
- ② 入りやすくて見えにくい場所 (資材置き場、トンネル、空き家等)
- ③ 落書き等のある場所
- ④ 人通りの少ない道路
- ⑤ 片側が長く続く壁等になっていて逃げ場のない道路 など

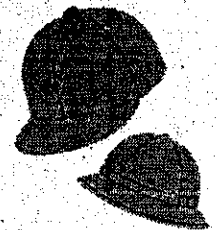


(3) 学校行事等における警戒

(4) 学校への防犯に関する指導助言



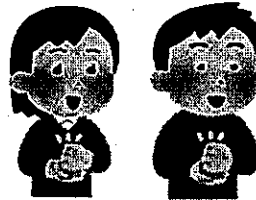
スクールガード・リーダーによる、
学校周囲の確認活動、登下校時の見守り活動の様子。



2 スクールガード（学校安全ボランティア）への指導助言

地域ぐるみで学校安全の取組ができるよう、スクールガード（学校安全ボランティア）に対して指導助言を行う。

- (1) スクールガード組織（学校安全ボランティア組織）との連携
- (2) 見守り活動のポイントについての指導助言
- (3) 学校からの情報伝達（不審者情報、下校時刻の変更、休日に学校行事がある場合等）
- (4) 学校や教育委員会がスクールガード組織（学校安全ボランティア組織）を立ち上げる際の協力

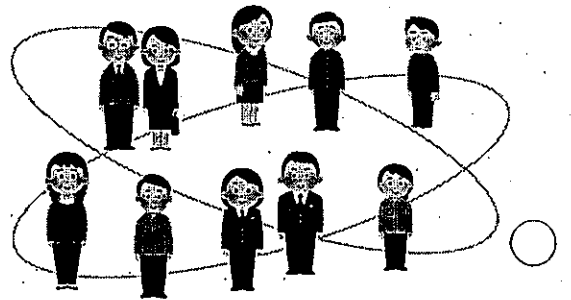


3 関係機関との連携

学校、教育委員会、警察、スクールサポーター等の関係機関との連携を図る。

- (1) 不審者情報や事件等の情報の共有
- (2) 緊急時における対応の確認

※ 教育委員会は不審者情報等があった場合には、スクールガード・リーダーに連絡し、情報の共有を図る。また、緊急時の連絡体制を整備し、対応についてスクールガード・リーダーと確認する。



地域との連携強化
保護者・関係機関・地域の方が連携し、
見守り活動や安全確保、安全教育に協力いただく様子。

4 防犯教室、防犯訓練への参加

学校が開催する防犯教室や防犯訓練に参加し、警察等と連携して、子どもへの登下校中の防犯指導や学校への指導助言を行う。



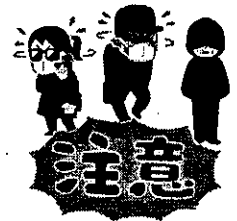
(1) 防犯教室（子どもへの指導等）の内容例

- ① 講義
- ② 実技、ロールプレイ（場面を想定した役割演技による訓練）
 - ・「いかのおすし」
 - ・「こども110番のいえ」
 - ・予防的な指導、事件に遭ったときの対処法



(2) 防犯訓練（教職員に対する指導等）の内容例

- ① 不審者侵入等を想定して、実際に対応、避難する訓練
 - ・子どもの安全確保について
 - ・さすまた等、用具の使い方 等
- ② 危機管理マニュアルの確認・見直し
(※必要に応じて、訓練で明らかになった課題への対策をマニュアルに反映させる)
(※教育委員会は、学校から要請があった場合、協議のうえ、スクールガード・リーダーに防犯教室等への参加を依頼することができる。)



不審者対応訓練、不審者対応に関する研修会の様子。

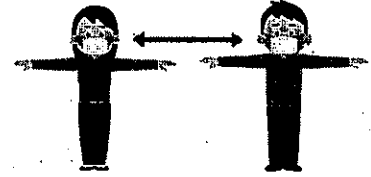
5 新型コロナウイルス感染症対策のポイント

安全・安心な活動を行うために、下記に示す感染症対策に留意して活動する。

【個人でできる基本的感染対策】

①身体的距離の確保

→人との間隔は最低1メートル空ける。
会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。



②マスクの着用

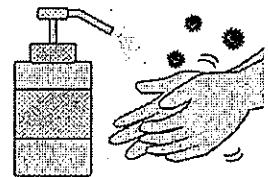
→会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。



マスクをしよう

③手洗い

→手洗いは流水と石けんを使用し、30秒程度かけて丁寧に洗う。
手を拭くタオルやハンカチは個人持ちとし、共用はしない。
外から教室へ入る時や、トイレの後、共有のものを触った時などこまめに手を洗う。



【活動に必要な持ち物】

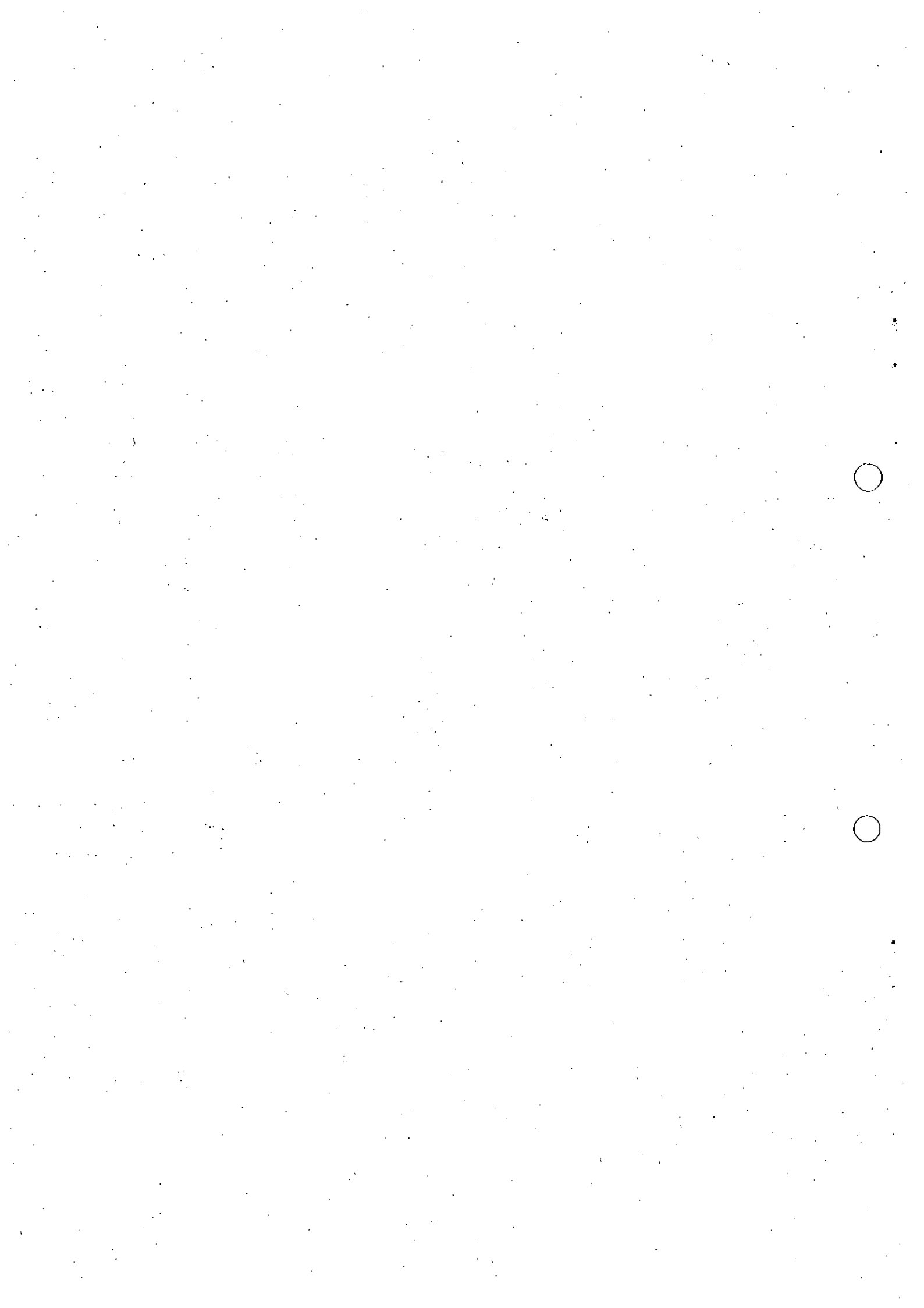
- 清潔なハンカチ、ティッシュ
- マスク
- マスクを置く際の清潔なビニールや布等

【活動を行う上での注意点】

- 活動前の検温
- 体調がすぐれない時には、活動を取りやめる
- 活動中に児童生徒等と握手やハイタッチは行わない

機関名	電話番号	住所	備考

※ 教育委員会や巡回学校、最寄りの警察署等、関係機関の連絡先などご記入ください。



① はじめに

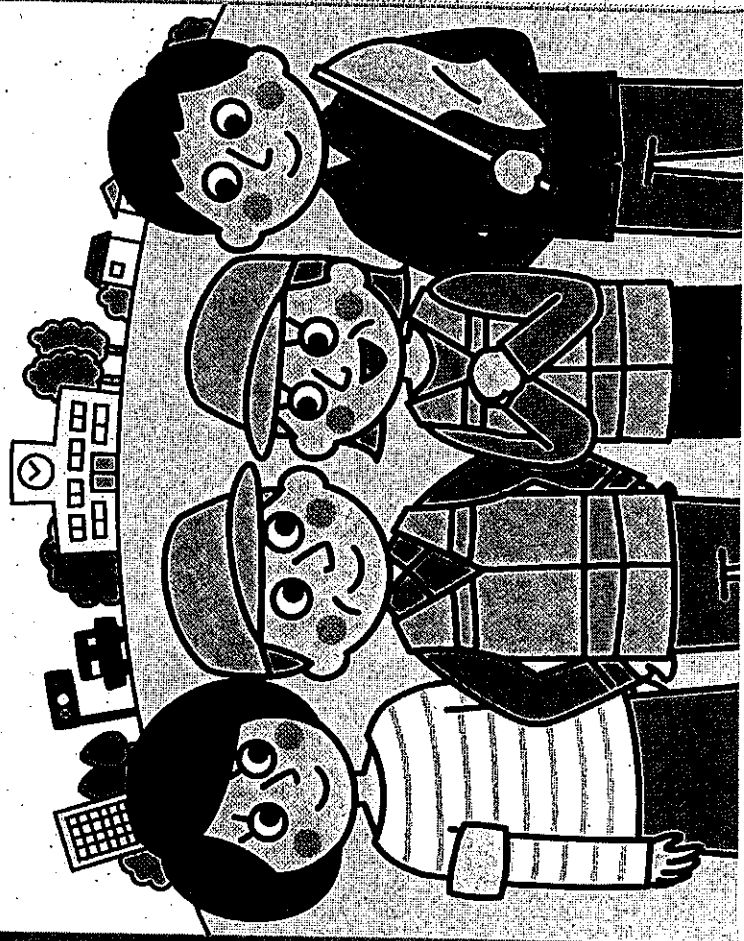
② 活動してみよう

③ 心をなごませてやる

④ 持続可能な活動に向けて

やってみよう!

登下校 見守り活動 ハンドブック



発行日：令和3年3月

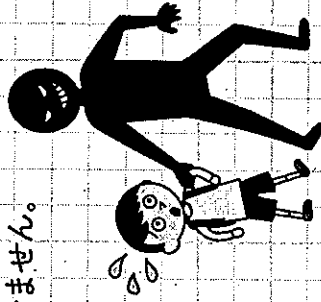
発行元：文部科学省総合教育政策局

男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室

① はじめに

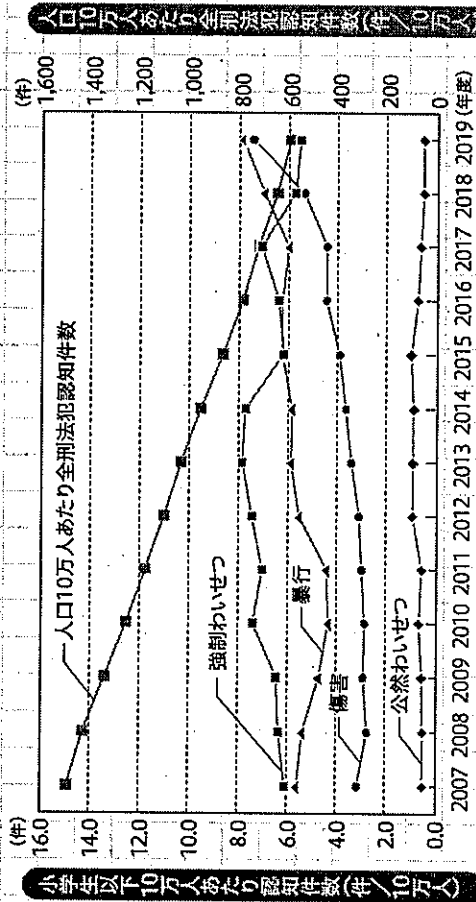
安全・安心な登下校の実現に向けて

- 全国で子供が登下校中に犯罪被害に遭うケースがみられます。被害の多くは、子供だけで行動しているときや、人の目が少ない状況で発生しています。
- こうした犯罪被害を減らすためには、地域全体で、登下校中の子供たちの見守り活動をするのが欠かせません。
- 一方で、見守り活動を含めた防犯ボランティア活動者数は近年減少しており、今、みなさんの協力が求められています。

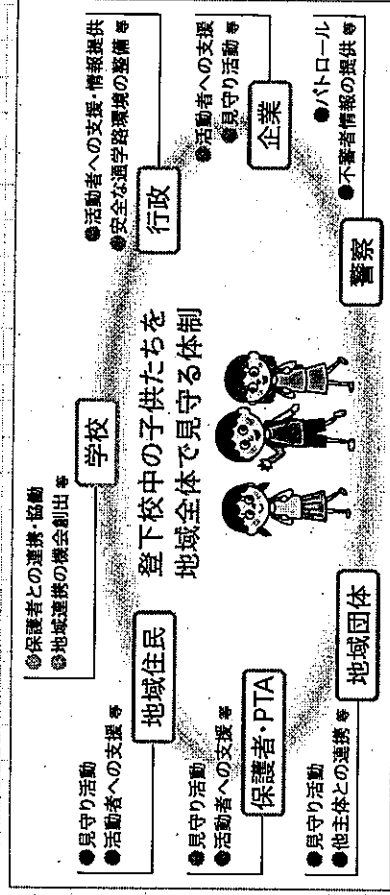


地域ぐるみの見守り活動と効果

- 登下校時の見守り活動は、学校を中心に、保護者やPTA、地域住民、行政、警察、民間企業、地域団体等が一致団結して連携・協働し、地域全体で取り組むことが重要です。
- 一人一人ができる範囲で、子供たちや地域へ目を向け、見守り活動を実施することで、犯罪や事故が起きにくい環境をつくることができます。
- なお、見守り活動は無理なく行いましょう。小さな取組の積み重ねによって、地域全体で子供たちの安全を守る環境が生まれるとともに、地域コミュニティの活性化も期待できます。



〈出典〉警察庁「令和元年の刑法犯に関する統計資料」、総務省統計局「人口推計」、総務省統計局「我が国の子どもの数-「こどもの日」にちなんで-」(平成19年～令和元年)より作成
 (注)小学生以下人口は総務省統計局による推計値



ハンドブックについて

このハンドブックは、これから見守り活動を始めようと思っている方々に向けて、必要な心構えや活動方法などの見守り活動の基本を紹介するだけでなく、既に見守り活動を行っている方々に対しても、見守り活動の効果を高めるポイントや優良事例を紹介しています。
 保護者やPTA、地域住民、学校、行政等、見守り活動に関わる全ての方々に参考としていただける内容となっております。

② 活動してみよう

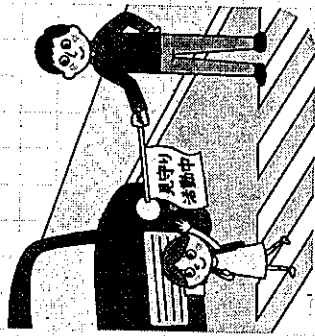
見守り活動の例

- 見守り活動の代表例として次のような活動があります。

定点見守り（立降指導）

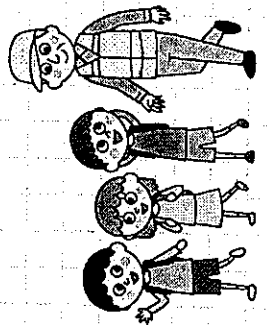
特に交通量の多い交差点や、見通しの悪い道、人通りの少ない道などに立って、子供が安全に通行できているか見守ります。

立つ場所は、活動者が自ら考えて決める場合や、活動団体や組織で決まった場所とする場合などがあります。



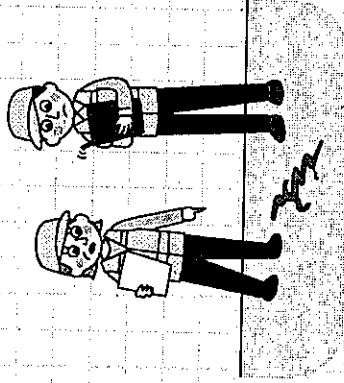
登下校への付き添い

特定の区間あるいは学校まで子供に付き添って見守ります。通学路が広域にわたる場合には地区ごとに付き添いの引き継ぎをする例や、活動者の自宅周辺の子供にスクールバスの停留所まで付き添う例もあります。



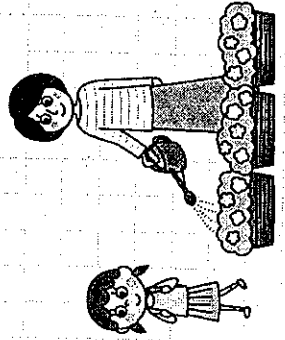
点検・巡回

登下校中に限らず、通学路を点検・巡回しながら危険箇所を把握し、学校や市町村へ報告することも重要な見守り活動のひとつです。



ながら見守り

特に登下校時間帯に合わせて外に出て花に水やりをする、家の前で掃き掃除をする、通勤時間をずらす、犬の散歩をするなど、時間と場所を工夫して、何かをしながら登下校中の子供たちを見守ります。

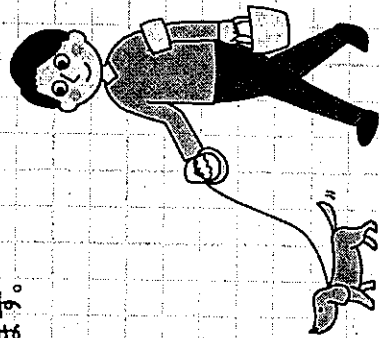


見守り活動の心構え

- 地域住民による見守り活動は「地域活動」の一環です。警察等が実施するような「警戒・パトロール(警ら)」ではありません。
- 一人一人が無理なく、できる範囲で取り組みむことが重要です。

見守り活動の始め方

- 「子供見守り隊」や「スクールガード」、「安全サポーター」等、見守り活動団体の呼び方は様々です。既に活動している団体について知りたい場合は、お住まいの市町村や近くの学校に問い合わせしてみてください。
- また、こうした団体に所属せずに行う「ながら見守り」等も大切な見守り活動の一つです。各自のライフスタイルに合わせて、子供たちや地域へ少しだけ意識を向けることで、登下校時の「子供たちを見守る目」や、通学路の「危険箇所の発見」を増やすことにつながります。



見守り活動者の方々へ

活動を始める前に確認しましょう

■ 以下の行為はやめましょう。

- × 活動の強制
 - × 警察が実施するようないきなり取り締まりや警棒等の武器の所持
 - × 子供との過度なコミュニケーション(過度な接触、あめ・ガム等を含む飲食物の提供、自家用車や私有地への招待、連絡先の交換等)
 - × 子供を叱る、しつけようとする行為(子供の安全を守るための指導は可)
- 万が一に備えてボランティア保険や防犯協会等の団体保険に加入しましょう。保険料を補助する市町村もあるので、問い合わせてみましょう。

市町村・学校の方々へ

関心を持った人を大事にしましょう

■ 地域住民から「見守り活動をしたい」と問い合わせがあったら、見守り活動を所管する課・担当者につなぐ、あるいは実際には実際に活動する団体のリーダー等に紹介するようにしましょう。

コラム

見守り活動を始めたきっかけは自分のため。それが子供の安全につながる。

鳥取県湯梨浜町オレンジベスト隊 隊員

長崎さす方は「自分のため」に活動している人が多いです。私自身も見守り活動により、子供たちの登下校時間に合わせて規則正しい生活を送れるようになりました。見守り活動を通じて、子供たちから元気をもらい、心身ともに健康な日々を過ごしています。

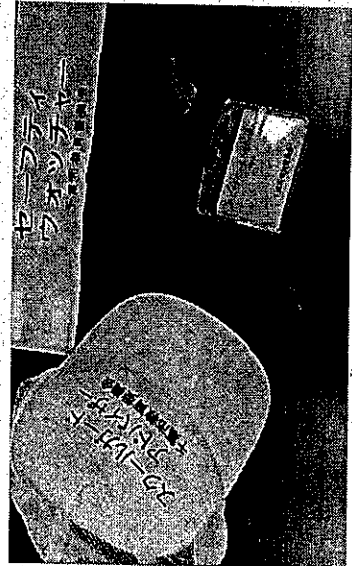
見守り活動時の持ち物とは？

- 見守り活動時の持ち物の例は次のとおりです。必ずしも全てを準備する必要はありませんが、見守り活動中であることが一目で分かることが、活動のしやすさや、犯罪を防ぐ効果を得られるほか、子供の安心感にもつながります。

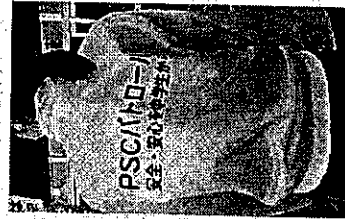
見守り活動時の持ち物やあると便利なものの例

- **ベスト・ジャンパー** 蛍光色など目立つ色とし、反射材が付いているとよい。
 蛍光色など目立つ色とし、反射材が付いているとよい。
 また、様々な季節に対応できるよう、夏用・冬用があるとよい。
- **帽子** 蛍光色など目立つ色とする。
- **タスキ・腕章** 見守り活動者であることを示すものとして携帯するとよい。
- **名札** 横断歩道や交差点を見守る際にあるとよい。
- **横断旗**

※上記のものは、市町村が貸与したり、見守り活動団体が独自に準備したりする例が多くあります。



▲活動時の帽子・腕章・名札
(千葉県千葉市)

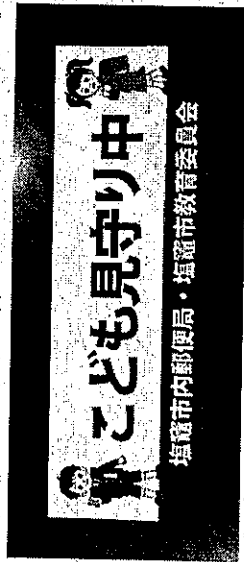


▲活動時のジャンパー
(宮城県白石市)

- 見守り活動に必要な装備品・携行品は、学校や市町村が貸出もしくは提供している場合がありますので、まずは相談してみましよう。

② 活動してみよう

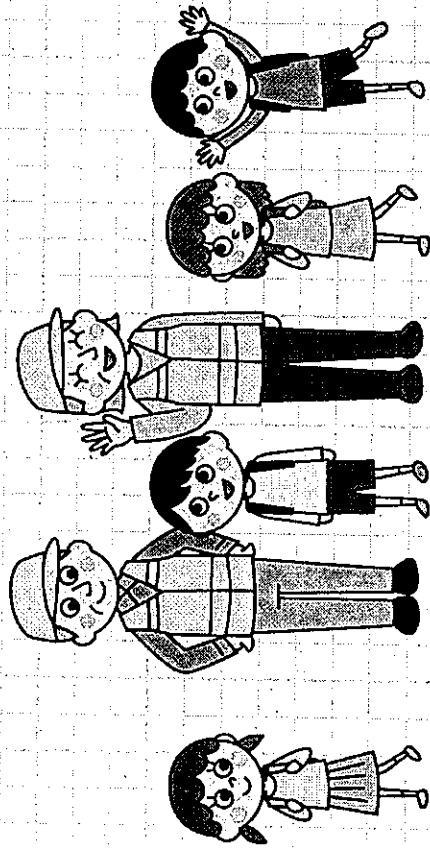
- **携帯電話** 緊急時にすぐ110番通報することができる。
 また、学校や行政担当者の連絡先を控えておくのに便利。
- **ペン・メモ帳** 活動中に感じたことや危険箇所等の情報の記録に使用。
- **懐中電灯** 活動中に辺りが暗くなる場所では携帯しているとよい。
 なお、人や車両等には向けないようにしよう。
- **笛・防犯ブザー** 危険が生じたときに、当事者や周囲に知らせるために携帯しているとよい。
- **飲料水** 特に夏季の活動中には適度な水分補給が重要。



▲見守り活動中ステッカー(宮城県塩竈市)

見守り活動の効果を高めるためには？

- ▶ 「見てもらう」ことを意識しよう
- 見守り活動は、活動をしている姿を見てもらう(地域住民に活動を認知してもらおう)ことが重要です。
- 活動が認知されることにより、子供や地域住民の安心感につながるのをはじめ、運転者が気を付けるようになる、犯罪を企てていた人が犯行をやめるなどの効果が期待できます。
- 一方で、子供や地域住民から見られていることを意識し、態度や言動、身だしなみに注意しましょう。また、警察が実施するような交通整理等は控えましょう。



- ▶ 挨拶や声かけをしよう
- 子供への挨拶・声かけはもちろんのこと、地域住民への挨拶も積極的に言い、見守り活動を実施していることを皆さんに知らしてもらいましょう。
- 不審な行動を取る人や犯罪を企てている人は声をかけられることを嫌います。積極的な挨拶が、犯罪抑止につながります。
- 加えて、活動者同士でも積極的に挨拶をしましょう。活動者間のコミュニケーションは、地域コミュニティの活性化にもつながります。なお、良好なコミュニケーションには「挨拶(こんにちは)」が一言(状況はどうか？ 初めてお会いしましたか？ 等)のポイントです。

見守り活動者の方々へ 挨拶や声かけのポイント

- 子供たちの横断のために止まってくれた運転者に対して会釈するなどの、少しの違いが運転者の協力しようという意識につながります。
- コミュニケーションが苦手な子供もいます。挨拶を返さなかった子供に対して「挨拶しなさい」などと叱ることは控えましょう。

▶ 地域ぐるみで連携・協働しよう

- 見守り活動をさらに効果的なものにしていくため、学校や市町村、警察と連携し、地域ぐるみで活動しましょう。
- 地域内で実施されている他の見守り活動者や防犯ボランティア団体とも積極的にコミュニケーションを取り、見守り活動上の役割や見守る時間・場所を分担するなど、協働して活動しましょう。実際に活動している人をマッピングしてみると、見守りの空白地帯が分かりやすくなります。

市町村・学校の方々へ 見守り活動者と活動団体の連携・協働を主導しましょう

■ 市町村内で活動する団体間の連携を図るには、市町村や学校の協力が必要不可欠です。積極的に交流できる機会をつくりましょう。協議会や意見交換会、研修会等を開催するのも一つの手段です。

■ 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」において見守り活動を取り上げたり、学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の中で登下校の見守り活動を行うことも考えられます。

コミュニティ・スクール、地域学校協働活動について

「学校と地域でつくる学びの未来」
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>



▶ 「ホウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)」を意識しよう

- 活動中に感じたことや気付いたこと、危険を感じたときは活動者間で共有しましょう。簡単な活動日誌を付けている例もあります。
- 場合によっては、学校や市町村に共有すべきこともあります。事前に連絡体制を構築し、「誰に(〇〇先生、△△主事等)」、「どのように(電話、メール、FAX等)」情報を連絡すべきか決めておきましょう。
- 市町村・警察等が配信する安全・安心メールやSNSを登録し、通学路の安全に関する情報をチェックしましょう。

市町村・学校の方々へ 連絡体制を明確にしましょう

■ 活動者は、日々見守り活動をしていると、危険だと感じる場所や不審な行動を取る人がいることなど、様々なことに気が付きます。何かがあったときに、誰に、どのように連絡すればよいか明確にし、活動者に伝えておきましょう。

■ また、通学路の危険箇所や、活動中のできごと等、活動者からの指摘・相談にどのように対応したのか、対応するのかがフィードバックしましょう。



通学路に潜む危険とは? どのような場所や行動が危険か、考えてみましょう

雑木林

広がって歩く

建物裏

公園のトイレ

駐車場

公園からの急な飛び出し

空き地

空き家

路上駐車

生い茂った草木

交差点

信号のない横断歩道

青信号で急に走る

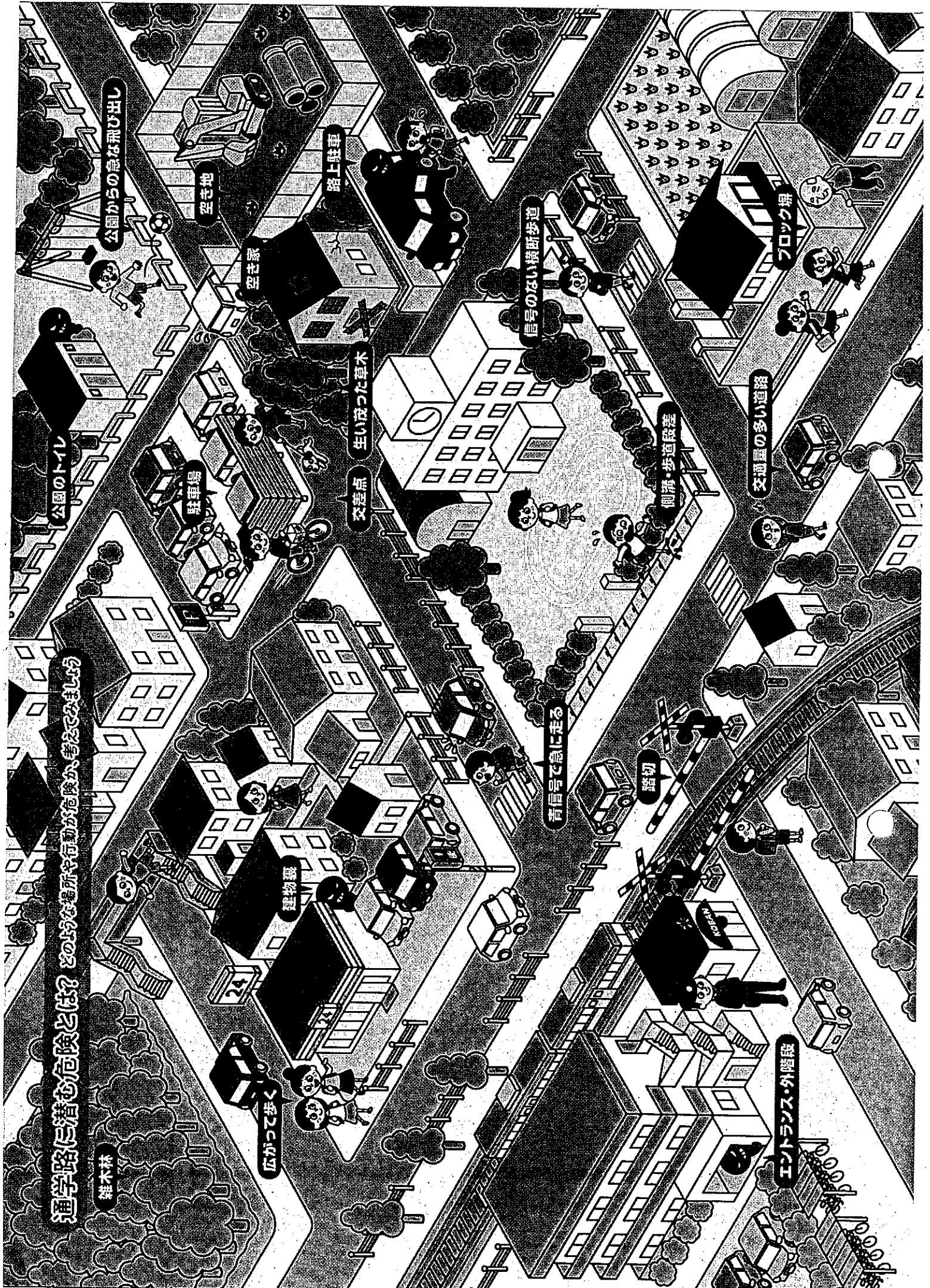
踏切

側溝・歩道段差

交通量の多い道路

エントランス・外階段

ブロック塀



見守り活動に係る注意事項

重点的に見守り活動を行った方がよい場所	交通安全の観点では、特に以下のような場所に注意が必要です。 ○ 交通量の多い道路 ○ 路側帯が狭い道路 ○ 車両の走行スピードが速い道路 ○ 交通事故が頻繁に発生している道路
見守り活動を行う際の留意事項	防犯の観点では、人通りが少なく、子供が一人になってしまいう場所 交差点などに立って見守るときには、自動車や自転車の死角とならない場所に立つようしましょう。 子供を横断させるために、過剰に自動車を停止させるなどの交通整理はやめましょう。 また、協力してくれたドライバーには一礼をするなど配慮しましょう。

子供の行動・特性に係る注意事項

- 子供(特に低学年の子供)は大人より視野が狭く、視点も低い
ため、大人と同じように危険を感じていないことがあることに
留意しましょう。

子供の行動・特性	注意事項(チェックポイント)
飛び出し	公園などからの急な飛び出しに注意が必要です。 自転車・歩行者との出会い頭の衝突の危険があります。
急に走る	青信号に変わったときや踏切の遮断機が上がった途端に走り出す子供に注意が必要です。
広がって歩く	自転車などとの衝突の危険が高まります。また、他の歩行者や自転車の迷惑となるので注意が必要です。

忘れ物に気づき家に取りに帰ろうとする子供は、集団登校から離れ一人になつてしまっただけでなく、忘れ物を取りに帰ることに集中するあまり、周りが見えなくなってしまうことがあるので特に注意が必要です。

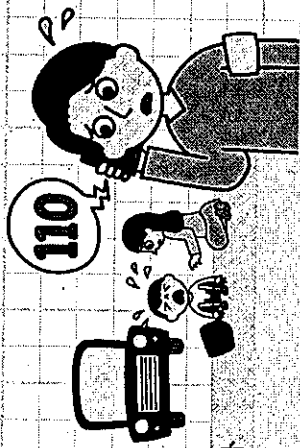
注意が必要な場所の例

場所	状態(チェックポイント)
交差点	子供の飛び出しなど、出会い頭の事故のおそれがある場所です。
駐車場	駐車している車が死角となり、子供たちが隠れてしまうため、目が届きにくくなります。また、犯罪を企てている者が身を潜めやすい場所でもあります。
路上駐車	路上駐車は、その車両を避けて車道を歩くことによる交通事故の発生や、車からの声かけ、車への連れ込みなどのおそれもあり、歩道の区別がない通学路では特に危険な場所です。
高架下・トンネル	特に夕方以降は暗くなるので注意が必要です。周囲からの見通しが悪く、人の目が届きにくくなる場所です。
(集合住宅等の)エンタランスや階段	集合住宅等のエンタランスや階段は、周囲からの死角となるほかに帰宅時の子供が一人になる瞬間でもあり、犯罪を企てている者に狙われやすい場所でもあります。
建物裏	人通りのある大通りから見えにくいなど、建物裏は死角となり、人の目が届きにくくなる場所です。
公園のトイレ	トイレの中はもちろん、トイレの裏側なども人の目が届きにくい場所です。
ブロック塀	背の高いブロック塀は死角となり、子供たちが周囲から見えにくくなる場所です。また、適切な管理がなされていない場合、倒壊することによるケガのおそれもあります。さらに、落書きなどがあると、地域の不安感につながります。
空き家・空き地	人の目が少ないほか、建物は死角となる場所です。また、老朽化した建物が倒壊するおそれもあります。
雑木林	雑木林の中は人の目が届きにくい場所です。一方、子供にとっては遊び場として魅力的なもので、興味本位で中に入ってしまう子供に注意が必要です。
田畑	農作業をしていない時間は人通りが少なく、人の目が少ない場所です。また、ビニールハウスは周囲からの見通しも悪く、人の目が届きにくい場所です。
生い茂った草木	通学路にはみ出した草木は安全な通行の妨げになります。
側溝・歩道段差	側溝蓋のスレや歩道の段差は安全な通行の妨げになります。子供がつまづき、ケガをするおそれがあります。

③ こんなときどうする

活動中に交通事故や犯罪、不審な行動に遭遇したら

- 活動中に事故や犯罪に遭遇したら、自らの安全を確保した上で、すぐに110番通報しましょう。
- 必要に応じて学校や市町村へも報告しましょう。



見守り活動者の方へ 緊急通報のポイント

■ 通報前には深呼吸をしましょう。

● 緊急事態に遭遇すると、どうしても焦ってしまいます。身の安全を確保した上で、まずは深呼吸してみましょう。

■ 適切な情報伝達を心がけましょう。

● 落ち着いて、次の情報を正確に伝えましょう。

- 何が起こったのか(誰がどういった被害に遭ったのか)
- いつ・どこで起こったのか
- 自分自身が今どこにいるのか、周囲はどういう状況か
- (できれば)犯人や事故を起こした車の特徴、逃走した方向

※自分の居場所がすぐにわからない場合は、道路名、交差点名、電柱・標識等の情報を伝えましょう。

市町村や学校の方へ

■ 何かあったらすぐ通報するよう伝えましょう

■ 見守り活動はあくまでもボランティアであり、活動者の安全が第一です。活動者に対しては、何かあったら自分で対処しようとせず、すぐに110番に通報もしくは学校・市町村へ連絡するよう依頼してください。

活動中に危険箇所や不審な行動を発見したら

- 活動中に、通学路の危険箇所や、不審な行動を目撃したら、学校や市町村へ連絡・相談しましょう。
- 緊急性が高いと判断した場合は、警察へ連絡するようにしましょう。
- 報告事項について、様式を作成している例もあります。

具体例 情報連絡シート(例)

■ 情報共有の際には、次のような項目を報告しましょう。

報告日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
報告者	〇〇〇〇 (活動団体名: 〇〇〇〇〇〇〇〇)		
項目	危険箇所の発見		不審な行動の目撃
時間			〇〇時〇〇分頃
場所	〇〇交差点付近 〇〇〇～〇〇〇までの道のり		〇〇公園内
具体的内容・特徴	〇〇交差点手前で側溝の蓋が外れている 〇〇～〇〇付近の草木が通学路を邪魔している		遊んでいる子供たちに長時間スマホを向けている人がいた
その他	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
対応	〇〇担当課へ連絡 (〇月〇日) → 対処(〇月〇日)	〇〇警察・学校へ連絡 (〇月〇日) → 巡回を強化すること	

④ 持続可能な活動に向けて

無理をしない、無理をさせない活動を心がけよう

- ▶ 活動は、日頃の行動範囲を中心に行おう
- 見守り活動場所の分担は、活動者の自宅や通勤先等を基準に考えよう。
- 活動場所までの移動手段を踏まえて、活動範囲を無理なく決めよう。
- ▶ ライフスタイルに合った活動しよう
- 時間帯や頻度、方法はライフスタイルに合わせて無理なく活動しましょう。
- 各自が少しずつ、できる範囲で子供や地域に目を向けることが大切です。

▶ 楽しく活動しよう

- 一人一人が協力し合い、楽しく活動しましょう。
- 活動者同士だけでなく、保護者、学校、市町村、警察、地域住民等が思いやりながら、互いに強制することなく楽しみながら活動することが大切です。

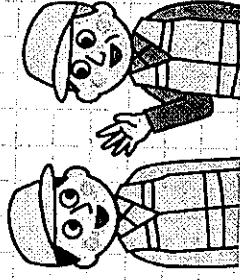
見守り活動者の心

見守り活動者の心ケアにも留意しましょう

- 活動中、通学路で何かが起こっても活動者に責任はありません。しかし、活動者は心を痛め、自らを責めてしまう方が多く見受けられます。活動者がいなくなることは地域全体の損失となるため、活動者はあくまでもボランティアで、かつ責任はないことを広く周知することが大切です。

コミュニケーションを大切にしよう

- ▶ 挨拶をしよう
- まずは挨拶を大切にしましょう。
- また、「お疲れ様」ありがとうなどの言葉をかけ合い、互いに気持ちよく活動しましょう。



- ▶ 日頃から顔を合わせ、交流を深めよう
- 活動者同士が顔を合わせる機会をつくりましょう。
- 意見交換会や連絡会、ワークショップ、研修会等は活動者同士の理解を深め、信頼関係を醸成するよい機会です。
- 見守り活動者同士の絆は、地域コミュニティの絆にもつながります。

見守り活動者の労へ

日頃からコミュニケーションを取り、顔の見える関係づくりをしましょう

- 適切な情報共有に向け、日頃から他の活動者、市町村・学校担当者とのコミュニケーションを図り、いざというときのために、顔の見える関係づくりをしましょう。こうした関係づくりは、地域コミュニティの活性化にもつながります。

市町村等の労へ

コミュニケーションの場を提供しましょう

- 地域全体で見守り活動を実施するには、市町村や学校がコミュニケーションの場をつくるのが大切です。意見交換会や連絡会、ワークショップ、研修会等、できるだけ多くの活動者が一堂に会することのできる場を積極的に提供しましょう。
- また、こうした場で活動者のニーズを把握することも重要です。

いろいろな人を巻き込もう

- ▶ 見守り活動者の募集方法を工夫し、様々な世代を巻き込もう
- 積極的な情報発信を行い、老若男女、様々な世代の活動者を募集しましょう。
- 情報発信する際には、幅広い世代の活動者を確保するため、市の広報誌やホームページだけでなく、SNSや学校の広報誌・ホームページを活用するなど、募集する方法を変える工夫をしましょう。
- また、募集に当たっては、活動者のメッセージを入れるなど、読んでもらう工夫をしましょう。

PTA 2 みんなに知ってもらえたら、活動しやすくなります

京都市立御室小学校「御室」子ども見守り隊 隊員(大学院生)

大学2年生のときに、苦手な早起きを克服したいという思いと、学校や子供が好きな何か役に立ちたいという思いから見守り隊に参加しました。
活動開始当時は一人だけ年齢が離れていたためか「あの人は誰?」「なぜ立っているの?」と思われたこともありました。しかし、PTAの広報誌に顔写真付きで見守り隊の活動が紹介されてからは、保護者や子供の理解も得られ、活動中に声をかけていただくなど、活動がしやすくなりました。

見守り活動者のモチベーションを向上させよう

- ▶ 積極的に情報発信をしよう
- 見守り活動の様子などを知ってもらうことは、活動のしやすさや、活動者のモチベーションアップにつながります。
- 様々な手段を活用し、積極的に情報発信をしましょう。
- ▶ 日頃から感謝を伝えよう
- 活動者にとって子供や地域の人からの「ありがとう」の一言はとても励みになります。
- 活動者に感謝の気持ちを届けるために、学校や市町村がそういった機会を設けるのもよいでしょう。

いつもありがとうございます。
みんなのこうつうルールを見まもってくれてありがとうございます。
雨の日もあつい日もせむい日もありがとうございます。
〇〇小学校 △△より

市町村・学校の方々へ 見守り活動者への感謝を忘れないようにしましょう

■ 見守り活動の実施は一般的な取組となりましたが、見守り活動者が“いて当たり前”ではありません。保護者や子供による感謝の金を開いたり、日頃から見守り活動が地域にもたらす安心感を積極的に発信するようにしましょう。

PTA 3 子供たちの成長も見守っています

石川県金沢市立夕日寺小学校「夕日寺スクールサポーター隊」隊員

活動を続けていると、1年生だった子供がいつの間にか6年生になっていたり、卒業生の中学生や高校生が挨拶をしてくれたりと、子供たちの成長を見守ることに喜びを感じています。